

327
786

6 7 8 9 6^{cm} 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 7^{cm}

始



納本

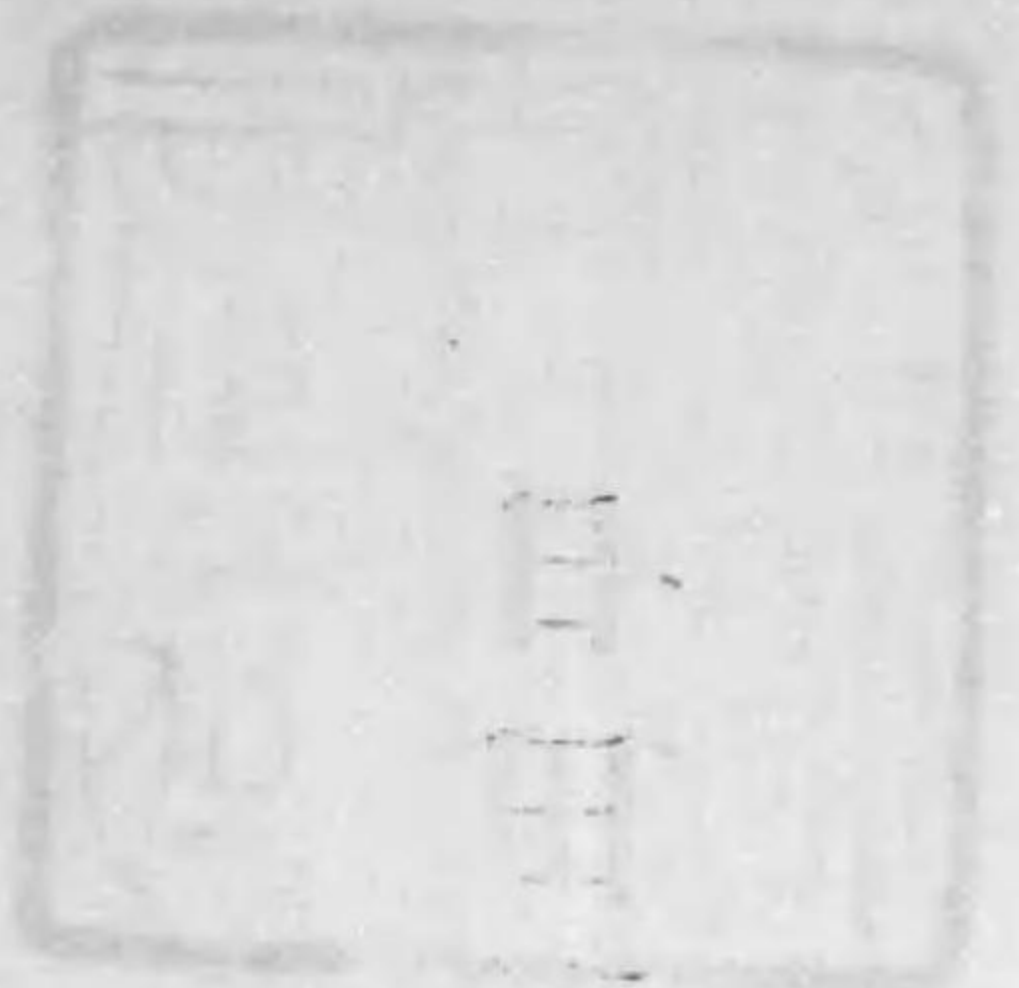
日田郡自治民育資料

327-786



日田郡自治民育資料





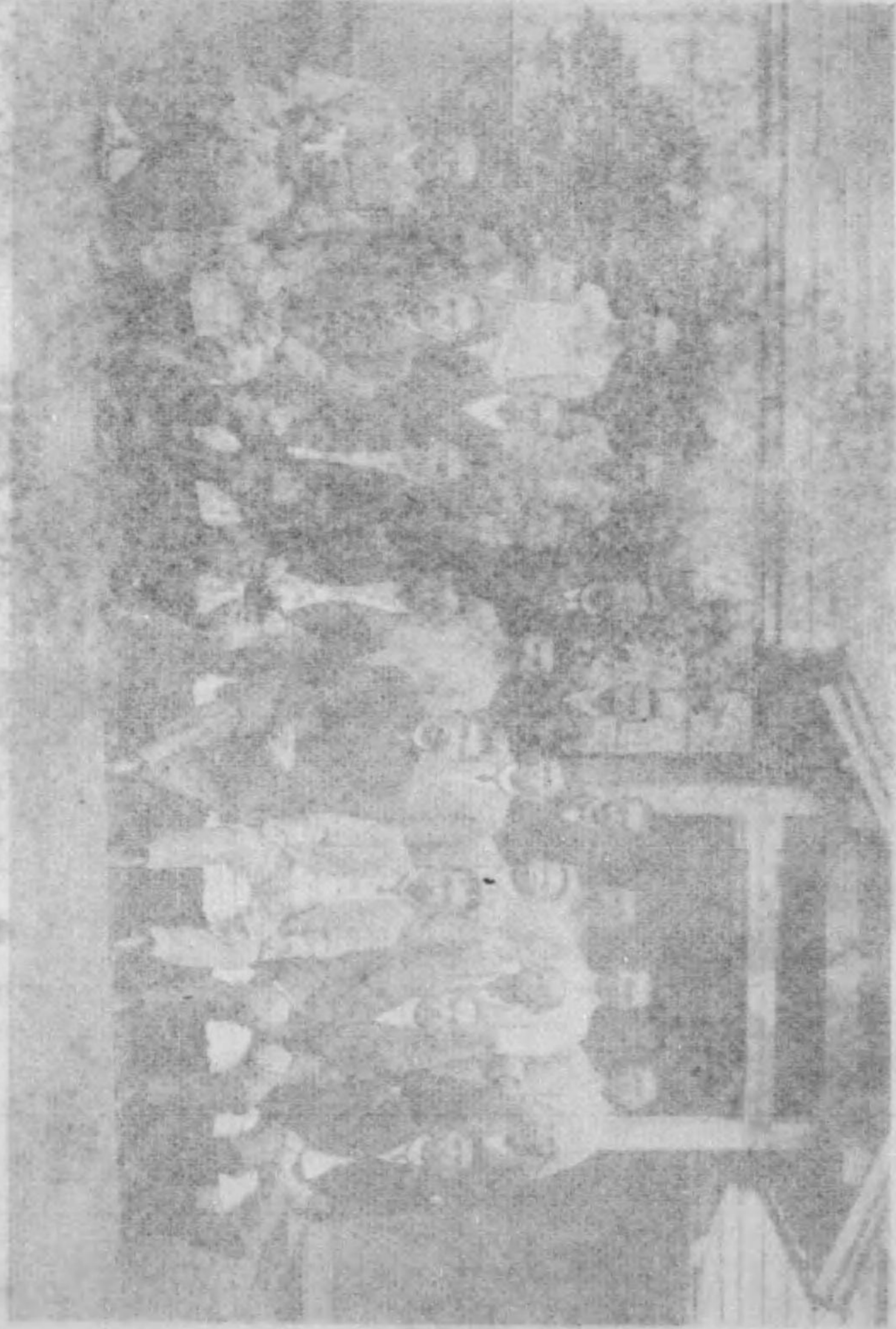
序

大正四年禾穀豐穰ノ秋
今上陛下卽位ノ大禮ヲ行ハセ給フ四海ノ内老幼士女唯
舞シテ歡呼シ山川鬼神亦踊躍シテ先後ス此ノ時ニ方リテ
芹曝ノ誠衷葵藿ノ至忱ヲ表シ曠古ノ盛儀千載ノ嘉會ヲ記
念スルハ素ヨリ其所ニシテ茲ニ日田郡自治民育資料ヲ
編纂スルノ意亦實ニ之カ爲ナラズンバアラズ
翻テ思フニ郡政ノ進運ハ職トシテ町村自治ノ成績ニ由ル
抑町村自治ノコトタル教化ノ向上財政ノ變理産業ノ振興
風俗ノ改善等其ノ範圍極メテ多岐ナリト雖要ハ汎ク各科
ノ資料ヲ蒐メ近ク先人ノ遺業ニ鑑ミ郷邑協同民人和衷シ
以テ其ノ功果ヲ偉大ナラシムルニアリ我カ日田郡ハ天惠

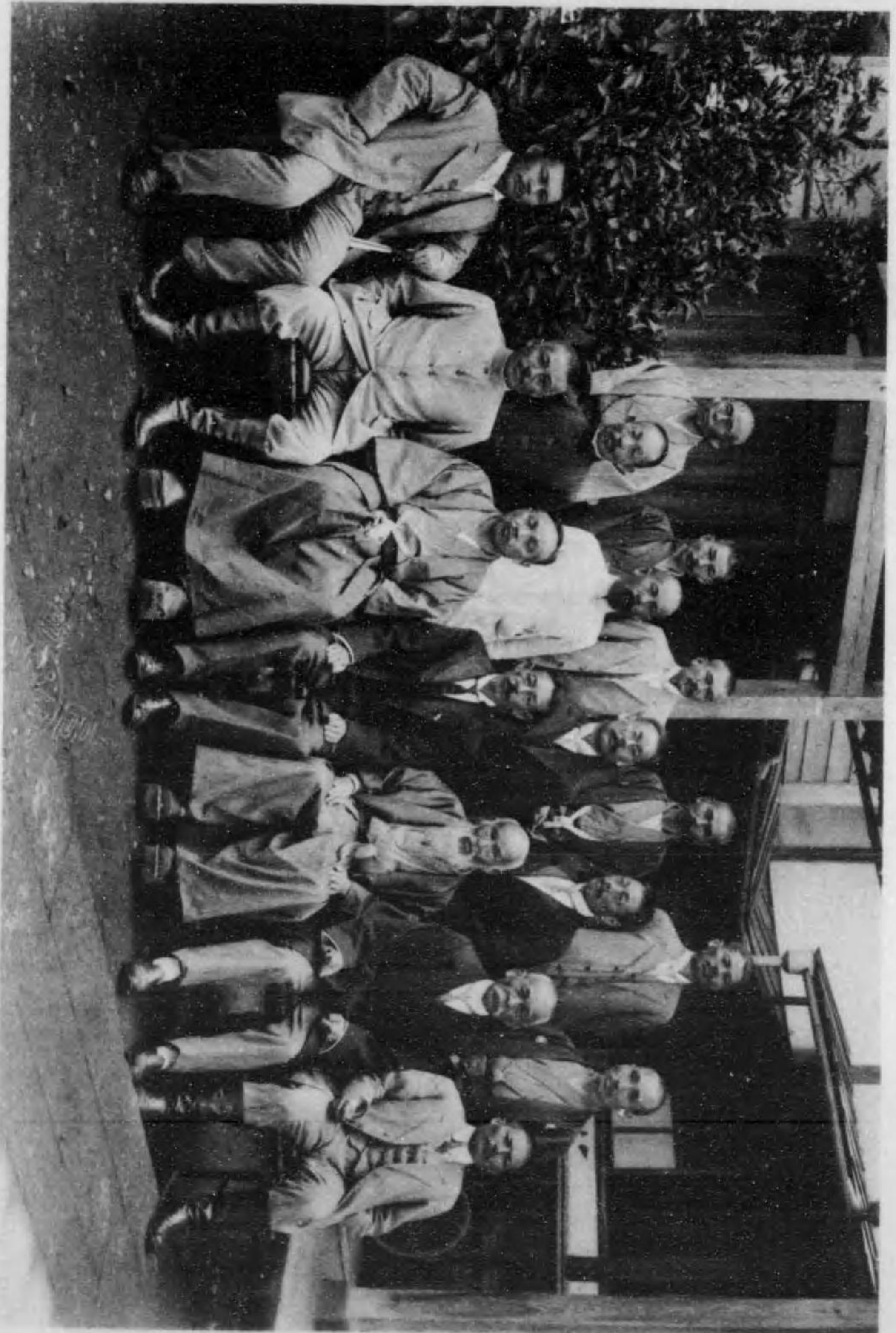
豊饒ノ地ニシテ加フルニ古來學界ニ政治界ニ將タ殖産興
 業界ニ偉人傑士ノ輩出セルモノ甚多ク其ノ流風餘烈資リ
 テ以テ自治ヲ奨ムベク儀リテ以テ民風ヲ揚ゲシムベシ本
 書編纂ノ舉豈啻ニ盛典奉祝ノ記念ト之レ云ンヤ恭シク惟
 ルニ 聖帝民ヲ作スノ叡意亦蓋シ此ニ在テ存セン乎
 今ヤ刻成リ之ヲ郡内公共團體ヲ首トシ又普ク有志ノ人ニ
 頒ツ庶幾ハ自治ノ粹ヲ鍾メ民育ノ美ヲ濟スニ裨補シ進テ
 郡治ノ圓滿發展ニ資スル所アランカ一言以テ卷首ニ
 弁
 ■
 ス

大正四年歲次乙卯十一月

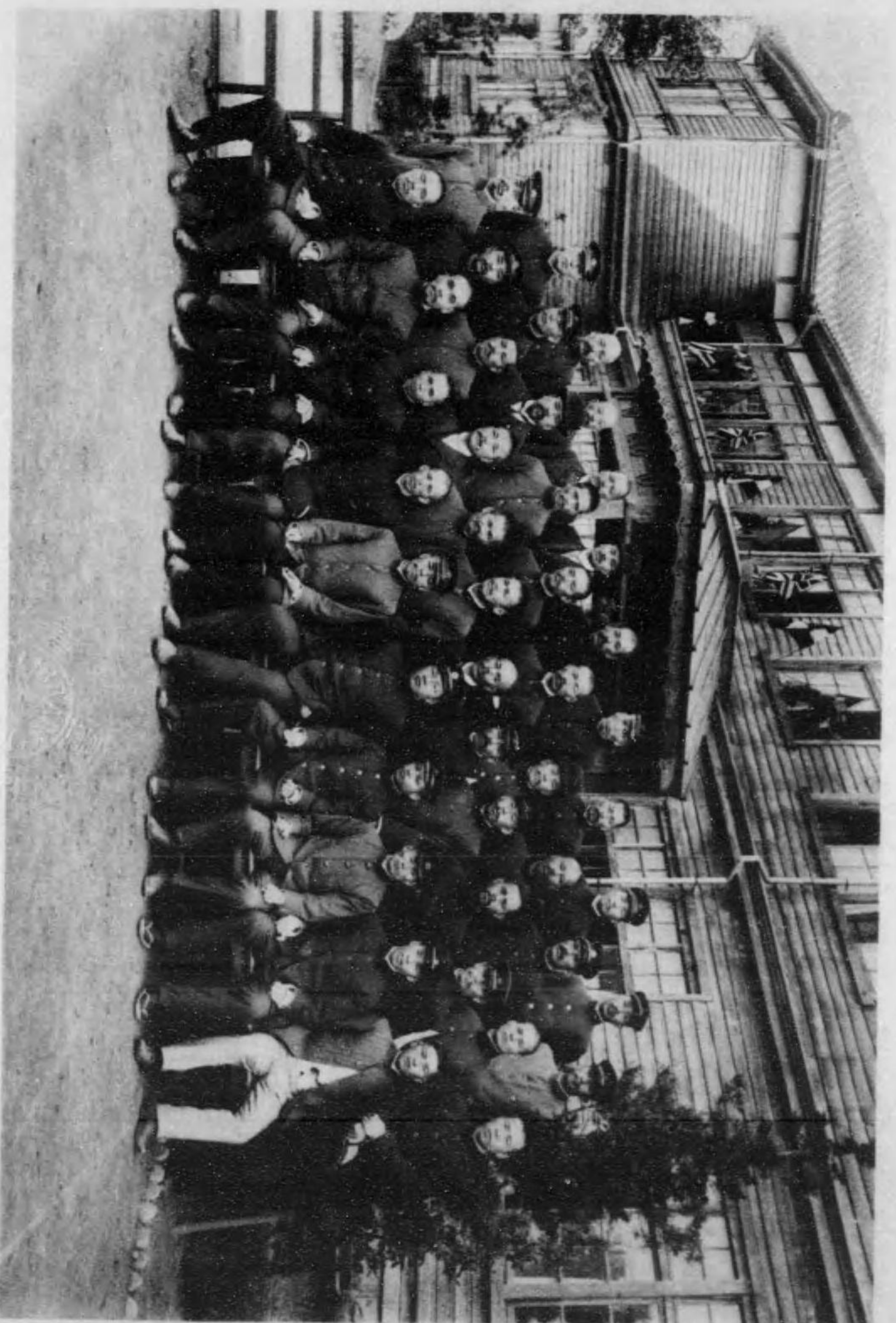
日田郡長 宇都宮 喜六



日田郡長 宇都宮 喜六



長 村 町 那 田 日



長校學小立村町各那田日

凡例

- 一、本書ハ主トシテ自治民育ニ關スル資料ヲ蒐集セルモノナリト雖固ヨリ一定ノ系統アルニアラス殊ニ上梓急ヲ要シタルニ依リ材料ノ選擇繁簡ノ取捨宜シキヲ得サルモノアルヘシ是レ畢竟推敲ノ餘日ヲ許サザリシガ爲ナリ。
- 一、故人ノ事歴ハ小傳トシテ之ヲ記シタルモ現在ノ人ニシテ其ノ善行美蹟ノ表彰セラレタルモノハ多クハ單ニ辭令文ノミヲ寫スニ止メタリ。
- 一、人物列叙ノ順序ハ廣瀬家ハ之ヲ一括シ其他ハ歿年順ニヨリテ次第セリ、但表彰者ハ其ノ種類ニヨリ更ニ年次ニ從ヒテ採録シタリ。
- 一、本書編纂當時ニ於ケル廳員氏名其他町村長、小學校長、郡會議員諸氏ノ芳名ヲ左ニ録ス

大正四年十一月

郡役所及同廳内諸團體職員

郡	廳
書	員
記	
伊	岡
藤	本
磯	喜
熊	市

郡書記	鈴木勝馬
農業技手	辛島誠治
郡書記	伊藤房太郎
同	石田貞彦
同	甲能吉策
同	上田市右衛門
同	外園米藏
同	朝來猪三郎
同	諫山正
同	小野鶴松
同	甲能義次郎
同	平島健藏
同	島村太郎
同	松本弘
同	池内政吉

日田郡町村長

西有田村長	中島竹藏
東有田村長	帆足悅藏

郡農會	工藤左馬太
縣日田郡駐在 農會技手	木南英太郎
產牛馬組合	佐藤真吉
技手(兼)書記	佐藤壽平
農業技手	佐藤倉一
同	佐藤貞吉
林業技手	香田虎吉郎
土木技手	山本封正
雇	高木滿義

三花村長	財津永義
小野村長	權藤勘八
大鶴村長	一ノ宮廣太
夜明村長	森山安士
光岡村長	伊東竹次
朝日村長	田島永昌
日田町長	幸惟敏
三芳村長	古後一之助
馬原村長	高倉重策
五和村長	後藤龍藏
高瀬村長	長芳左衛門
前津江村長	時枝信一
中津江村長	合谷三郎
上津江村長	井上守
大山村長	桑野住吉

四

日田郡小學校長

西有田村	有田尋常高等小學校長	大內龍次
東有田村	東有田尋常高等小學校長	坂本數雄
東有田村	月出山尋常小學校長	吉武與市
東有田村	羽田尋常小學校長	高倉藤太
三花村	三和尋常高等小學校長	鈴木昂一
三花村	花月尋常小學校長	古野福市
小野村	南小野尋常小學校長	今永千代吉
小野村	北小野尋常高等小學校長	野田若市
大鶴村	鶴城尋常小學校長	黒木朝雄
大鶴村	靜修尋常高等小學校長	片島榮市
夜明村	夜明尋常小學校長	森山繁喜

五

中川村長
五馬村長

織田乙子
德永新藏

光岡村	光岡尋常高等小學校長	熊谷新六
朝日村	朝日尋常小學校長	河野常五郎
日田町	日田男子尋常高等小學校長	小野京市
日田町	日田女子尋常高等小學校長	大内甚六
三芳村	日高尋常小學校長	草野富吉
三芳村	元宮尋常小學校長	功能唯一
馬原村	馬原尋常小學校長	杉森種六
馬原村	高尾尋常小學校長	佐藤寬吾
五和村	石井尋常高等小學校長	後藤貞義
五和村	小山尋常小學校長	御幡不二男
五和村	堂尾尋常小學校長	西見隆一
高瀬村	高瀬尋常高等小學校長	高原力太郎
前津江村	大野尋常高等小學校長	森山村太郎
前津江村	赤石尋常小學校長	長尾龍太郎
前津江村	出野尋常小學校長	小畑守

前津江村	柚木尋常小學校長	藤報因
中津江村	丸藏尋常小學校長	田崎茂
中津江村	鯛生尋常小學校長	丸尾鴻治
中津江村	川邊尋常高等小學校長	梶原伊三郎
上津江村	川原尋常小學校長	桑野勝藏
上津江村	上野田尋常小學校長	關屋熊五郎
大山村	大山尋常高等小學校長	清瀧屯
大山村	東尋常小學校長	安永林太郎
大山村	都築尋常小學校長	小谷光之丞
大山村	鎌手尋常小學校長	小野穰次
中川村	丸山尋常高等小學校長	淵嘉市
中川村	臺尋常小學校長	大藏光雄
中川村	櫻竹尋常小學校長	柴原小市
五馬村	五馬市尋常高等小學校長	深草滿
五馬村	塚田尋常小學校長	日隈小一郎

日田郡會議員

五馬村 出口尋常小學校長

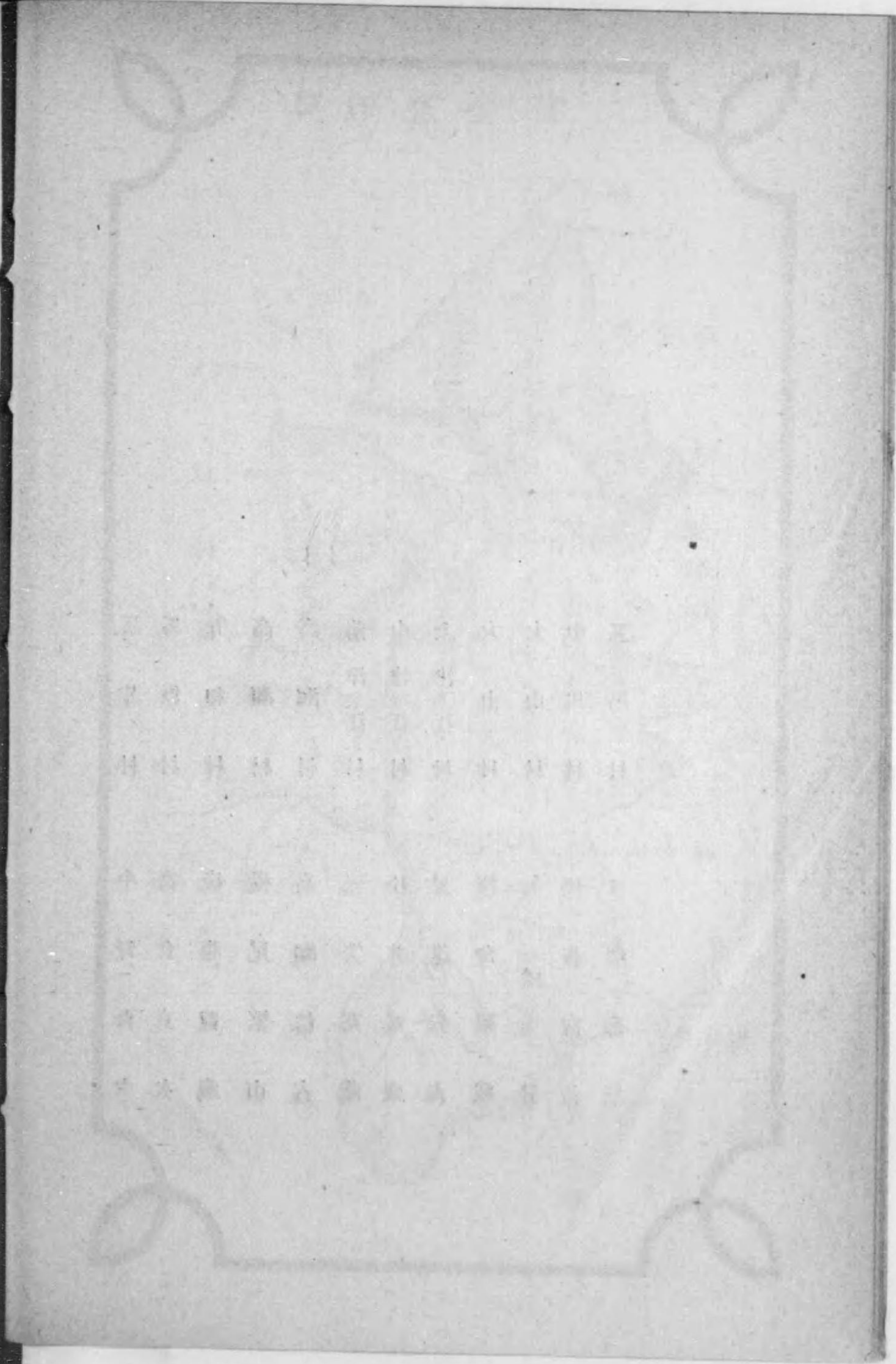
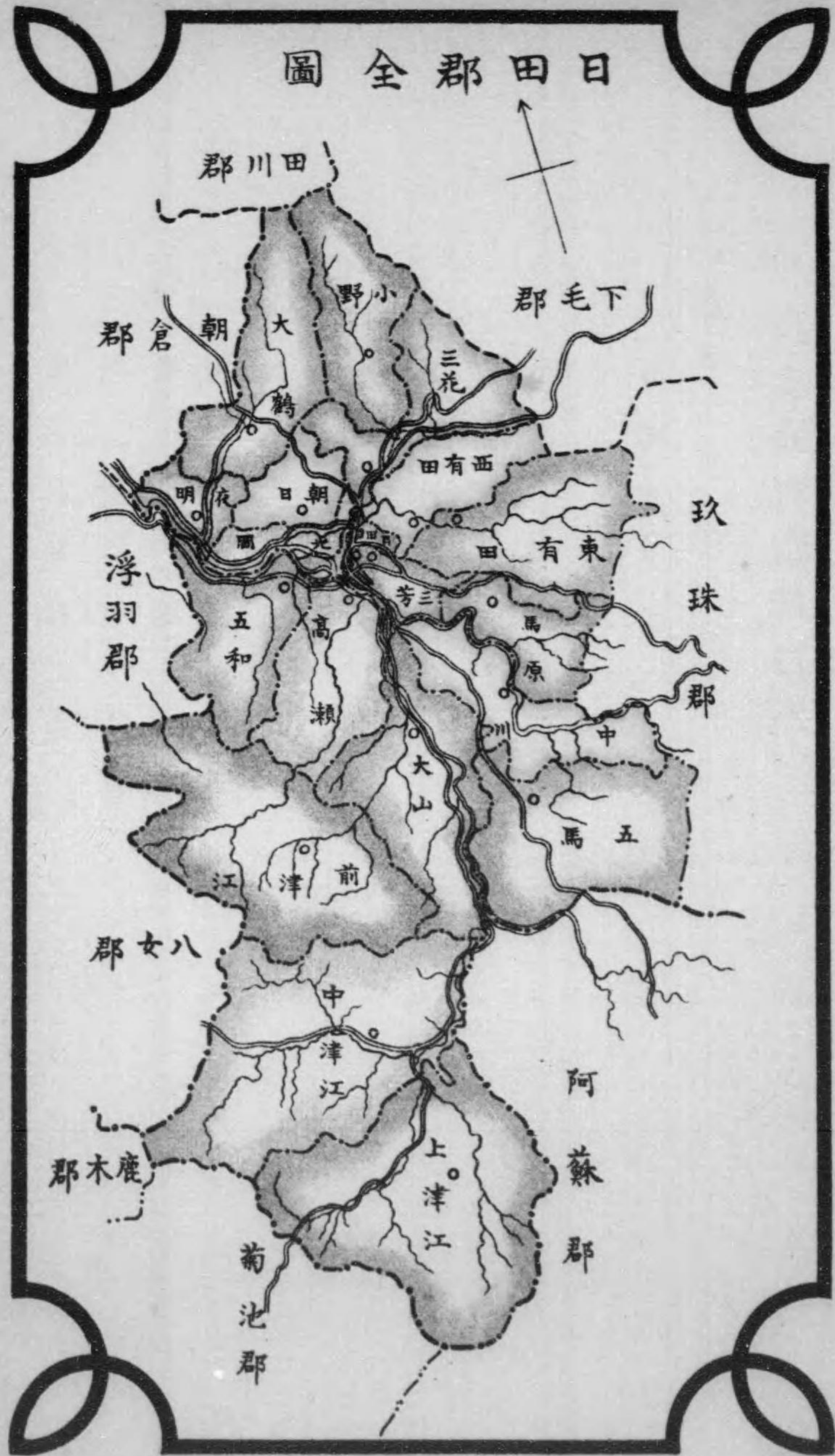
得能種生

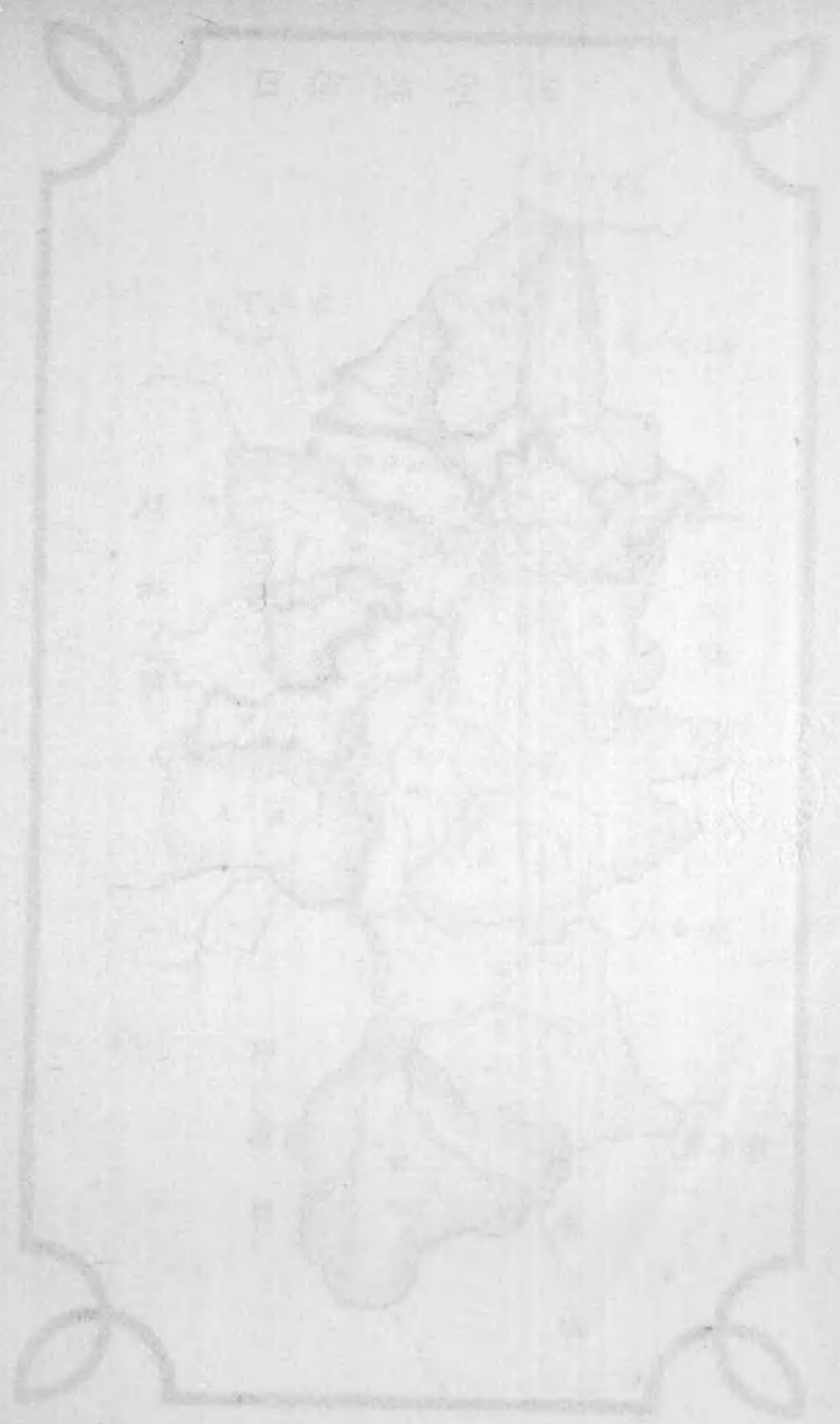
八

日	日	日	日	朝	光	夜	大	小	三	西	東
田	田	田	田	日	岡	明	鶴	野	花	有	有
町	町	町	町	村	村	村	村	村	村	田	田
佐	後	古	森	蒲	武	森	森	筑	安	中	長
藤	藤	賀		池	內	山	山	紫	岡	島	尾
秀	豐	甚	千	浦	秋	安	知	磯	爲	竹	主
則	三	四	藏	太	市	士	誠	彦	吉	藏	一
	郎	郎									郎

五	中	大	大	上	中	前	高	高	五	馬	三
馬	川	山	山	津	津	津	瀬	瀬	和	原	芳
村	村	村	村	江	江	江	村	村	村	村	村
日	佐	矢	朝	足	松	三	高	横	後	高	中
隈	藤	幡	倉	達	井	筈	瀬	尾	藤	倉	野
節	富		福	辰	福	寛	仁	繁	龍	貞	百
三	治	昇	藏	吉	藏	藏	吉	市	藏	次	次

日田郡全圖





自治民育資料目次

一、過去ノ人物

秋風菴月化	一
廣瀬貞恒	二
廣瀬淡窓	三
廣瀬秋子	七
廣瀬久兵衛	九
廣瀬旭莊	一三
廣瀬青村	一五
廣瀬林外	一八
穴井六郎右衛門	二一
僧法蘭	二二
僧寶月	二三
易行院法海	二三

一、賞勳局其他官廳及團體ヨリ表彰セラレタル者

高山ツサ子	二五
大藏永常	二五
鹽谷代四郎	二七
森伊左衛門	三〇
長春堂	三一
鳳山和尚	三二
平野五岳	三四
千原夕田	三五
長三洲	三六
大谷宗三郎	三七
千原藤一郎	三八
日隈多聞	三九
伊藤壯兵衛	四二
井上市米	四五

清水トミ	四六
安心院清右衛門	四六
高村喜七	四六
川村忠太	四七
河津藤平	四七
長谷部森右衛門	四八
井上善一	四九
堀イサ	四九
小野藤四郎	五〇
井上ソテ	五一
森玉吉	五二
長野直恕	五三
田島永通	五四
日隈精一	五五
井上武	五六

坂井喜平	五六
尾續傳次郎	五七
伊藤助市	五八
加藤ブン	五九
岡邊リツ	六〇
梅木作次	六一
巨山憲亮	六二
小野京市	六二
片島榮市	六二
合谷恒作	六三
今永千代吉	六三
高原力太郎	六三
中島竹藏	六四
同人	六四
同人	六四

一、過去及現在ニ於ケル民育的施設

井上清次	六五
檜原幸太郎	六五
鹽川直次	六五
日隈精一	六五
中川角次	六六
森山定吉	六六
濱田織藏	六六
財津寛一	六六
伊藤助市	六七
時枝信一	六七
中島市三郎	六八
咸宜園	六九
陰徳倉	七二
養育館	七三

淡窓圖書館……………七四

六

一、郡民ノ尊崇厚キ社寺

大波羅社……………七五
岳林寺……………七六

一、治蹟及事業ノ優良ナルモノ

西有田村……………七七
中津江村字津江産業組合……………九五
高瀬村耕地整理……………一〇五
東有田村殖林……………一一〇
中津江村八所實行會……………一一一
光岡村役場……………一一四
三芳村—求來里青年會……………一一五
五和村—堂尾青年會……………一一八

一、優良青年會

一、各種團體ノ沿革及事業

日田郡興農會……………一二〇
日田郡教育會……………一二七
日田郡農會……………一三六
日田郡產牛馬組合……………一四〇
一、忠死軍人……………一四七
一、大典記念事業調……………一五八
一、生産物價格調……………一六一
一、郡勢調……………一六五
一、表彰者補遺……………
時枝信一……………一八一
財津永義……………一八一
川津波平……………一八二
中島仙次……………一八二

七

石井種二郎	一八三
梅山佐平	一八三
中川角次	一八四
石橋亮一	一八四
和田良太郎	一八五
津野今次	一八五
橋岩太	一八六
今村淺吉	一八六
井上トヲ	一八七
佐藤ウタ	一八七
村上ツ子	一八八
武内惣治	一八八
森山ツルヨ	一八九
本田秀次郎	一八九
田代部落	一九〇

日田郡自治民育資料

一、過去ノ人物

秋風菴月化



日田郡役所門前ニ一苔碑アリ櫻塚ト稱ス「末世ごは何んていふた
 を初さくら」ノ一句ヲ勒シタルモノ是即碩儒廣瀨淡窓ノ伯父月化
 翁ノ面影ニシテ筆跡勁健其ノ人ノ氣象ヲ見ルニ足ル、翁ノ歿後二
 世秋風菴ノ建設セル所ナリ。

翁、通稱本入 桃潮ト號ス月化ハ其ノ俳號ナリ天明元年辛丑ノ歲日田ノ景地ヲ撰ミ菴ヲ營ミテ秋風ノ
 靜ナルヲ樂ム芭蕉葉ノ破レ易キヲ愛ストイハレシ祖翁ノ心ニモ適ヘリ此ノ歲家ヲ弟三郎右衛門ニ讓リ
 專ラ俳諧ニ耽リ斯道ノ盟主タリ今日翁ノ流ヲ酌ミテ我縣下ニ名ヲ成セルモノ甚鮮ナカラズ翁ノ發句ハ
 骨氣雄高實ニ晋子ノ流亞ナリトイヘリ。而シテ文章亦頗ル暢達セリ。
 文政五年、年七十六病ミテ歿セリ、現在ノ淡窓圖書館ト相並ヒテ存セル瀟洒タル茅葺ノ家屋ハ即由縁

深キ秋風菴ノ舊跡ナリ。著書左ノ數十種アリ。

秋風菴月化發句集	二冊	秋風菴文集	二冊
押華備忘錄	十九冊	秋風菴發句	五冊
文章草稿	三冊	文集草稿	三冊
押華廿八點以上記	二冊	四季發句草稿	四冊
歌仙四十餘卷	一冊	秋風菴發句抄	二冊
雅事備忘錄	一冊	於爾之新己草	三冊
袖珍抄本式並古式問書	一冊	歸雁ノ便	一冊

廣瀨貞恒

名ハ三郎右衛門初メ二世秋風菴後ニ長春庵ト稱ス周山、二江亭又ハ桃秋ト號セリ豊後日田ノ人資性温厚家素商ヲ業トセシモ利慾ニ淡クシテ慈悲心ニ富ミ又文學ニ長シ能書ノ聞ヘ高ク筆跡道美其ノ資性ニ稱フ最稗史ヲ嗜ミ箒木ト名ケシ小説(十五冊)ノ著述アリ俳諧ニ於テハ斯道ノ宗匠タリ筑後吉井町東光寺ノ住職後藤圓淨ノ女孺伊ヲ娶ル貞淑ニシテ慈悲心深ク七男三女ヲ生ム淡窓ハ其ノ長男ニシテ安利子久兵衛(南陔)三右衛門(棗園)彌六(秋雄)謙吉(旭莊)等アリ天保五年十月年八十四ニテ歿ス。

廣瀨淡窓



諱ハ廉郷後ニ建、字ハ子基、幼名玄簡通稱ハ求馬淡窓ハ其號ナリ別ニ苓陽ト號セリ天明二年壬寅四月十一日ヲ以テ豊後日田町豆田魚町(現ニ廣瀨宗家ノ居住セル所)ニ生ル、父ハ三郎右衛門貞恒ト稱シ淡窓ハ其ノ長子ナリシモ性來多病ニシテ農商ノ業ヲ喜バズ家

ヲ弟久兵衛ニ讓リ自ラ學ニ志ス幼ヨリ穎悟神童ノ稱アリ、寛政九年十六筑前ノ龜井昭陽ノ塾ニ入ルヤ刻苦勉學爲ニ寢食ヲ廢スルニ至ル斯クテ學ブコト三年學業大ニ進ミ家ニ還リテ後モ孜々トシテ學ニ努メタリシガ此ノ頃ヨリ宿病頻リニ動キテ起居自由ナラザルニ至リ父母伯父母ノ憂愁一方ナラザリシガ妹安利子ノ懇切ナル看護ニヨリ病勢漸クニシテ退キタリ斯クテ後家居保養ノ傍獨學セシガ天資強記而カモ驚クベキ思索力ヲ有シ汎ク群書ヲ涉獵シ又詩學ニ造詣セリ、文化二年二十四ニシテ愈々儒ヲ以テ畢生ノ業トナスニ決シ遂ニ開塾ヲ開キ規則八十二條ヲ定メテ專ラ門生ノ訓育ニ從フニ至リシナリ。淡窓二十九歳ノ時合原氏ヲ娶リシモ子ナシ即チ父君ノ命ニ依リ季弟謙吉旭莊ヲ以テ嗣子トシ文化十三年四十九歳ノ時一ハ先生自ラ修學ノ爲ニ旭莊ノ身分形付ノ爲自ラ退隱シテ家業ヲ旭莊ニ相續セシメ塾政ヲ一任セシモ天保七年旭莊故アリテ東遊スルニ及ヒ淡窓再出デ、之ヲ監スルニ至レリ其ノ終

生ノ歴史上更ニ偉大ヲ飾ルベキ幾多ノ事蹟ハ此ノ後半世ニ於テセラレ淡窓ノ所謂春秋再出ノ時代ニ屬スルモノニシテ即チ後世ニ傳フベキ各種ノ著述モ此ノ以後ノ手ニ成レルモノナリ又今日ノ授爵ノ恩典ニモ比スベキ永世苗字帶刀允許ノ榮典ニ浴シタルハ天保十三年淡窓六十一歳ノ時ニシテ彼ノ一世ノ偉人タル幕府勘定奉行川路左衛門尉聖謨、大目付筒井肥前守政憲兩使ハ露國使節フテンテト長崎ニ於テ折衝セン爲下向セラレタルタリトノ田代(肥前)ニ於ケル會見ハ淡窓七十三歳ノ安政元年正月ナリ、而シテ其ノ歳十月病大ニ動キシモ十一月再筆ヲ執ルニ至リ爾後尙時々經テ講ジ詩文ヲ添削シ消遙日ヲ送ルノ閑ナク歿スルニ至ルマデ終生子弟ノ教授ヲ廢スルニ至ラザリシハ其ノ篤學後人ノ大ニ學ブベキ所ナリ。

淡窓ハ學識深遠ニシテ人格亦極メテ崇高ナリ其ノ門生ヲ率フルコト嚴正ニシテ毫モ假借スル所ナシト雖モ之ヲ導クコト亦懇切ナリ宜ナルカナ人材彬々トシテ其ノ門ヨリ出テ宜園ノ名天下ニ普ク徳風永ク欽仰セラル、所以ノモノ而シテ一生ノ事蹟ハ彌留ノ時自ラ撰バレタル左ノ碑文ニ明ラカナレバ茲ニ絮說セズ今其ノ著書ノ主ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ。

- 遠思樓詩鈔 前後編 四冊 折 玄 一冊
- 迂言 二冊同附錄一冊 義 府 一冊
- 老子摘解 二冊 淡窓小品 二冊

以上名ケテ淡窓六種トイフ

- 淡窓詩話 二冊 懷舊樓筆記 五十六冊
- 淡窓日記 四十二冊 夜雨寮筆記 二冊
- 醒齊語錄 一冊 重訂醒齊語錄 一冊
- 約言 一冊 約言或問 一冊
- 自新錄 一冊 再新錄 一冊
- 敬天說 一冊 讀論語 一冊
- 讀孟子 一冊

安政三年十一月朔日病ミテ卒ス享年七十五(本年ヲ去ル六十一年前)中城村下道ノ新兆(今日田町南豆田長生)ニ葬ル門人私ニ諡シテ文玄先生ト曰フ。

文玄先生之碑

荅陽先生、諱建、字子基、一號淡窓、通稱求馬、豊後日田人、家住市井、先生自幼多病、不耐農商之業、專ニ力讀書、遂業儒、教育弟子、前後三千餘人、官賞ニ其教授廣及、特許ニ世々稱姓帶刀、直隸ニ縣府、其學主ニ大觀、與人_レ不_レ爭_ニ同異、旁喜_ニ佛老、世稱曰_ニ通儒、所_レ著遠思樓集前後編、折言義府、迂言、淡窓小品老子摘解、皆梓_ニ行于世、生_ニ天明壬寅、沒_ニ安政丙辰、壽七十五、葬_ニ中城村新兆、門人私諡曰_ニ文玄先生、遺命曰_ニ精神歸_ニ天、骨肉遺脫、然爲_ニ子孫_ニ者則不可_レ不_ニ埋葬_ニ焉、至_レ表_ニ其事

業、何假ニ一片石乎、銘曰、何所ニ稱述、一箇散儒、欲レ知ニ我志、視ニ我遺書、

安政丙辰十月自撰

弟 謙 謹 書

先考平生厭ニ諛墓之辭、彌留時、自選ニ墓誌銘、如是、不肖孝謹填ニ沒以下二十三字、餘不敢增ニ減一字、而請ニ本生父ニ書、

安政四年歲次丁巳正月中澣

不 肖 孝 謹 識

一こせ山中に宿り溪水の音を聞きて感にたれず老ては老の勤めありと思ひおこし

つゝ歌よむ道は知らされど万慮を一首につゝめて身を終るまでの警ます

世の中もかくそ告る心地して

よこむ時なき谷水の音

廣瀬久兵衛

廣瀬秋子

名ハ安利子淡窓ノ妹ナリ淡窓十八九歳ノ頃ヨリ宿病頻リニ動キ起居自由ナラザルニ至リ父母伯父母ノ憂愁一方ナラズ、時ニ安利子年十六不漸兄ノ枕頭ニ侍シ書夜看護ニ従フコト四年病更ニ癒ヘズ安利子熟ラ思ヘラク兄ハ嫡子家業ヲ繼グベキモノニシテ體質羸弱父母ノ常ニ憂トスル所ナリ我若シ男子ニ生レタランニハ兄ヲ扶ケテ成スコトアランモ今ハ父母ノ心ヲ安ンジ兄ノ病ヲ慰ムルニ足ルモノナシ此ノ際取ルベキ道ハ一命ヲ犠牲ニ供シテ兄ノ病患ヲ救フニアリト時恰モ父母ノ信仰深キ豪潮律師が大超寺ニ駐錫セシヲ以テ兄ニ代リテ病患平癒ノ加持ヲ受ケ遂ニ私ニ佛ニ祈リ身ヲ以テ兄ニ代ランコトヲ誓願セリ後淡窓病癒ユルニ至リ安利子佛門ニ入りテ謝恩セント請ヒシモ祖父母之ヲ許シ給ハズ乃チ律師ニ從ヒテ京都ニ行キ官女風早局ニ給仕ス風早氏寵遇極メテ厚ク妹ヲ以テ之ヲ遇シ名ヲ秋子ト賜ヒ宮中ニ出入スルコトヲ許サレタリ文化二年正月元日局ニ代リテ殿上ニ出デ天顏ニ咫尺セリ此ノ歳七月風早局、疫ヲ病ミテ歿ス秋子亦感染シテ同月十七日歿シヌ享年二十二京都三條寺町稱明寺ニ葬リ孝弟烈女ト謚ス後遺骨ヲ日田町大超寺墓地ニ分葬スルニ際シ淡窓嘗テ妹ノ殊勝ニ感泣シテ撰バレタル左ノ長篇ヲ碑ニ勒シテ銘ニ當テラレタリ

孝弟烈女廣瀬氏之墓

孝弟烈女姓廣瀬名安利豊後日田人父諱貞恒有兄名建業儒嘗罹篤疾烈女祈佛請以身代之及兄疾愈志在出

家以不安父母心不果時 仙洞官女風早君歸佛崇奉豪潮律師烈女以律師薦入京仕焉君待以妹賜名秋子嘗使代謁 殿上得拜 天顏給侍三年君有疾烈女看待太勤君卒之數日亦歿於三條菱屋年二十二文化 乙丑七月十七日也葬三條裏寺町稱名寺店主茶昆納骨於家人擴中不別造墓後弟謙遊京欲營墳墓而遺骨不可求獨立碑石題曰孝弟烈女廣瀨氏之墓建在家遙賦詩記之初店主分送遺骨於日田瘞在中城邨大超寺今茲嘉永甲寅爲歿後五十年建修墓而錄始末且以前詩代銘曰「新碑表出三條里孝弟烈女廣瀨氏家在海西身 在東客死不歸瘞于此物換星移跡欲湮其季弟謙來經紀誰銘碑者海屋翁兄爲賦詩審終始烈女生來十九秋阿兄得疾轉彌留緹縈自恨非男子代兄要解父母憂丹誠竊祈大悲佛三年篤疾」果然瘞金膝有誓心敢貳自茲齊戒日清修家居恨混暈腥跡千里往隸官女籍君臣同道又同心同死同爲樂邦客常憶 九重趨拜時 天日違顏不咫尺仙凡異路實雲泥恩榮至此死何惜私謚休諱三字辭貞惠文子是吾師孝乎惟孝弟乎弟殉君堪見烈々委孟粥誰澆一塊土墓門芳草自離々吾今殷勤囑孫子春露秋霜長相思」

廣瀨建撰 男 孝 敬 書

すべて農人は田畑を作るのみならず川普請樋浦普請等のこまを心得ざれば大に損失あり

大藏 永常

廣瀨久兵衛



豊後日田郡豆田町(現今ノ日田町)ノ人ナリ、寛政二年八月二日ヲ以テ生ル、兄淡窓儒ヲ業トシ家業ヲ視ルニ暇ナケレバ二十一歳ノ時代リテ家督ヲ繼承セリ、日田ハ郡代ヲ置キテ西國筋十七萬石ノ幕府領ヲ管轄スル所ニテ廣瀨家ハ久兵衛ノ祖父平八ノ代ヨリ郡代及各藩ノ用達ヲ勤メ來リシガ久兵衛ハ志ス所他ノ兄弟ト異リ専ラ意ヲ殖産興業ニ留メ國利民福ヲ増進スルヲ以テ己ガ任務トナシ一旦計劃スルモノハ勇往慕進之ヲ遂ゲズンバ已マザリキ、而モ資性慎直事ヲ執ルニ極メテ周密ナリ躬ラ禮節ヲ重ンジ人ヲ容レ物ヲ愛シ一ニ誠心ヲ以テ貴賤ニ接シ老幼ヲ遇ス故ニ衆人ノ敬愛甚厚ク時ノ日田郡代鹽谷代四郎ハ久兵衛ノ人ト爲リヲ知り任ズルニ水利通船築道等ノ事業ヲ以テス久兵衛深ク其ノ知遇ニ感シ爾來身ヲ挺シテ事ニ從ヒ日夜暹勉凡ソ利ヲ興シ害ヲ除キ苟モ國益タルヲ知リテ爲サザルハナク爲シテ之ヲ遂ゲザルハナシ斯クテ只管報効ヲ圖レリ今、年次ヲ追フテ其ノ事蹟ノ主ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ、

一、尾ヶ瀬井路開鑿

文政六年鹽谷郡代ノ命ヲ受ケ竣工、其ノ際郡代ヨリ褒賞セラレ

一、日田川通船

文政八年同郡代ノ命ニ依リ工事ニ着手、翌九年竣工、荷積船十五隻ノ株ヲ賞賜セラル

一、吳崎新田改築

文政九年同郡代ノ命ヲ受ケ開築ニ着手三ヶ年ニシテ竣工、褒賞セラル

以上ハ鹽谷郡代治蹟中ニ掲ケタレバ茲ニ詳説セズ

一、久兵衛新田

文政九年自費ヲ以テ開鑿ス、宇佐郡地先(現今ノ和間村)ニシテ反別六町五段餘歩、堤防三百二十五間工費約三千兩、郡代其ノ勞ヲ賞シ兵衛新田ト名ケ其ノ功蹟ヲ永遠ニ記念セシメタリ

一、日田、玖珠兩郡聯絡道路開鑿

文政年間工事ニ着手、此道程中日田郡女子畑村字川原(現今ノ中川村)ノ工事ハ最モ困難ヲ極メタルモノニシテ山岳ニ墜道ヲ穿テ險峻ヲ攀躋スルノ勞ナカラシメ交通上至大ノ便益ヲ得タリ、

鹽谷郡代ノ傳記ヲ案スルニ本工事モ亦郡代ノ命ニ依リ施行シタルモノナルコト明ナリ

一、千早新田開鑿

天保四年鹽谷郡代指揮ノ下ニ工事ヲ監シ竣工、筑前國怡土郡(現今ノ糸島郡)ニアリ、田畑總反別二十一町四段餘歩ト鹽田反別三町六段餘歩土石堤一千九十間アリ

一、天保九年對州侯ノ顧問トナリ常ニ同藩ノ領地肥前田代番代所ニ往復シテ大ニ財政ノ政策ニ盡力セリ

一、天保十一年府内藩ノ招聘ニ應ジ明治三年マデ三十一年間同藩ニ往復シ財政改革ノ事ヲ擔當シ其ノ整理充實ニ努メ困難非常ナリシモ終ニ克ク富殖ノ基ヲ樹テタリ、其ノ改革ノ主要ナルモノニ三ヲ擧グレバ左ノ如シ

(イ) 七島筵會所ヲ創立シ海路大阪及江戸ニ輸送シ廣ク販路ヲ開キシコト

(ロ) 封内植樹ノ實ヲ産セザルヲ遺憾トシ豊前國宇佐郡ノ親戚和氣某ト謀リ數年間ニ同家ヨリ植苗數十萬本ヲ取寄セ之ヲ不毛ノ地ニ植付ケテ督勵セシコト

(ハ) 安政年間府内城ヲ距ル西方二里吉兆原及庄ノ原ノ原野ヲ開墾シ堤防ヲ築造シ田畑五十餘町歩ヲ得各地ヨリ農民ヲ移住セシメタルコト

(ニ) 元治元年大分郡武宮村(現今ノ西庄内村)ヨリ同郡野田村(現今ノ賀來村)ニ至ル七里ノ間ニ井路ヲ開キテ元治水ト稱シ武宮村外十ヶ村ニ灌漑シ、別ニ堤防ヲ四ヶ所ニ築キ新墾良田數十町ヲ得テ之ニ灌漑セシコト

一、嘉永年間福岡藩ノ招聘ニ應ジ同藩ノ財政整理ニ從ヒ文久三年ニ至ルマデノ間屢々同地ニ赴キ又調用金ヲ帶ビテ數回上阪シテ調査ノ事ニ奔走シ金七千四百餘兩ヲ調シテ財用ニ供セリ其ノ後同

藩ノ示談ニ依リ之ヲ獻納トナシ其ノ廉ヲ以テ永代三十七人扶持ヲ給與セラレキ

一、安政元年御備筋御入用ノ内へ上納金ニ依リ公儀ヨリ賞賜アリ

一、慶應元年宇佐郡廣瀬井路ノ開鑿ニ從事シ金七千兩ヲ支出シテ此ノ事業ヲ完成セシメタリ此ノ功

勞ニ依リ明治二十二年俸源兵衛ノ代ニ至リ大分縣知事ヨリ木杯壹組下賜追賞セラル

以上廣瀬井堰、岩保新田、久兵衛新田ノ三工事ハ個人トシテ久兵衛ガ自費ヲ以テ之ヲ經營シタルモノニシテ其ノ餘ノ諸工事ハ多クハ鹽谷郡代ノ命ニ依リ之ヲ施行シ又府内侯等ノ委囑ノ爲之ニ盡瘁シタルモノトス。而シテ鹽谷郡代ハ名奉行ト稱セラレ慈善風教殖産興業ニ關シ施設經營スル所甚多ク久兵衛夙ニ信任セラレ肝膽相照ラシ鹽谷ノ在ル所必ズ久兵衛ノ在ルアリ恰モ影ノ形ニ隨フガ如ク以テ鹽谷ノ事業ヲ輔佐シタルヲ以テ鹽谷ノ鴻業中其ノ半ハ久兵衛ノ功勞ニ歸スルモ不可ナカルベシ。嘉永二年公儀ヨリ爲褒美其身一代帶刀御免永々苗字差許サレタリ
明治四年九月二十九日八十二歳ニテ歿セリ

明ければ暮るゝものさば知りながら正午は暮の始と知らし家の盛衰又此理ありと
知らば足らで事たる身こそ安けれ

十六夜やこれそ心の置きこゝろ

廣瀬久兵衛

廣瀬旭莊



通稱ハ謙字ハ吉甫旭莊ハ其ノ號別ニ梅墩ト稱セリ豊後日田町ノ人父ハ三郎右衛門淡窓ノ弟ナリ文化四年丁卯五月家ニ生ル幼ヨリ學ヲ好ミ長兄淡窓ニ指導セラレテ業大ニ進メリ天保元年淡窓老ヲ告グルニ及ヒ代リテ宜園ノ教授ヲ監シ同七年東遊シテ帷ヲ堺ニ下ス

後大阪ニ移リ同十四年年三十七江戸ニ遊ビ留ルコト四年バカリニシテ復大阪ニ還リ尋イデ山陰諸州ヲ漫遊シ到ル所諸藩主及富豪ノ爲ニ欸留セラル文久三年八月十七日攝州池田ニ歿ス享年五十七、大阪茶臼山邦福寺(雲水)ニ葬ル門人私諡シテ文敏ト稱ス
淡窓嘗テ旭莊ノ人ト爲リヲ評シテ曰ク謙吉忿躁煩苛ノ氣質ニテ極メテ蕭穎士ノ風アリト、門生ノ名ヲ成セシモノ鮮カナラズ詩ハ其ノ最モ長トスル所ナリ

旭莊像讚

才傾 八斗 學富 二酉
其貌 野逸 其腸 錦繡
詞源 如海 包函 高厚

蚍蜉撼樹

長英敬題

誹者自走

一四

其ノ著書左ニ掲グルガ如シ

一日間瑣事備忘前後編 百六十七冊

一九桂草堂筆記

十冊

一梅墩詩鈔五編 十五冊

一梅墩叢書

二冊

大村學校制、大村學制、告諸兄、改正塾約、異船議、示兒孝書、張居正始末、

登龍記、識小編、克己編

一梅墩文抄 若干冊

一旭莊文集

四冊

一旭莊文稿 若干冊

一旭莊詩稿

若干冊

一梅墩詩草 若干冊

一東遊稿

若干冊

一塗說 二冊

一追思錄

一冊

一鷄助集 一冊

一旭莊初稿

一冊

一梅墩漫筆 一冊

一病榻囁語

一冊

一明史小批

其外詩文稿若干冊

廣瀨青村

通稱ハ範次、青村ハ其ノ號別ニ世叔ト稱ス豊前下毛郡土田ノ人父ヲ矢野安德トイフ文化十四年ヲ以テ家ニ生ル幼ニシテ敏慧讀書ヲ好メリ年甫メテ十六宜園ノ門ニ入り孜々勉勵學徳大ニ進ム居ルコト幾ナラズシテ擢デラレテ都講ト爲リ遂ニ淡窓ノ義子トナリ王政復古トナルヤ徵サレテ京ニ入り漢學所ニ出仕ス其ノ後諸官ニ歷仕セシガ明治十七年二月三日病ミテ卒ス享年六十六城南青山ノ塋ニ葬ル門人私ニ文通ト諡セリ

青村人ニ接スル雅俗ノ別ナク待ツニ坦懷ヲ以テセリ平生儉素自ラ奉シ而シテ人ノ急ヲ聞クヤ資ヲ傾ケテ之ヲ救ヒ猶及バサルヲ憂ヘヌ尤モ意ヲ濟生及民間ノ利病ニ留メテ熟悉セザル所ナカリキ又書法ニ工ニシテ兼テ蘭竹ヲ畫キ縑素案ニ滿ツレハ手ニ任セテ揮麗セシカ韻致掬スヘキモノ多シ而シテ詩ハ其ノ最モ長ズル所ニシテ自ラ一家ヲ成セリ

青村廣瀨先生墓碑銘

太政大臣從一位大勳位公爵三條實美篆額

往時青村先生東游過余示其詩稿屬以序言且曰吾家父子兄弟皆以詩著非小枝自畫蓋先君子授徒宜園率性教養各成其器欲以供國用而世方恬熙肉食執事我輩草莽無所用力寄跡風月亦出於不得已余聞其言心竊有

一五

感焉後數歲時勢一變宜園諸子往往致身青雲而先生獨轆轤不遇吁亦命矣夫先生諱範治字世叔青村其別號北豐下毛郡土田村人本姓矢野孝曰安德妣末廣氏幼敏慧喜讀書甫十六歲師事淡憲廣瀨翁於南豐日田所謂宜園者孜孜勉勵繼晷以燭居數年為都講翁喜其善誘掖後進養為義兒繼家業弟子益進萬延文久間幕府政衰內外多故先生欲察天下形勢東游江戶遍交名士謁賢侯會松山藩儒山田方谷在藩邸以經濟聞先生就問當世要務先師藤森子座黨議請居交友或懼累不相來往獨先生往訪傾蓋如故及西歸府內侯延為賓師督學政是時翁既歿弟旭莊君在大阪主盟詞壇其子林外君年少才高留守宜園與先生鼎立唱和世稱為三廣列藩聞其名厚幣爭招府內侯亦欲給祿二百石使其就仕籍竝固辭不應蓋有待也明治元年 王室中興破格用才明年徵書果至東行入京直漢學所又明年為京都府典事余寄書賀之曰曠足其從此展矣然仍守學職三歲不遷巖手縣令島惟精者舊在宜園知其可用薦之八年補本縣七等出仕兼七等判事尋遷權參事叙正七位乃與利除外漸見功效未幾徵還東京遷修史局三等修撰而余與長茨同知局務茨及東京府知事松田道之皆宜園社友也三人者交相推挽陞階有日忽遇局廢而罷是歲卜居府下神樂街開塾衆徒稱東宜園謂余曰吾老矣宿志蹉跎復治舊業子勿腐儒視我會華族建學聘為教師車駕臨幸進講論語諸儒相議開斯文譽推擇為其文學既而有旨准宮內文學班奏任官世或謂其復進而先生移病去浴溫泉山梨縣因司教於縣學徵典館歲餘病劇乃還東京遂不起實十七年二月三日也越三日葬於城西青山塋門人私謚曰文通壽六十有六先娶合原氏再娶廣瀨氏二子曰貞文曰元義三女一夭二適人先生頗身溫顏和氣肅然善飲善談人無雅俗待以坦懷平生儉素自奉而傾貲周人急如不及

尤留意濟世民間利病莫不熟悉學宗紫陽不太拘泥晚好老莊頗悟玄理又工書法兼畫蘭竹縑素滿案任手揮灑韻致可愛而詩其所擅長與父叔同工異曲自成一家及疾病尙能口占二十四絕句其一曰高臥六旬溫且飽天恩長及白頭翁嗚呼人不學則己學而不用用而不盡其才白頭抱經不怨不激夷然安命可謂得溫柔敦厚之旨矣先生既歿宜園諸子追慕不已鳩資建石屬文於余余識先生尤久錄平生所聞見係之以銘銘曰
爵陞七級非不光榮年踰六旬非不遐齡唯才未展而道未弘忽焉逝矣實傷我情抑朽者骨不朽者名遺稿千首金鏘石鏗

明治十八年十二月立石

從五位 川田剛 撰文
從五位 長 莢 書

天下始メテ定リタル時ハ人情久シク亂ニ苦ミタル末ナル故萬事儉素ニシテ
著靡ヲ好ムコトナケレドモ太平久シキニ及ンデハ人心安快ニ耽リテ奢ヲ生
ジ途ニ亂ヲ催スニ至ルコト和漢古今一轍ナリ故ニ弊俗ト云フモノハ皆治世
安逸ヨリ生ズルモノナリ

廣瀨淡窓

廣瀨 林外

諱ハ孝、字ハ維孝、林外ハ其ノ號、豊後日田ノ人父ハ旭莊天保八年ヲ以テ家ニ生ル林外蚤ク怙ヲ失ヒ伯父淡窓ニ養ハレテ人ト成リシガ其ノ宜園ニ學ブヤ長三州、田代潤郷ヲ友トシ善シ閭塾ノ側ニ銀杏ノ大樹アリ綠蔭數十畝ヲ蔽フ三人書ヲ携ヘテ其ノ下ニ就キテ讀ミ相與ニ疑義ヲ質シ又ハ文章ヲ作り倦メバ則笑謔嬉戯人稱シテ宜園ノ三才子ト爲セリ淡窓ノ歿後其ノ後ヲ受ケ教授ノ事ニ從ヒシガ維新ノ際東京ニ遊ビ洋學ヲ學ハントシテ未ダ果サハリシニ偶々友人ノ勸ニヨリ修史館ニ入り奏任御用掛ト爲レリ明治七年五月十四日病ミテ歿ス小石川見樹院内生母合原氏ノ墓側ニ葬ル林外ハ短視踽歩狀貌野人ノ如シ然レドモ胸中ノ書卷測ルベカラザルハ父旭莊ニ肖タリ言辭循々トシテ砥行苟モセザル中ニ英氣アルハ伯父淡窓ニ似タリトイヘリ、

著ス所

- 一 林外日記 二十四冊 一六橋紀聞 七冊
- 一 和肅堂私史 十一冊 一塘報錄 十四冊
- 一 日知錄 十一冊 一提要 五冊
- 一 林外雜著 四冊 一林外雜錄 二冊

- 一文 材 錄 三冊 一咸宜園日記 四冊
- 一西園私史稿本 五冊 一入關錄 若干冊
- 一和肅堂叢書 四冊 一詩經 一冊
- 一讀三王記 一冊 一雜著 若干冊

林外廣瀨君墓碑銘

君爲淡窓先生之姪旭莊先生之子幼稱神龍長以文學名於海內年僅三十九歿友朋痛悼相謀立石使余銘焉余淡窓先生門下士也又受教旭莊先生所不當辭謹按君廣瀨氏諱孝字維孝號林外豊後日田人蚤失怙養於伯父淡窓先生余年十五始學於宜園君與余及筑後田代潤郷相得甚懼三人相若也閭塾之側有銀杏樹綠蔭蔽數十畝三人日携書出就其下而讀相與析疑義作爲文字倦則笑謔嬉戲聚郵兒分隊習戰日加申則伯母孺人遺婢饋菓餌至以爲常人稱爲宜園三戈子而余與潤郷才學實不及君淡窓先生歿無嗣君承其後垂帷教授余乃投筆事武出入行間六七年學益荒潤郷亦去學醫益不及也君澹於世事獨肆力於學縱橫淳蓄邃史學作詩饒有冲澹之致文則簡淨修潔不支不蔓蕭什之富過於二先生明治維新之際君來東京將讀洋書余勸之仕入史館七年春有病五月十四日竟不起余亦尋任修史事每見君譔著未嘗不歎愴其才也君短視踽歩狀貌如野人而胸中書卷不可測則肖旭莊先生言辭循然砥行不苟其中有英氣則似淡窓先生而其壽則不及焉可悲也娶吉瀨氏生三

女皆幼二子遺腹孿生余命之曰甫曰收是月葬小石川見樹院生母合原氏墓側義兄世叔爲經紀後事銘曰
我昔逃難彥山雲緹騎追奔猛火焚君賦詩句傷我冤比我范滂招我魂斯時我命若涸鱗令君拊膺哭故人我尾幸
解沾 天恩與君同列朝紳班君服微官裁二年年末強仕忽奄然而我餘生乃瓦全悲哉把筆以銘君

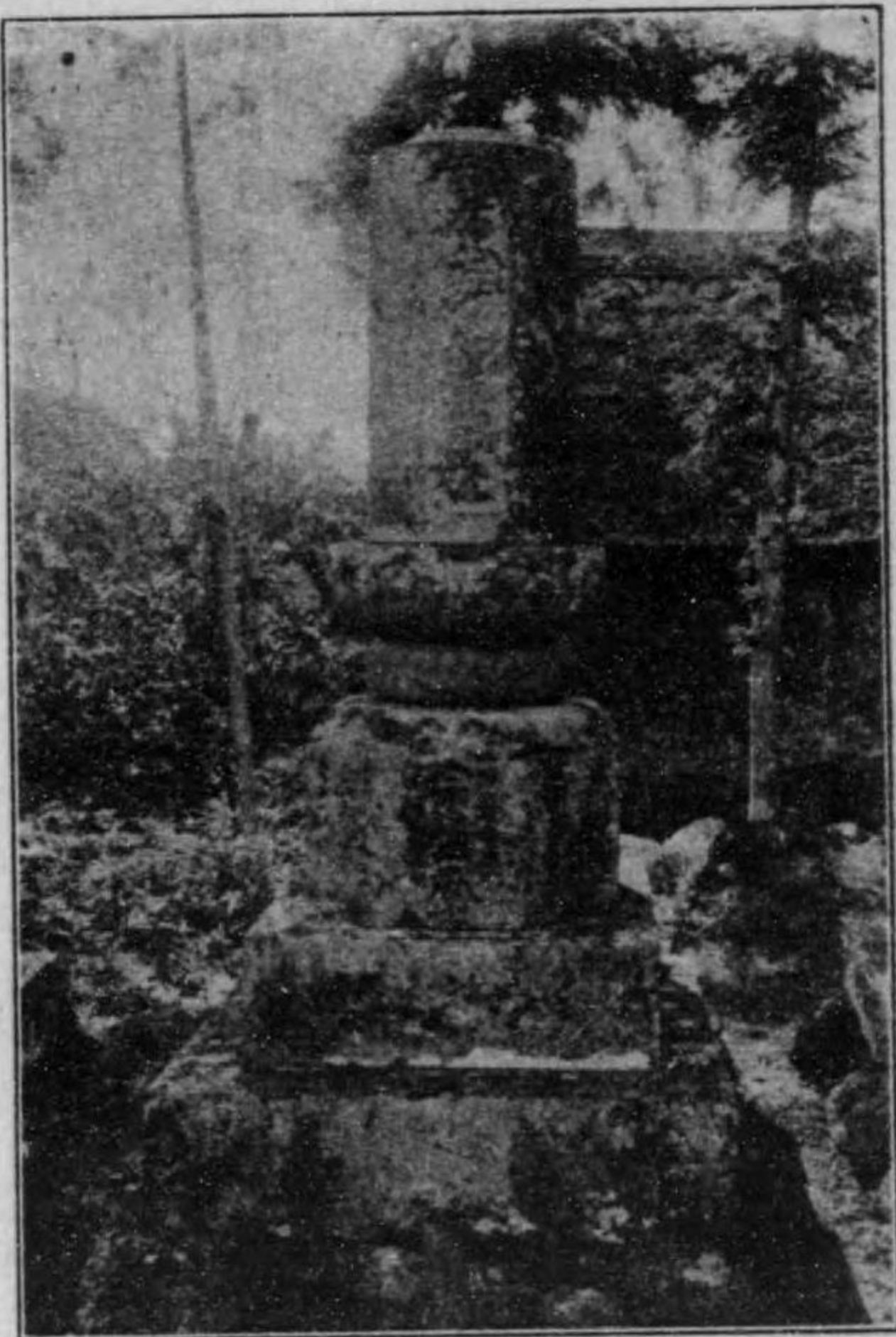
明治十一年五月建

從五位長 葵 撰文并書

掛千利方の事

- 一飯に焚きてふねよく艶あり
- 一壺石につき壺貳匁づゝは髓に高直なり
- 一糶摺の時碎米すくなし
- 一白米に踏にへりすくなし
- 一取納めて干に糶干三日ぶりを一日にてすめば手間二日分すくなくいるなり
- 一居室の前五十坪も干場に明置く所を三十坪にてすめば残り二十坪は野菜
- 一なご作らば此分にて先年々の得分あり
- 一千日敷すくなき故蓮半分にてすむなり
- 一酒米にして米のつぶれよし

大藏 永常



穴井六郎右衛門

豊後日田郡馬原村ノ里正ナリ、其ノ頃日田
代官ノ管轄地ハ代官、室七郎右衛門ノ時ヨ
リ田租ノ増加甚シカリシニ岡田某代官タル
ニ及ビ更ニ重税ヲ課シタルヨリ農民ハ最早
其ノ負擔ニ堪ヘズシテ流離散亡スル者アル
ニ至レリ六郎右衛門ハ元來義氣ニ富メル者
ニテカ、ル慘状ヲ座視スルニ忍ビザレバ各

里正ト相謀リ人民ノ窮状ヲ申立テ、只管減税ヲ嘆願シタルモ岡田ハ之ヲ却下シタルノミカ横暴至ラザ
ルナク益人民ヲ虐待シタルバ今ハ強訴ノ已ムナキニ至リ延享二年十二月十日豫テ謀議ニ參與シタル馬
原村組頭飯田惣治ト共ニ密カニ郷里ヲ出發シ明クル三年一月江戸ニ着シ訴状ヲ幕府ニ提出シタリ、カ
クテ兩人共ニ強訴ノ廉ヲ以テ獄ニ繋ガレタルモ間モナク出獄ヲ命ゼラレシガ佞吏ノ讒ニ遇ヒ再ビ捕ヘ
ラレテ淨明寺川原ニ於テ斬罪獄門ニ梟セラレキ。三花村龍泉寺ノ僧某夫等ノ遺骸ヲ請ヒ受ケ其ノ境内
ニ埋葬セリ墓碑今猶存シ香花絶エズ

僧 法 蘭

字曰雲茂錢塘ト號ス日田町廣圓寺ノ僧ナリ幼少ノ時ヨリ文辭ヲ善クシ肥前大超禪師ノ弟子トナリ年十七江戸ニ遊ビ服南郭ノ門ニモ入レリ當時文壇ニ於ケル一名家ナリ大潮曾テ其ノ詩ニ序シテ高君兼原双桂ト此ノ人トヲ以テ九州ノ三戈子ト云ヘリ著書ヲ錢塘詩集ト云フ寛政六年歲六十七ニテ沒ス(宗門布教ニ關スルコトハ寶月師ノ下ニ記載シタレバ此ニ略ス)

僧 寶 月

普明ト稱ス日田町長福寺第拾壹世ニシテ元文二年十一月ヲ以テ生レ文化二年十月七日六十九歲ニテ入寂ス夙ニ父祖ノ志ヲ承ケ刻苦勤學學德共ニ高ク古文辭ニ通ズ數々京師ニ入り書ヲ本覺ニ講シ擢テラレテ學頭トナル老後家居シテ書ヲ著ハスヲ以テ樂トナス其ノ著書釋教文選二十卷論注考譯五卷香光寶詩文集三卷アリ僧法蘭及儒士龜井道載ト交リ善シ法蘭トハ常ニ協力シテ宗風ノ振興化導ノ洽及ニ勉メ當時ノ士庶信從セル者頗ル多カリシト云フ

心を正しくせんと思はゞ先心を害ふものを去るべし

廣瀬貞恒

易 行 院 法 海



法海師ハ日田長福寺寶月師ノ第二子ナリ字ハ日藏ト云ヒ橘州及日南ノ號アリ後出テ、肥後ノ廣德寺ニ住ス本山ノ學頭ト爲リ易行院ト號ス性謹重嚴毅ニシテ氣度深遠博聞強起ニシテ雄辯懸河ノ如シ勤王ヲ以テ經ト爲シ忠孝ヲ以テ諱ト爲ス

當時太平日久シク僧風漸ク奢侈ニ趨キ絹帛ニ非ラザレバ服セズ師深ク之ヲ憂ヒ書ヲ講ズル毎ニ痛ク時弊ヲ斥ケ懇切ニ訓諭シケレバ衆皆感愧ス後皆其服ヲ改メ概テ麻布ヲ著ス號シテ感服衣ト稱シ絹ヲ著スルヲ耻ト爲スニ至ル其至誠物ニ動カズ概テ是ノ如シ天保五年八月六十七歲ニテ病死ス

曾テ山陽ノ京師ニ在ルヤオヲ負フテ自ラ恣ニシ放浪麴藥ナリ時人多ク之ヲ短トセリ或日雲華上人ヲ介シテ師ニ見ユ師方ニ凡ニ隱リテ經ヲ念ス山陽入りテ自ラ著ハス所ノ楠公ノ傳ヲ示ス師之ヲ手ニシテ曰ク頃日藝州ノ儒者久太郎ナル者京師ニ在リテ酒ヲ飲ミ三年其親ヲ省ミズ而シテ忠臣楠子ノ傳ヲ作ルト聞ク足下是レナルカ凡ソ忠臣ハ必孝子ノ門ニ出ヅ今不孝ノ人ノ筆ヲ以テ忠臣ノ傳記ヲ作ル若シ楠公地下ニ之ヲ知ラバ必ズ屑シトセザルベク老耄モ亦不孝ノ人ニ見ユルヲ屑シトセズト言畢ツテ復ビ座シ經

ヲ念ズル初メノ如シ山陽背ニ汗シテ出デ雲華上人ニ謂テ曰ク真ニ一宗ノ學頭ナリ遂ニ翌日出發シテ藝州ニ其親ヲ省ミシト云フ以テ師ガ性行ノ一斑ヲ知ルベキナリ其風教ヲ維持シ世道人心ヲ裨益セルノ功蓋シ鮮少ナラザルベシ

辭世ニ曰ク

我死なばかねて出立つ極樂へ

至りついたと思へ皆人

易行院法海像讚

我黨稱難得者四得賢祖父者難公以通眼爲祖以寶月爲父二師之學甲於天下得好施主者難公以草野氏爲檀越草野之富使公學者十有一年得明和上者難公以風嶺深勵爲師二師耳提面命得明宗主者難公以乘達二法主爲君二君之鑑拔公爲講師任以天下後世之事公得不學而忠乎公長於詩律明俱舍唯識諸子百家概無不通嚴覺政挫邪義振祖風布德教考之千古不易多得也元治甲子弟珍住長福寺囑予作讚讚曰貫練之堂昉於慧空中於深勵大成於公公持大義畏日其策公布大法春雨其澤公逝何處天青月高公書長在壯我本朝

明治辛未二月七日八洲敬書

心を正し身を修め家を齊ふの道は聖の教なめれど學ばざれば得がたし

廣瀬久兵衛

高山ツサ子

ツサ子ハ日田町長福寺寶月師ノ嫡女ニシテ易行院法海講師ノ姉ナリ、慧光院智光ト號ス資性剛毅城内西行寺七代順慶ニ嫁シテ後同時ニ一切經ヲ備付ケント志シ托鉢シテ諸方ヲ巡レル其方法一般人ニ對シテハ勿論非人乞食ノ徒ニ向ツテモ因果應報ヲ説キテ幾分ノ喜捨ヲナサシメタリト以テ苦心ノ一斑ヲ窺フベクカクテ一切經ノ四分ノ一(一切經ハ全部七千餘卷トイヘリ現ニ西光寺ニ保存シアルモノ貳千餘卷アリ)ヲ購ヒ得タリトイフ蓋シ其ノ當時ニ於テ容易ノ業ニアラザリシナルベシ是レヨリ先上人本山ノ大講師トシテ久留米ノ順光寺ニ派遣セラレタルコトアリ此ノ時ツサ子ハ破レタル法衣ヲ身ニ纏ヒ極メテ見苦シキ風貌ニテ寺ニ至リ上人ニ面會ヲ乞ヘリ一同怪ミナガラ此ノ由ヲ上人ニ通ジタルニ上人直ニ出デ來リテ之ヲ座ニ通シ互ニ談ズルコト數刻姉ガ一切經備付ノ志願ニテ諸國托鉢ヲナセルヲ聞キ上人ハ注意シテ曰ク「姉様アナタハ經本ヲ購フ爲メ托鉢シテ地獄ニ落チヌ様ニシナサイ」ト云ヒケレバ姉ハ直ニ「オ前コソ御經ノ講釋ヲシナガラ地獄ニ落チヌ様ニシナサイ」ト應ヘタリトゾ

大藏 永常

字ハ孟純通稱徳兵衛龜翁ト號ス豊後日田郡豆田町ノ人ナリ夙ニ心ヲ農殖ノ事ニ譜メ諸國ニ遊ビテ農事ヲ見聞シ或ハ自ラ之ヲ實地ニ試ミ其ノ便益アルモノハ書ニ筆シテ公共ノ爲ニス劬苦研鑽五拾餘年毫モ

倦色ナシ永常人ト爲リ浮華ヲ喜バヌ沈黙ニシテ奇戈アリ江戸ニ來リテ上野ノ北根岸ニ住シ天保十五年濱松侯ニ聘セラル時二年七十七後大阪ニ歿セリトイフ其著書左記數十卷何レモ圖書ヲ挿入シ文語極メテ懇切ニシテ皆世上ニ益アリ

農稼事業	五卷	農家心得草	一卷
農家調寶記續錄 <small>(一名農稼錄)</small>	一卷	農具便利論	三卷
農家肥培論	三卷	農家益後編	二卷
農家益	三卷	老農茶話	一卷
農家益續編	二卷	除蝗綠	一卷
琉球蘭作法	寫本一卷	綿甫要覽	二卷
民家育草	三卷	徳用食鑑	一卷
製葛錄	一卷	國產考	二卷
製油錄	一卷	雅俗早引節用集	四卷
山家藥方集	寫本三卷	日用助食竈の賑	一卷

甘蔗大成、抄紙必用、民間書簡法、耕作便覽、油柴錄、田家茶等

鹽谷代四郎



文化十四年十月二十五日日田郡代トシテ入郡在職十九年ノ久シキ一ニ志ヲ人民ノ利害休戚ニ注ギ之カ爲ニ施設經營セラレシ事枚舉ニ遑アラズ當時豆田町ノ廣瀬久兵衛好シテ水利ヲ講ジ草野忠右衛門モ亦頗ル經濟ヲ善クシケレバ公ハ二氏ニ命ジテ大ニ水利ヲ興シ二氏亦拮据勉勵シテ之ニ從事シタリ、文化六年小ヶ瀬井路(日田郡上井手村(現今、三芳村)字小ヶ瀬ニ起リ花月川ニ合ス灌漑十三ヶ村五百餘町歩)ノ開鑿ヲ始メトシ隈川、中城川ヲ改修シテ通船運輸ノ便ヲ計リ又宇佐郡ニ於ケル寶曆以來ノ廢渠再興、

國東ニ於ケル吳崎新田ノ開拓其ノ他日田玖珠間及日田ヨリ下毛ニ通ズル道路改修等國利民福トナルベキモノハ進ンデ之ヲ爲セリ又公ハ敬神奉佛ノ念厚クシテ忠孝信義ノ大道ヲ獎勵セラレ勤儉ニシテ而カモ清廉殊ニ領民ヲ慈ミ苟モ一善行ヲ爲スモノアレバ必ズ之ヲ引見シテ褒賞シ貧困ニシテ年八十二及ブモノアレバ其ノ子ノ丁役ヲ除キ上ニ請ヒテ永制トナシヌ其ノ計畫ニ係ル盲人養育用ノ恩澤ハ今尙盲人ニ及ベリ(宇佐郡ニ六町歩アリ)

又常ニ水旱疾疫ノ變アルヲ患ヒテ豆田町ニ陰德倉ヲ設置シ賑恤ノ法ヲ設ケヌ天保六年八月讒ニ遇ヒテ幕府ノ嫌疑ヲ蒙リ江戸ニ呼ビ返サル、ニ當リ幕府ノ役人之ガ爲日田ニ出張シテ取調ヲナセシニ公ノ行

李ヨリ出タルモノハ古瓦奇石ノ類ノミナリシヲ以テ其ノ嫌疑晴レテ更ニ役付セシモ翌年病ヲ得テ江戸ニ歿シヌ郡中ノ父老聞キテ痛ク之ヲ惜ミ嘉永元年ニ至リ碑ヲ北豆田村慈眼山上ニ建テ其ノ徳ヲ千古ニ傳フルノ舉ニ出デヌ。

以上ハ鹽谷郡代治蹟ノ大要ヲ摘録セルニ過ギズ公ノ功蹟ハ洋々涯リナク載セテ碑文ニ審カナリ庶民今ニ及ンデ敬慕措ク能ハザルモノ蓋偶然ニアラザルナリ。」
明治四十五年正五位ヲ追贈セラレタリ

故府尹鹽谷君之碑

古之涖民者。惠澤遠敷。則民從而謳歌之。若召南詠甘棠是也。後世人情浮華。喜頌官長功德。往往勒之於石。然去之日。民無德而稱焉。碑亦隨毀。唯其去後。見思非有實惠不能也。故府尹鹽谷君之去。我日田而居江都也。嘗語人曰。我在豐時。用力民事。經營多端。有未成功者。於心不忘。且我辱任於四方。而在豐之日。最久。部民亦相親睦。百歲後。我神魄。其遊豆隈之間乎。初日田境內。田多甌窶。官屢有鑿渠之議。皆以爲難。及君涖任。創建奇策。山剝石。水從竇中。過者十星。而分爲諸派。浸溉所及。東自上堰。西北至友田。十有三村。皆變沃壤。日田玖珠之道險。更關垣道。納租於長崎也。若於陸輪。乃浚豆隈二川。而造運租之船。風帆絡繹。而下者。五十餘艘。至于關村。沿于筑。達于海。其他公私之利。知無不爲。但民之豈々。不可與慮始。至其去後。謳歌

始興。君視民猶子。民苟有一善。必引見。而褒賞之。貧戶有年及八十者。則除其子丁役。請之於上。以爲永制。常慮水旱疾疫之變。躬親齋戒祈禳。當在任時。天災不生。民以爲其應。及聞其在江都之言。爲之感泣。君以文化。丁丑之歲。始臨我郡。在任十九年。天保乙未東歸。明年丙午。率於江戸。今茲嘉永戊申。實爲一紀。郡中父老。謀於故吏。猶在者。建碑於官府之東。鷹城山巔。以爲神遊之所。寄囑予。作文。君諱正義。稱代四郎。法號曰唯。一院成善日道居士。墓江都谷中究竟山妙情寺。嗚呼君德久而著者。古所謂去後見思。君子人耶。

銘曰。

憂民若子 汲々孜孜 人亦有言 佚道使_レ之
公功在_レ山 與_レ山巍々 公德在_レ水 洋々無_レ涯
漢有_レ何武 去後見_レ思 晉有_レ羊祜 墮_レ淚之碑
維斯片石 公其懋_レ斯 戒_レ我子孫 勿_レ毀勿_レ虧
嘉永紀元秋七月 廣瀬建敬 撰

寄仁郭公

千る苗に雨連来るやほこいさす

月 化

森 伊左衛門

諱ハ春樹字ハ士碧蓼州ト號ス幼名善次郎尋テ平九郎ト改メ又雅助ト稱ス明和八年辛卯六月三日豊後日田ニ生ル享和登亥家ヲ繼デ七世伊左衛門ト襲名ス壯年ノ頃俳諧ヲ嗜ミ仁里ト號セリ、後伊勢ノ人荒木田久老ノ門ニ入り弘ク和書ヲ諳ジ古體ノ和歌ヲ詠ジ又清人堀南田ノ書風ヲ慕ヒテ專ラ花卉ヲ描キ老年淡窓ニ就テ詩ヲ學ビ其ノ作宜園百家詩集ニ入選スルニ至レリ。鏡坂（今ノ高瀬村ニ在リ）ハ景行天皇蹕ヲ止メ給ヒシ由緒ノ地ナルガ、伊左衛門其ノ事蹟ノ湮滅センコトヲ思念シテ自ラ文ヲ撰ミ和歌ヲ詠ジテ清人蔣重耀ノ手ヲ籍リ其ノ手蹟ヲ石ニ刻ミテ由來ヲ永ク後昆ニ傳フルノ舉ニ出デヌ、天保五年甲午八月三十日悠然亭（晩年隱居セシ所）ニ歿ス壽六十四、著ス所造領記、龜山抄里、諺抄、蓬生談、豐西說話等アリ。

謙吉（旭莊）へ申問書の一節

儒者は士大夫の業なり無錄にても身持は官人同様に可有之又邦語にて儒家僧家醫家杯は長袖と稱し貧富に不拘上座に置きて尊敬する也其の代りに少々にても利藪なる振廻有之候へば大に人に被賤候

淡 窓

長 春 堂

長次郎名ハ黃字君裳春堂ト號ス豊後日田ノ人ナリ父ヲ允文ト曰ヒ天保七年丙申十一月十二日馬原村字矢瀬ニ生ル允文ノ第二子ナリ

幼ヨリ父ニ從ヒテ學ヲ受ク十六歲兄英ニ從ツテ肥筑ノ間ヲ游歴シ十八九歲日田ニ歸リ淡窓先生ノ門ニ學ブ又兄ニ從ツテ日向肥後等ヲ游歴ス二十五歲以後肥後ニ往キ醫ヲ深見玄門ニ學ブ業成ツテ日田ニ歸リ合田村（中川村ノ内）ニ開業セリ其兄長英尊攘ノ議ヲ唱ヘ久シク長州ニアリ慶應元年長州國內ニ亂アリ英長州ヲ去リ竊ニ筑前ノ五卿ニ謁シ又豊後ニ至ル是ヨリ先其父允文豊後植田ニ移住シ書生ヲ教授ス英父及春堂ト謀リ陰ニ勤王ノ志士ヲ集メ既ニ百數十人ニ及ベリ幕府再ビ長州ヲ伐テ戰大ニ敗フルルニ方リ將ニ事ヲ舉テ長州ニ應ゼントシ事未ダ機ヲ得ズ英再ビ長州ニ至ル而シテ日田ノ代官窪田治部右衛門元肥後ノ人ナルヲ以テ肥後及小倉藩ト合謀シ大ニ幕威ヲ振ヒ勤王正義ノ士ヲ逮捕ス英モ捕ヘラレントスル屢々ナリ黃ハ遂ニ二年丙寅九月十六日ヲ以テ幕吏ノ爲ニ捕ヘラレ日田ノ獄ニ投ス此時日田ノ獄ニ在ルモノ豊後及諸藩ノ人數十人ナリ黃ノ始メ捕ヘラレントスルヤ脱レテ矢瀬ノ山中ニアリヒソカニ思ヘラク「吾捕吏ノ手ヲ逃ル、ハ易々タルコトナルモ代官若シ吾ヲ捕ヘスンバ必ズヤ怒ヲ移シテ父君ヲ捕ヘン吾ガ爲ニ父君ヲ苦シマシムルハ子トシテ忍ブ能ハザル所ナリ」ト斷然意ヲ決シテ遂ニ捕ヘ

ラル父允文ハ黄ノ内報ニヨリ辛フジテ一家四人ヲ携ヘ長州ニ去レリ其ノ翌慶應三年十月十一日黄日田獄中ニ病死セリ年三十二ナリ其翌明治元年事京師ニ聞エ白河神祇伯天ヨリ已等芳耶神ノ號ヲ賜ハリ小祠ヲ日田合田村ニ建タリ後明治二十四年靖國神社ニ合祀仰出サル

鳳山和尚

諱ハ翺譽日田町大超寺中興第十六世ノ僧ナリ天資豪放狀貌雄偉最說法ニ長シ經濟ノ思想ニ富ミ勤王ノ志深ク當時ニ於ケル郡代ノ信任頗ル厚カリキ現在ノ堂宇ハ安政五年和尚ガ拈拈七ケ年ノ歲月ヲ經テ再建セシ所ニシテ其ノ結構舊觀ニ倍蓰ス而シテ嘉永元年十一月尊超親王ノ御好身仰付ケラレ同時ニ親王御染筆本願寺ナル一額ヲ賜ハル明治二年八月卒ヌ年五十七

翺譽上人鳳山大和尚墓誌銘

鳳山和尚諱翺譽筑前福岡人也少爲僧宗淨土當是時天下猶貴門閥草莽之士抱負奇才者未免坎壇獨浮屠氏能以其才自顯至增上寺大僧正者則紫衣金輿與大將軍抗禮於是士之欲顯於世者或歸於浮屠和尚亦其人也和尚之才足以撥榮顯於當世而梵行潤達或與戒律去入是以不得參檀林鎮綠山自筑前成道寺轉日田大超寺乃大興伽藍又超遷寺爵以錦襴衣爲永式大超自開山十六代和尚爲之中興住寺二十二年以明治二年己巳八月廿六日卒年五十七葬寺中和和尚狀貌雄偉機辨如雲最長於說法名動一時其唱下炬之詞也奮振儀容修飾音

吐緩呼大喝意氣壓場送葬者皆感泣謂得此引導必往生矣其才鋒盈涌不能抑遏則喜周旋人事自闕閱獄訟官吏之不能決者以至閭巷之夫妻反目婦姑勃谿皆請和尚居間輒談言微中人人莫不厭心嘗在京師偶觀親兵操練兵士望見和尚皆下馬欽銃拜伏左右蓋誤爲法親王也和和尚勢不可自辨乃徐行爲巡閱之狀使從者勞之而過與予爲忘年之友嘗謂予曰以君之學一圓其顯則貧道保其必爲大僧正不猶勝爲學究以了一生哉予笑曰今日猶以紫衣金輿爲英雄展才之具乎時事將變和尚豈無意於冠其頂歟和尚慨然曰吾老矣末幾朝局一新豪傑之士爭致身青雲而和尚終以浮屠沒法嗣廓譽無筑前人也請予曰君深知先師者願銘之乃銘曰

不爲南光 當爲安國
咄咄和尚 徒髮其髮

日田廣瀬孝 撰

謙吉(旭莊)ハ申開書の一節

教化を先にして賞罰を後にし口を以て教へずして身を以て教へ月日を經て自然に人の化する様に可致候師に孔子の徳なくば弟子にも顔闔の行は難貴候

平野 五岳



高僧ニシテ文人タル五岳ハ文化八年ヲ以テ豊後日田隈町専念寺ニ生ル、名ハ岳字ハ五岳號モ亦五岳聞惠ト稱セリ、弱冠ノ頃ヨリ咸宜園ニ學ヒテ高弟劉君鳳、旭莊等ト名ヲ齋ラシ同輩ノ畏敬スル所ナリキ詩書畫ヲヨクス依ツテ三絶僧ノ名アリ淡窓常ニ曰ク

古人ガ詩ハ別才ナリトイヒシハ蓋シ五岳ノ如キヲ謂ヒシナランカト而カモ一藝ニ遊ブゴトニ其ノ蘊奧ヲ究メズンバ已マザリキ書畫ヲヨクシ詩ニ巧ナル當サニ然ラザルヲ得ズ明治十四年東京ニ於ケル勸業博覽會ニ左ノ詩ヲ大額ニ書シテ出品セシニ入場ノ軍人之ヲ讀ミテ泣カザルハナカリキ、審査官ハ特ニ之ヲ賞シテ褒狀ヲ受ケタリ我邦詩ヲ以テ賞ヲ得タルハ蓋シ之ヲ嚆矢トナス

熊本城下ノ作

四面皆賊窟如雲。 城在雲中級々分。 滿目今日眞火國。
市塵村落一時焚。 破烈丸飛烈焰迸。 雲梯笑渠學魯般。
忽使萬雷發從地。 火中何必仿田單。 六十日間無虛日。
攻守一日幾艱難。 城兵如魚在釜中。 城將心在泰山安。

軍糧如山山亦盡。 頼有我兵力能殲。 雖能殲力色欲榮。

千竈烟絕兵氣寒。 知是都督援軍至。 大喊聲隔一山間。

城兵驀地出擊賊。 賊軍崩去似倒爛。 嗚呼日本國中已無城。

雖在此城遮賊氛。 守城者誰谷將軍。 築城者是當年鬼將軍。

天資高潔妻ヲ娶ラス門生ヲ需メズ得々トシテ自ラ安ンズル所アリ老年ニ及ビ德望益々隆ク知ルト識ラザルトナク皆尊敬シテ上人ト稱セリ、明治二十六年三月三日寂ス年八十三。

千原 夕田

千原夕田名ハ誠字ハ明卿、又放浪子ト號ス日田町素封ノ家ニ生ル居ル所ノ地ヲ夕田ト云フ由テ以テ號トナス其印文ヲ眞古人ト曰フハ誠字ノ邦訓ヲ用フルナリ幼ニシテ臨池ヲ嗜ミ一百字ヲ習フヲ以テ日課ト爲シ未ダ嘗テ懈ラザルコト二十餘年其技大ニ成ル字法道勁秀老毫モ媚撫ノ態ナク長三洲柴秋村ト并ビ稱セラル又畫ヲ善クシ最モ墨蘭ニ長ズ性素ト奇僻風流自ラ高ク胸中磊砢ニシテ名聲大ニ震ヘリ明治二十七年一月五日病テ歿ス年六十五歲

世に交れば善に悪に人の誇りは免れがたし苟も誠の意を恒として事を慎み義を重んじ己をたゞまやかに人の艱苦をも憐は天助ありて自ら家富榮べし

廣瀬久兵衛

名ハ莢、字ハ世章三洲又ハ韻華ト號ス幼名ハ富太郎又光太郎ト稱セリ、豊後日田郡中川村八瀬ニ生ル父ハ寺小屋ノ師匠タリシモ家貧ニシテ資ニ乏シ三洲常ニ土豪ニ寄食シテ以テ宜園ニ學ベリ幼ニシテ穎悟淡窓目シテ神童トナス、後大阪ニ遊ビ旭莊ノ家塾ニ居ル時宛モ幕末ニ際ス三州意氣豪邁勤王ノ志ヲ抱キ四方ニ流離シ具サニ辛酸ヲ嘗ム會々木戸孝允ノ知遇ニ遭ヒ奏議多ク之ガ草ニ成ル明治十四年擢ンデラレテ太政官少史ニ任ゼラレ文部大丞ニ累遷シ從五位ニ叙セラル嘗テ伊達欽差大臣ニ隨ヒ清國北京ニ駐劄ス時ニ浙東應寶時、三洲ノ詩ヲ見テ之ヲ奇トシ其稿ニ跋シテ曰ク「大著ヲ拜讀スルニ鏤肝鍊腎ノ思ヲ以テシ躡月追雲ノ筆ヲ運ラス懷壯ナラザルナシ句アリ皆奇而シテ且ツ歌々タル孤忠、時ニ楮墨ニ流レ堂堂タル正氣盡ク淫哇ヲ掃フ若僅カニ諸人ヲ以テ之ヲ目セバ之ヲ賢者ヲ測ルニ淺ナリトス」ト同時ニ夏家稿モ亦詩ヲ美トシ爲ニ評シテ之ヲ贊ス、二氏詩名アリ、稱シテ北京第一トナス。三洲歸朝ノ後幾クモナク兼テ宮内省ニ任ゼラル、數書ヲ作り以テ宸眷ニ供ス、桂冠ノ後風月ヲ友トシ筆研自ラ娛ム其ノ書法ハ初坡公ヲ學ビ中年魯公ヲ領シ妙ニ其神髓ヲ得而シテ後變幻百出、奇正雙絶、剛健流麗以テ唐宋ノ名家ニ抗ス、翰苑墨場推シテ當代ノ巨擘トナス。

三洲性至孝ニシテ親ニ仕フルコト特ニ篤ク五十餘年一日ノ如ク花朝月夕雅會文醺毎ニ輒テ其ノ親ニ陪スルヲ樂トナス、明治二十七年東宮ノ侍書ニ侍セシモ幾クモナクシテ辭ス翌二十八年正五位ニ叙セラレ其ノ三月十三日歿ス享年六十七。

大谷宗三郎

嘉永元年十一月二十八日ヲ以テ日田郡西有田村ニ生ル幼ニシテ父母ヲ失ヒ祖父母ニ養育セラレ長スルニ迫ヒテ祖父母ニ仕ヘテ孝心最モ篤ク資性温厚篤實ニシテ親切ヲ旨トス舊幕時代ヨリ町別當役ヲ勤メ維新後小區保長小學校世話方學務委員勸業委員村總代戶長村會議員等村政ニ從ヒ町村制施行以來名譽職村長ト爲リ能ク地方自治ノ發達ヲ圖リ殊ニ居村大字有田及西有田道路一ハ峻險泥濘一ハ屈曲狹隘ニシテ運輸交通ノ不便甚シキヲ慨シ之レガ改修ヲ首唱シ拮据奔走幾多ノ艱苦ニ屈セズ遂ニ車道ヲ開通シ以テ物産ノ運搬ニ裨益ヲ與ヘ其他學校ヲ築キ教育ヲ獎メ農業ノ改良ヲ謀リテ陸稻課麥蠶桑ノ業ヲ誘掖シ金穀ヲ施與シテ細民ヲ賑恤シ租稅滯納ノ弊習ヲ矯正シタル等其功績尠カラズ明治三十三年四月十五日疾ヲ以テ歿ス享年五十一部民相謀リテ頌德碑ヲ建設シ政府モ亦氏ノ功績ヲ認メテ明治四十一年二月氏ノ相續人ニ對シ銀杯一箇ヲ賞賜セラレタリ墓銘ニ曰ク

一心至誠 應物接人 其德孝順 其行慈仁
恩及窮氓 澤洽閭鄉 豐碑千秋 維民之望

千原藤一郎



諱ハ鎮成通稱藤一郎昔湖ト號ス千原幸右衛門鎮信ノ長子安政三年四月六日日田町ニ生ル家世々釀酒ヲ業トス資性剛邁ニシテ最モ時事ニ通シ公共ノ爲ニ劃策盡瘁シタル事蹟甚多シ而カモ陰徳ノ美性ニ富ミ謙讓ニシテ功名ヲ街ハス德望甚高シ明治二十二年自治制實施以來光岡村議員トシテ或ハ名譽助役トシテ村治ニ參シ率先シテ村民ヲ誘導スルコト十有七年明治二十五年九月創立ニ係ル日田郡總町村學校組合ノ議員トナリ爾來十有三年ノ久シキ終始斯道ノ施設計營ヲ贊劃シ本郡教育ノ發達ニ努メ明治廿四年以後郡會及縣會議員ニ選バレ郡縣治ノ爲ニ貢獻セシ所少ナカラズ本郡ニ於テハ電信局ノ新設地方裁判所支部ノ設置佐賀福岡兩縣道ノ改築農林學校ノ設置日田水電會社ノ創設經營等主トシテ君ノ力ニ成レルモノ甚ダ多シ其他桑園増殖獎勵ノ方法ヲ講シ明治十八年製絲場ヲ設立シ尋テ同十九年養蠶傳習所ヲ開キタル等蠶絲業ノ啓發ニ關シテ最奮勵努力セラレタルガ如キ苟モ國民利福ノ爲ニハ利財ヲ投ジテ吝マザリキ明治三十八年十一月十二日歿ス享年五十

凡人ヲ觀ルノ道其ノ小ヲ觀テ其ノ大ヲ知ルコト古人ノ貴ブ所ナリ

廣瀬淡窓

一 勳局其他官廳及團體ヨリ

彰セラレタル者

大分縣豊後國日田郡五馬村長

日 隈 多 聞



資性篤實一郷ノ屬望スル所トナリ夙ニ名主役トナリ尋テ副戸長戸長等ノ職ヲ奉ジ町村制實施ノ際村長ニ舉ラレ能ク地方制度ノ主旨ヲ體認シ専ラ自治ノ發達ヲ計リ教育勸業救貧及牧畜備荒貯蓄等ニ盡力シ多年公同ノ事務ニ誠實勤勉シ其勞効顯著ナリトス

仍テ明治十四年十二月七日 勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

明治二十六年五月二十二日

奉勅

賞勳局總裁正三位勳二等侯爵 西園寺公望

賞勳局副總裁從三位勳一等子爵 大給 恒

此證ヲ勘査シ第百九十三號ヲ以テ褒章簿冊ニ登記ス

賞勳局書記官從四位勳四等

平井 希昌

賞勳局書記官正五位勳四等

横田 香苗

事 歴

資性質直ニシテ其職務ニ從事スルヤ嘗テ倦怠ノ色ナシ明治五年四月副戸長ノ職ニ就キ尋テ戸長ト爲リ町村制實施ノ際村長ニ選舉セラレ爾來自治ノ本旨ヲ恪守シ職務勤勉令達ヲ重シ帳簿ノ編纂金錢ノ出納等整理セザルコトナシ且事ヲ爲ス懇切周到ニシテ常ニ公衆ノ利益ヲ起スコトニ汲々タリ夙ニ基本財産ヲ蓄積シテ村ノ自治ヲ鞏固ナラシメント欲シ規約ヲ設ケテ明治二十四年ヨリ三十三年マデ十ヶ年間一ヶ年金二百圓宛蓄積ノ法ヲ立テ又此規約ニ追加シテ村内結婚並ニ出産事アル毎ニ其貧富ノ差等ニ應ジテ貳圓以下貳錢以上ノ出金ヲ爲スコト、シ初年ノ終ニ於テ既ニ約三百圓ヲ得又學校基本財産ニ付テハ各學區毎ニ土地ニ應ジテ適當ノ樹栽ヲ爲サシメ出口區ハ漆園三町步(明治三十九年收入見込額金貳千四百圓)塚田區ハ柗林五町六反步(明治三十八年收入見込額金千參百圓)五馬市區ハ杉林壹町八段九畝步(明治四十年賣却見込額金貳千拾五圓)ノ植込ヲ了シ本城區ハ其ノ共有原野九町一段一畝二十七步ヨリ秣刈取一畝ニ付金壹錢宛徵收シテ蓄積ノ法ヲ勵行シ又訴訟調停規約ヲ設ケ勸解委員ヲ置キテ德義ニ基キテ爭論ヲ調停シ以テ協同一和ノ實ヲ舉ケ訟庭出訴ノ件數ヲ寡カラシメ又牛馬改良ノ必要ヲ認メ自費ヲ投ジテ種牡牛ヲ飼養シ頑迷ナル農民ヲ諭シテ種類ノ改良ヲ促シ後同村森恒太郎ト謀リ有限責任

五馬狂農組牛種改良規則ヲ設ケ洋種牛四頭ヲ購入シ漸次改良ノ緒ニ就キ現今正洋種一頭三回種一頭二回種九頭一回種百三十頭退却種四百頭ノ多キニ及ベリ又納稅規約ヲ設ケ地租其他諸稅ノ遲滯不納ノ弊無カラシメ又字見取部落ハ僅ニ四十戸ノ小組ニシテ貧民多ク常ニ衣食缺乏シ凶歲ニ遇ヘバ忽生計ニ困難スルヲ見テ凶荒豫備ノ爲メ金穀蓄積法ヲ設ケシメ現今粟四十九石餘金四拾餘圓ヲ蓄積シ猶漸次各組ニ及ボサントシ又狂農組ヲ組織シテ勸業ニ關スル研究講話ノ會合ヲ屢々シ青年談話會ヲ設ケテ教育勸業兵事衛生ニ關シ一年四回集會ヲ催シテ有益ノ談話ヲ爲ス等誘導獎勵ノ手段到ラザルナシ其他兵事ノ忽ニスベカラザルヲ思ヒテ兵員志望ヲ獎勵シ教育ノ急ナルヲ見テハ不就學兒童ノ戸毎ニ就キ懇々之ヲ説諭シ時ニ或ハ常設委員ヲ促シテ學校ヲ參觀視察セシメ偶々風雨ノ際ハ自ラ簑笠ヲ着シテ田畠ヲ巡視シ農戸ヲ訪ヒテ作毛ノ損害ヲ慰問シ或ハ貧困者ニ就キ其食物ノ粗糠ヲ視テ之カ救助ヲ謀ル等熱心懇到村民ト休戚ヲ共ニスルヲ以テ德望自ラ厚ク村ノ公同事業ニ當ルコト二十年八月ノ久シキニ及ビ終始勤勉一日ノ如ク能ク其ノ本分ノ職務ヲ全フスルモノト云フベキナリ

休道他郷多苦辛 同胞有友自相親
柴扉曉出霜如雪 君汲川流我拾薪

大日本帝國褒章之記

大分縣豐後國日田郡豆田町

伊藤 壯兵衛



資性忠孝年甫メテ十五居町草野忠右衛門ニ仕へ歷事三世廉直
自ラ守リ切諫忌マス質儉以テ家政ヲ整理シ精勵以テ業務ヲ擴
張シ毫モ自己ノ計ヲ樹テズ殊ニ父母生存中主家ヨリ物品ヲ受クル毎ニ必ズ之ヲ携持シテ父母ニ奉ジ
以テ承勸ス曾テ主家兩度ノ火災ニ罹リテ巨額ノ損害ヲ被リ一家阻喪スルヤ主ヲ勵マシテ挽回ヲ圖リ
經營宜シキヲ得途ニ其資産ヲ増殖シテ家聲ヲ遠邇ニ發揚スルニ至ラシム誠實敦樸四十餘年一日ノ如
シ洵ニ奇特トス依テ明治十四年十二月七日 勅定ノ綠綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

明治三十四年十二月三日

奉勅

賞勳局總裁正三位勳一等子爵 大給 恒

此證ヲ勘査シ第二百四十八號ヲ以テ褒章簿冊ニ登記ス

賞勳局書記官從四位勳三等 横田 香苗

賞勳局書記官正六位勳六等 藤井 善言

事 歷

性質忠實温厚ニシテ孝心深ク品行最モ方正ナリ年十五ニシテ豊後國日田郡豆田町製蠟業草野忠右衛門
ニ仕へ爾來一意専心主家ノ爲ニ忠勤ヲ怠ラズ其ノ信用ヲ得ル最モ厚シ而シテ主人ト雖モ苟モ家風ニ違
ヒ或ハ不利ノ事業ニ着手セントスルトキハ切ニ諫止シテ憚ラス先代忠右衛門死ニ臨ミ其ノ子即チ當主
忠右衛門ニ遺言シ我死セバ汝壯兵衛ヲ視ル吾ヲ視ル如クセヨト依テ當主ハ其遺言ニ從ヒ壯兵衛ヲ祖父
ト呼ビ最モ敬シ居レリ主家近年火災ニ罹リシコト二回倉庫貸家等ヲ燒失シ爲ニ數萬金ノ損害ヲ被リ一
家大ニ落膽セリ壯兵衛乃チ主人ヲ勵シテ曰ク天災ヲ下シ以テ我ヲ試ミントスルナリ宜ク奮勵回復ヲ圖
ルベシ何ゾ落膽阻喪スルヲ須ヒンヤト忠右衛門其言ニ感激シ直ニ建築ニ着手シ速ニ舊觀ニ復セシメタ
ル如キハ商業盛衰ノ機ニ關シ事宜ヲ得タルノ處置ナリトス又天資至孝父母生存中主家ヨリ物品ヲ受ク
レバ必ズ持シテ之ヲ父母ニ呈シ其樂ヲ共ニセリ往年父母ノ死亡スルヤ悲哀禁ゼズ寢食ヲ廢スルニ至レ
リ少時草野家(當代忠右衛門祖父忠右衛門ノ時初メテ此家ニ奉公ス)ニ奉公セシヨリ漸次勤勞ヲ累テ今ヤ番頭ノ地位ヲ占メ商業其他家
事ノ全般ヲ管掌シ金錢出納ノ事ヨリ家主ノ實印ニ至ル迄舉テ自己一人ニ委任セラレ居ルト雖モ私曲
ノ行爲ナキハ勿論主家ヨリ受クル給金ノ多少等ニハ介意セズ日夜孜孜主家ノ爲メ忠勤怠ラザル如キハ
多ク其比ヲ見ザル所ニシテ世人ノ模範タルニ足ルモノアリ特ニ其身ハ長男ニ生レ自家ノ家督相續ヲナ

スベキ身ナルニモ拘ハラズ一旦草野家ニ奉公セシヲ以テ弟幾次郎ヲシテ之ガ相續ヲナサシメ自己ハ終身他家ノ僕トナリ終始主家ニ在テ盡瘁セリ故ニ草野家ノ商業ハ漸次發達繁榮ヲ致シ目下其ノ財産ハ凡ソ參拾萬圓内外ニシテ家聲ノ遠近ニ發揚シタルモノ壯兵衛ノ力與ツテ多キニ居リ其ノ志行實ニ古ノ忠僕ニ恥チザルモノタリ草野忠右衛門ハ先世筑後國草野郷ヨリ出デ世々製蠟ヲ業トシ舊幕時代ハ二ヶ村ノ庄屋ヲ勤メ十數代ヲ歷タル舊家ニシテ戶主ハ代々忠右衛門ト稱シ地方屈指ノ商家ナリ今ヲ去ル四十餘年即チ安政二年壯兵衛年十五ノ時(先代忠右衛門)ヨリ當主忠右衛門ニ至ル三代ニ歷仕シ四十餘年間忠勤一日ノ如シ以テ其志操ノ堅固ナルヲ見ルベシ生計ノ狀況ハ目下主家ヨリ受クル給金一ヶ年凡ソ百五拾圓内外ト米若干トニ過ギズ之ヲ以テ一家數人ノ糊口ヲ凌ギ平素儉勤ヲ主トシ近年一ノ家屋ヲ買入レ僅ニ衣食住ニ差支ナキヲ得其ノ親族間ハ最モ能ク和合シ其妻ハ十四五歳ノ頃ヨリ草野家ノ下婢タリシモノニテ是亦資性順良ナルヲ以テ主家ヨリ特ニ壯兵衛ヲシテ之ヲ娶ラシメタリト云フ夫婦間最モ親睦一女コマヲ舉ゲタリコマ亦能ク父母ニ孝事シ成長ノ後甚藏ナルモノヲ養子トシ之ニ配偶シ一男三女ヲ舉ゲリ甚藏ハ二十八年從軍中清國旅順港ニ於テ病没シタレバ當時寡婦コマハ軍事公債(百圓)壹枚及現金貳拾圓下賜ノ御沙汰ヲ蒙レリ爾來コマハ貞操ヲ守リ専ラ兒女ノ教養ニ盡力シ一家頗ル和融ノ風アリ而シテ貧富ノ程度ハ前記ノ如ク固ヨリ赤貧ト云フニアラザルモ一家ノ糊口ニ缺クル所ナシ子孫夫レ或ハ幸慶アラン乎哉

日田郡日田町平民產物商

井上市米

弘化三年四月八日生



少壯ノ頃同町中川家ヨリ入りテ當家ヲ繼承ス資性朴直義氣ニ富ミ敬神愛國ノ思想甚旺盛人呼デ敬神愛國翁ト爲ス又夙ニ孝子ノ稱アリ或時實家ノ不幸ニ遭遇シ廢頽ヲ極メシヲ憂ヒテ挽回ノ策ヲ講シ中風症ニ惱メル老母ヲ一身ニ引受ケ孝養ヲ盡シ明治四年松方日田縣知事ヨリ賞詞ヲ受ク明治七年竹田村惣代補助ニ選任セラレタルヲ始トシテ區長議員委員等ト爲リ或ハ特種團體ノ委員等ニ擧ケラル明治二十七八年並ニ明治三十七八年ノ戰役ニ際シテハ大波羅社ニ皇軍戰勝軍人武運長久ノ祈願ヲ爲シ出征軍人慰問軍人家族保護軍資獻納軍需品寄贈國債募集等ニ熱誠盡瘁シ其間殆ト家事ヲ顧ス郡内ノ軍人ハ其ノ義氣ニ感シ胥謀リテ大原山上ニ頌德碑ヲ建設セリ明治三十九年賞勳局ヨリ銀盃ヲ下賜セラ

大分縣井上市米

明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付銀盃壹組ヲ賜フ

明治三十九年四月一日

賞勳局總裁從二位勳一等子爵 大給 恒

日田郡豆田町

清水作藏 妻 ト ミ

其方儀平素身心深ク夫作藏癘疾難儀之處數年看病行届農間ニ者女功ヲ相勵子供養育等モ行届一族近隣之氣請宜敷趣相與奇特之事ニ候依之爲褒美鳥目拾貫文遣之候事

壬申三月二十日

大分縣參事 森 下 景 端

第八大區二小區花月村農

安心院清右衛門

其方儀賦性淳良一家兄弟姑婦十數口ノ家眷同居親睦率先農事相勵ミ候段奇特之事ニ候因テ爲其賞金壹圓下賜候事

明治八年六月二十九日

大分縣令 森 下 景 端

第八大區十一小區出口村農

高 村 喜 七

其方儀賦性實直ニシテ厚ク 朝旨ヲ遵守シ孜孜本業ヲ勵ミ同郷貧度ニシテ貢租淹滯スルモノハハ金穀

取替ヘ完納セシメ又耕地ナキモノハ田畑ヲ貸與ヘテ耕耘セシム等焦眉ノ困難ヲ救援スル友于恤窮ノ情義感心之至ニ候依テ爲其賞金貳圓下賜候事

明治八年七月九日

大分縣令 森 下 景 端

第八大區九小區川原村農五平父

川 村 忠 太

其方幼稚ニシ而父母ヲ喪ナヒ自後伯父ノ手ニ成長シ晝夜農事ヲ勉勵シ又能ク節儉ヲ以テ家道ヲ中興シ終ニ富饒ヲ來セリ年已ニ八十ヲ經ルモ猶力作支體ノ勞ヲ厭ハス郷閭壯丁ノ模範トモ相成奇特之事ニ候依テ爲其賞金壹圓下賜候事

明治八年七月九日

大分縣令 森 下 景 端

第八大區八小區大野村農

河津峰藏父 河 津 藤 平

其方齡已ニ七十有餘ニシテ夙夜農事ニ勉勵シ寸時モ手ヲ空フセス人ニ接シテ温厚一家親睦シ年少懶惰ノ軌範トモ相成奇特ノ義ニ付爲其賞金壹圓下賜候事

明治九年三月二十五日

四八

大分縣令 森下景端

事 歴

齡既ニ七十餘ニシテ尙農事ニ勉勵スル朝暮之出入必ス星ヲ見サルナク夜業ニ沓鞋ヲ造リ繩ヲ綯ヒ寸時モ徒手セズ其性善良ニシテ人ニ接スル温厚一家ハ素ヨリ一團ニ至ルマテ善ク親睦シ實ニ農村ノ準墨ト稱セララル

第八大區八小區赤石村農

長谷部 森右衛門

一家親睦ニシテ農事ヲカメ身節儉ヲ以テ富ヲ郷間ニ稱セラ、ニ至ル人ニ金穀ヲ貸與スルモ強息ヲ貪ラズ貧者ノ幼稚ヲ鞠育スル等患難共救ノ心術將來ノ龜鑑トモ相成奇特ノ儀ニ付爲其賞金壹圓下賜候事

明治九年三月二十五日

大分縣令 森下景端

事 歴

天賦淳良敢テ人ト争フ事ナク毎ニ努メテ節儉ヲ爲シ專ラ意ヲ農事ニ傾ク故ヲ以テ家族亦孜々トシテ業ヲ勵ミ一家和睦シ相俱ニ勞役スルヲ以テ近年著シク富榮ヲ増セリ然レトモ人ニ金穀ヲ貸スヤ強息ヲ附

セス近隣ノ依頼ニ應シ貢納ニ窮スルヲ救ヒ貧者ノ稚童ヲ養育スル亦數人ニ及フ等其心掛洵ニ奇特ト云フヘシ

日田郡夜明村平民要件長男

井上 善一

十五年八ヶ月

其方儀幼ニシテ善ク親ニ事ヘ父要件ノ看病數年不怠奇特ニ付爲其賞金五拾錢下賜候事

明治十二年三月二十四日

大分縣令 香川真一

事 歴

資性實直幼ニシテ善ク父母ニ事フ家素貧置加ルニ父要件病瘳ニ在ル茲ニ五年復タ家事ヲ省ミス善一ニ身負擔耕耘備役晨タカヲ極メ以テ要件醫藥ノ資ヲ辯シ看護親切數年不怠且一家六口賴テ以テ飢寒ヲ免ル等年少奇篤ノ心佗ノ標準トナスニ足ル

當縣豊後國日田郡大肥村平民

故堀新七長女 イ サ

天保四年正月廿日生

四九

其方儀父新七ニ事ヘテ十四年間孝養不怠段奇特ノ義ニ付爲其賞壹圓五拾錢下賜候事

明治十二年五月二十四日

大分縣令 香川 眞一

事 歴

性質順良十四年前夫ニ離レ爾來猥行ナク専ラ父新七ニ事エ新七三年前ヨリ罹病手足不仁イサ心ヲ看護ニ盡シ百事父ノ望ニ適ヘ其死期乃本年三月迄孝養恰モ一日ノ如シ隣佑ノ交誼モ亦醇ク郷黨之ヲ稱ス

豊後國日田郡赤岩村平民

小野 藤 四 郎

天保十三年十一月一日生

其方儀累年孝養怠ラス且ツ實意ヲ以テ人ニ交ル段奇特之義ニ附爲其賞金五拾錢下賜候事

明治十二年五月二十七日

大分縣令 香川 眞一

事 歴

資性篤實信義ヲ以テ人ニ交ル父元衛門酒ヲ嗜ム家貧フシテ沽フ能ハス藤四郎毎ニ備役ニ服シテ之ヲ辨ス三年前父病ニ寢ス時秋收ニ際シ農事多忙ナルモ日夜床下ヲ離レス意ヲ看護ニ専ラニス隣伍其ノ篤

行ニ感シ相率テ爲メニ收穫ス元右衛門没後追慕熈マラス晨昏靈牌ニ向ヒ告語スルコト存在ノ時ノ如シ母サヨ齡八十ヲ越エ老頑偏屈藤四郎從容慰藉シ一モ其ノ意ニ乖ク事ナシ母遊行ヲ好メハ遠キヲ厭ハス負テ往復スル等奇特トイフヘシ

豊後國日田郡夜明村平民

井上要作妻 ソ テ

弘化元甲辰年三月七日生

其方儀貞操ヲ全フスル累年且家業ニ勉勵スル段奇特之義ニ付爲其賞金五拾錢下賜候事

明治十二年五月二十七日

大分縣令 香川 眞一

事 歴

夫要件去ル明治八年ヨリ病ニ罹リ家事意ノ如クナラサルヲ以テ漸ク貧窶ヲ極ムソテ看病ノ傍ラ備役ニ服シテ纒カニ飢餓ヲ免ル且長男善一ヲ指揮シテ駄賃稼キヲ爲サシメ其ノ獲ル所ヲ以テ藥資ニ充ツ要件病往葺藥治スヘカラサルヲ知り黎明必ス神社ニ詣リ治癒ヲ祈請スル一年有餘郷黨其ノ貞操ヲ感賞シ爲メニ藥資ヲ辨スルニ至ルソテノ貞操他ノ模範タルニ足ル

日田郡西大山村平民

森 玉 吉

天保九年四月二日生

多年父母ニ事テ孝養怠リナク且家業勉勵候段奇特ニ候事

明治十六年十一月十五日

大分縣令西村亮吉代理

大分縣書記官 佐々木千尋

事 歴

資性實直ニシテ家業黽勉親ニ孝養ヲ爲シ近黨ノ交際專信義ヲ以テス家ニ八十有餘ノ老父母アリ身体羸弱加フルニ實父源吾ハ今ヲ去ル八年前ヨリ痰病ヲ患ヒ以來病床ニ常臥シ座上ノ歩行ヲモ自由ナラス且耳聾トナリテ容易ニ聞ク事能ハスト雖モ頗ル談話ヲ好ムノ實ナレバ常ニ耳ニ附シ世間ノ狀況珍奇異聞細大トナク逐一之ヲ語リ病父ノ鬱ヲ慰メ或ハ口ニ嗜ム物アレバ何品ニ係ハラス買求メテ之ヲ奉供セサルハナク平素ハ勿論如何ナル家業多端ノ爲メ疲勞シタル時ト雖モ晝トナク夜トナク父母ヲ慰シ殊ニ兩便洗湯毫モ援助ヲ怠ル事ナク其ノ孝心ナル事言語ニ盡シ難シ因テ庶人舉テ嘆賞セサルハナシ

大分縣日田郡光岡村長

勳七等 長 野 直 恕

維新前庄屋ヲ命セラレタルコト五回明治五年以來副戸長區長戸長縣屬郡書記ニ歷任スルコト十年町村制實施ニ際シ光岡村長ニ選ハレ以テ今日ニ至ル勤績二十年常ニ令違ヲ恪守シテ事務ヲ整理シ最モ精勤ノ聞アリ特ニ小學校舎ノ新築分教場ノ設置及溜池ノ築造等多額ノ工費ヲ要スル事業ヲ完成シ又蠶業ヲ獎勵シテ稚蠶共同飼育所ヲ設ケシメ農事ノ改良ヲ圖リテ共同苗代組合ヲ組織セシメ以テ共同苗代田稻正條植ノ勵行ニ資セシ等其功勞顯著ナリトス仍テ銀杯一箇ヲ下賜シ之ヲ表彰ス

明治四十二年七月十六日

大分縣知事從四位勳三等 千 葉 貞 幹

常の人の語て空しく捨つべからぬものにやあらん或人曰く諸細工人は多くは不才にして不器用也醫者は過酒にして不養生なり坊主は不法にして不信心なり聰明才子は多く不勉強なり富人は多くは強欲にして不仁也

森 伊左衛門

大分縣日田郡朝日村長

勳七等 田島 永通



著ナリトス仍テ銀杯一箇ヲ下賜シ之ヲ表彰ス

明治四十二年七月十六日

嘉永三年里正ト爲明治五年以來副戸長戸長ニ歷任シ町村制實施ノ際村長ニ舉ケラレ今日ニ至ル勤績實ニ五十九年ノ久シキ終始忠實公同ノ事務ニ勤勉シ特ニ小學校舎ノ新築農事ノ改良蠶業ノ獎勵溜池ノ築造排水模範田ノ設置等企畫經營宜キヲ得其功勞顯

大分縣知事從四位勳三等 千葉 貞幹

偶 成

農舍原無筆墨因 悠々何異結繩民
兒孫今日新知字 老阿爺猶太古人

平野 五岳

大分縣日田郡五馬村

日 隈 精 一



資性温厚夙ニ殖産興業ニ志シ養蠶業ニ從事シ斯業ノ改良發達ヲ圖リ桐樹ノ栽培及ヒ稻作ノ改良ヲ獎勵シ其他殖林ニ畜産ニ多年農事ニ力ヲ竭シ以テ公衆ノ利益ヲ増進シ成績著明ナリトス仍テ銀杯一箇ヲ下賜シ之ヲ表彰ス

明治四十二年七月十六日

大分縣知事從四位勳三等 千葉 貞幹

凡農業の内にて最大切にすべきものは蠶織を撰ふなり是則ち天地の化育を助くべき内の一つにして百穀を世に充しめて以て万民の生養を厚くするの第一義なり

大藏 永常

五六
大分縣日田郡大鶴村
井上武

資性温厚夙ニ公益ニ志シ風紀ノ改善産業ノ發達小作人ノ保護勤儉貯蓄ノ獎勵農事ノ改良其他道路ノ開鑿通信機關ノ設置教育ノ普及等ニ力ヲ竭シ其功勞顯著ナリトス仍テ銀杯一箇ヲ下賜シ之ヲ表彰ス
明治四十二年七月十六日

大分縣知事從四位勳三等 千葉貞幹

大分縣日田郡日田町

坂井喜平

資性温厚質朴夙ニ忠實事ニ當ル安政三年年齡二十四初メテ森家ニ仕ヘ主ヲ代フルコト四世年ヲ經ルコト實ニ五十有四年此間特ニ植林ニ熱心シ銳意之レカ經營ニ當リ又洪水ノ爲主家ノ耕地多ク荒廢ニ歸シタルモ專心刻苦終ニ能ク之ヲ復舊セシメタル如キハ最モ著名ノ事例ナリトス現今七十有七歲尙ホ鏗鏘トシテ多年一日ノ如ク業務ニ精勵シ克ク主家ノ福利ヲ増進ス洵ニ他ノ模範タリ仍テ銀杯一箇ヲ下賜シ其ノ功勞ヲ表彰ス

明治四十二年七月十六日

大分縣知事從四位勳三等 千葉貞幹

大分縣日田郡前津江村

尾續傳次郎

明治十二年二月二十日生



資性温厚ニシテ思慮周密生レテ二歳父ヲ喪ヒ母ト共ニ赤貧洗フカ如キ母ノ生家ニ寄食シ幼弱ノ身ヲ以テ母ヲ助ケテ糊口ニ資シ一意孝順苟モ其ノ意ニ反セス隣保傳ヘテ少年ノ模範ト爲ス明治三十五年母ノ病ニ罹ルヤ其ノ死亡ニ至ルマテ臥床殆ト七年ノ久シキ一身ヲ割キテ勞役ト奉養トニ努メ粉骨碎身生計ヲ營ミ病母ヲ看護シテ懇切ヲ極メ寔ニ克ク其ノ分ヲ盡シタルハ實ニ奇特トス仍テ爲其賞金五圓下賜候事

明治四十三年一月四日

大分縣知事從四位勳三等 千葉貞幹

儉約は奢らずして程よく取適し蓄あれば相應に人にも恤むなり倍はさるものほうけすべき事はせず理も非もなく人より惡しくいはれてもかまはず金銀をたむるを云ふ

大藏永常

五七



大分縣日田郡西有田村
伊藤 助市
慶應二年二月二十六日生

資性温厚篤實思慮周密ニシテ公共ノ志厚ク明治三十三年西有田村
収入役ニ舉ケラレ尋テ助役ニ當選シ今日ニ至リ村治ニ鞅掌スルコ
ト十有二年孜々トシテ捲マス又夙ニ意ヲ勸業ニ注キ四十一年西有
田村農會副會長ニ舉ケラレ現ニ其職ニ在リ多年農事ノ改良養蠶業ノ發達ニ腐心シ苟モ有利ト認メタル
事ハ研究攻索必ラス自ラ之ヲ實行シ以テ範ヲ示シ指導誘掖懇切ヲ極メ功績顯著ナリトス仍テ金五圓ヲ
授與シ其ノ善行ヲ表彰ス

明治四十四年四月三日

日田郡長 富屋直太郎

農家にては毎年飢饉あるべしと心掛何によらず食用となるべきものは年々
貯置こそよき心得といふべし

大藏永常

大分縣日田郡三芳村

加藤 ゲン

明治十七年六月一日生



資性温順父母ニ仕ヘテ至孝貧窶ノ家庭ニ成長シ纖弱ノ身ヲ以テ
老齡ノ父母ヲ扶ケ粉骨碎身勞働ニ勵ミ家計ヲ支持シ夙夜歡承毫
モ倦怠ノ色ナク孝養益々努メ志操愈々堅ク闔郷咸ナ其ノ至孝ヲ
稱ス洵ニ奇特トス依テ金五圓ヲ授與シ其ノ善行ヲ表彰ス

明治四十四年四月三日

日田郡長 富屋直太郎

昔より世上に流行時様の物多端なるが多くは悪しき物也都會の人はさかく
其意輕薄風氣にして物に移りやすきは勿論なれども強國邊土の人それに移
ざるゝは不覺なり

森伊左衛門

大分縣日田郡朝日村

岡邊リツ

明治四年六月二十一日生



資性温順貧シキ家庭ニ成長シ幼ニシテ父ヲ喪ヒ兄弟亦離散シテ窮乏益々迫ル獨リ纖弱ノ身ヲ以テ他家ノ雇傭ニ應シ或ハ自ラ勞働ニ勵ミ得ル所ノ賃金ヲ以テ家計ヲ支持シ老母ニ事ヘテ懇篤到ラサルナク百方慰安ニ努ム屢々婚姻ヲ勸メラル、モ反テ孝養ヲ缺カンコトヲ慮ヒテ肯セズ志操益々堅實ニシテ毫モ倦怠ノ色ナク一意孝道ニ努ム恂ニ奇特トス仍テ金五圓ヲ授與シ其ノ善行ヲ表彰ス

明治四十四年四月三日

日田郡長 富屋直太郎

平野五岳

漫・成

請見漁村農圃間 文明風教化痴頑
賣魚賣菜臨城市 亦爲兒孫買筆運

大分縣日田郡三芳村

梅木作次

明治五年五月十八日生



資性温厚年少ノ頃ヨリ一家ヲ支持シ夙ニ孝道ノ志厚ク常ニ家業ニ勵精シ夙夜父母ノ慰安ニ努メ苟モ其意ニ反セス隣保傳ヘテ青年ノ模範トナス明治二十三年父ノ病ニ罹リ死ニ至ル迄百有餘日ノ間若年ノ身ヲ以テ日夜看護ニ意ヲ竭シ爾來母ニ仕フル孝養愈厚ク昨四十四年母八十有餘ノ高齡ニ達シ病瘳ニ在ルコト殆ント二百日ニシテ死歿スルヤ病中ノ看護懇切到ラサルハナシ寔ニ克ク其分ヲ盡シタルハ實ニ奇特トス仍テ金四圓ヲ授與シ其ノ善行ヲ表彰ス

明治四十四年四月三日

日田郡長 富屋直太郎

都て人は朝さく起べき事なれども別て農家にては何程富たる家なりとも主人は夜の明るをまちて起べし是家内取しまりの第一番也

大藏永常

大分縣日田郡大山村書記

巨山憲亮

大分縣

教育資金使用規則第八條ニ依リ硯箱壹個賞與ス

明治三十五年十月二十四日

大分縣日田郡日田高等小學校訓導

小野京市

大分縣

教育資金使用規則第八條ニ依リ金參拾圓ヲ賞與ス

明治三十九年三月二十八日

大分縣日田郡大山高等小學校訓導兼校長

片島榮市

大分縣

教育資金使用規則第八條ニ依リ金參拾圓ヲ賞與ス

明治四十年八月三十日

大分縣日田郡日田町助役

合谷恒作

大分縣

教育資金使用規則第八條ニ依リ銀盃一個ヲ賞與ス

明治四十二年三月三十一日

大分縣日田郡日高尋常小學校

訓導兼校長

今永千代吉

大分縣

教育資金使用規則第八條ニ依リ金參拾圓ヲ賞與ス

明治四十二年三月三十一日

大分縣日田郡高瀬尋常高等小學校

訓導兼校長

高原力太郎

大分縣

教育基金令第八條ニ依リ金參拾圓ヲ賞與ス

明治四十三年三月三十一日

大分縣日田郡西有田村長

中島竹藏

教育資金使用規則第八條ニ依リ銀盃壹個ヲ賞與ス

明治四十三年三月三十一日

大分縣

中島竹藏

多年村長ノ職ニアリテ熱心誠意教育上ノ施設ヲ爲シ斯道ノ爲盡瘁スル事終始一日ノ如シ本會ハ其ノ功績ノ顯著ナルヲ認メ木杯一個ヲ贈呈シ以テ之ヲ表彰ス

大正二年五月十七日

大分縣教育會

賞狀

大分縣日田郡西有田村

中島竹藏

農事改良ノ獎勵

右成績顯著ナルヲ以テ明治三十八年本會農事改良獎勵法ニ依リ茲ニ之ヲ表彰ス

明治三十九年三月二十一日

大日本農會總裁大勳位功三級 貞愛親王

賞狀

大分縣日田郡大鶴村

井上清次

對時局農事獎勵事項ノ實行

右成績顯著ナルヲ以テ明治三十八年本會農事改良獎勵法ニ依リ茲ニ之ヲ表彰ス

明治三十九年三月二十一日

大日本農會總裁大勳位功三級 貞愛親王

賞狀

大分縣日田郡三花村

稻原幸太郎

大分縣日田郡光岡村

鹽川直次

大分縣日田郡五馬村

日隈精一

大分縣日田郡光岡村

中川角次

大分縣日田郡夜明村

森山定吉

前同文

表彰狀

日田郡日田町

濱田織藏

夙ニ志ヲ公益ニ勵マシ常ニ農事ニ意ヲ留メ斯業ノ改善發達ヲ企圖シ卒先諸般ノ事業ヲ實行シ他ノ模範タルニ努力セシ功勞尠ナカラス依テ茲ニ本會所定ノ二等有功章ヲ贈與シ其篤行ヲ表彰ス

明治四十一年三月二十五日

大分縣農會長從四位勳三等 千葉貞幹

表彰狀

日田郡小野村

財津寛一

前同文

名譽賞狀

大分縣日田郡西有田村

伊藤藤助市

農事改良ノ獎勵及實行

右成績顯著ナルヲ以テ本會農事改良獎勵法ニ依リ茲ニ之ヲ表彰ス

明治四十一年十二月一日

大日本農會總裁大勳位功二級 貞愛親王

名譽賞狀

大分縣日田郡夜明村

時枝信一

農村風紀ノ改良

右成績顯著ナルヲ以テ本會農事改良獎勵法ニ依リ之ヲ表彰ス

明治四十二年十二月九日

大日本農會總裁大勳位功二級 貞愛親王

大分縣立師範學校生徒

中島市三郎

資性篤實祖先ヲ敬フノ念深ク父母ニ事ヘテ力行倦マス人ノ爲ニ謀テ勞ヲ厭フ事ナシ家豊ナラザルヲ以テ幼時他家ニ奉公シ僅ニ義務教育ヲ卒フ爾來勞役ニ服スルノ傍ラ苦學年ヲ重テ終ニ克ク師範學校入學ノ志ヲ遂グ其ノ學校ニ在ルヤ常ニ師友ニ篤ク身ヲ持スル事恭儉事ニ當ルニ至誠ヲ以テシ勤學修養毫モ懈ラス且學ビ得タル知能ヲ應用シテ公衆ノ利便ニ資セントスル等定ニ青年者ノ模範タリ仍テ本會ハ其ノ善行ノ顯著ナルヲ認メ大日本倫理思想史壹部ヲ贈リ以テ之ヲ表彰ス

大正四年五月十五日

大分縣教育會總裁正五位勳四等 黑金泰義

夫賢ヲ進メ不肖ヲ退クルハ國ヲ治ムルノ本ニシテ賢者用ヒラレバ國興リ不肖者用ヒラレバ國亡ルコト古今ノ通理ナリ

廣瀬淡窓

一、過去及現在ニ於ケル民育的施設

咸宜園

咸宜園ハ廣瀬淡窓ノ家塾ニシテ豊後日田郡堀田村(今ノ日田町大字南豆田字下中城郡)ニ在リ文化二年淡窓二十四歳ノ時家業ヲ弟久兵衛ニ譲リ最初ハ長福寺ノ學寮ヲ借り次テ魚町住宅土藏内ニ成章舎トイフ學舎ヲ設ケテ門弟ヲ教授セシガ同四年始メテ豆田浦町ニ桂林莊ナル書塾ヲ構ヘタリ、遠近ノ子弟業ヲ受クルモノ年ヲ逐フテ増加シ同莊ニ收容スルコト能ハザルニ至リタルヨリ文化十四年淡窓三十六歳ノ時更ニ地ヲ淡窓ノ伯父月化翁ノ營メル秋風庵ノ西方ニ相シテ新ニ講堂及塾舎ヲ建設シ名ケテ咸宜園トイフ側ニ居宅ヲ築キ宗家ヨリ移リテ住メリ而シテ塾生益々増加スルニ隨ヒテ菴ノ北東ニ講堂及塾舎(東塾、東樓是ナリ)ヲ増築シ又其ノ東方ニ書樓ヲ構ヘテ階上ヲ書齋トシ階下ヲ書庫トス是レ即チ遠思樓ナリ後樓ノ南ニ一屋ヲ築キ名ケテ心遠處トイフ老ヲ告グルニ及ビ淡窓起臥ノ處トナセリ咸宜園ノ學風ハ大觀ヲ主トシ人ト同異ヲ爭ハズ學問ノ主義ハ一ニ敬天ニアリテ處義制數ヲ用ト爲シ經ヲ解ク新古ニ拘泥セス唯本文ニ折衷セシノミ又書ヲ讀ムニ古今和漢ヲ問ハズ唯其ノ適用ヲ取り要ハ人オヲ育成スルニ在リキ其教育ノ方法ハ一級ヨリ九級ニ至ルノ階級ヲ設ケ每級之ヲ上下二等ニ分チテ十八級トナシ素讀輪讀詩文句讀書會獨見質問等ノ科程ヲ定メ每月末其ノ成績ニヨリテ席次ヲ上下ス之ヲ

月旦評トイフ又塾生取締規約八十二條ヲ設ケテ其ノ品性ヲ陶冶シ門人中ノ上級生ヲ選ミテ都講、副監、舎長、主簿、典業、威儀監、經營監、新來監、外來監、藏書監、洒掃監、展監、書記、侍史等ノ職員ヲ置キテ塾舎ノ事務ヲ掌理セシム於是乎宜園ノ名聲四方ニ高マリ遠方ヨリ來リ學ブ者日ニ月ニ加ハリ新ニ教ヲ受クル者百數十名ノ多キニ達シ私塾トシテハ近古稀ニ觀ルノ隆盛ヲ致シヌ當時封建ノ世土佐ノ如キ薩摩ノ如キ絶對ニ藩士ノ遊學ヲ禁ズルノ侯國少カラズ加フルニ海陸交通ノ不便ヲ極メシ時ニ方リテ一家塾ノ斯ク盛大ナリシハ當時宜園ノ名聲如何ニ高カリシヲ推想スルニ足ラン天保元年淡窓老ヲ告グルニ及ビ弟謙吉(旭莊)ヲ順養子トシテ教授ヲ監督セシム後旭莊大阪ニ移ルニ及ビ嗣子林外尙年少ナルヲ以テ久シク都講トナリテ塾生ヲ監督セシ高弟矢野範治(青村)ヲ義子トナシ林外カ成長能ク其ノ任ニ堪フルニ至ルマデ一時塾政ヲ委テタリシガ淡窓歿後ハ相共ニ淡窓ノ規約ニ據リ銳意育英ノ事ニ從ヒシニ宜園ノ名聲彌々高ク入塾ノ書生益々多カリキ文久二年青村ノ日田ヲ去ルヤ林外乃チ其ノ後ヲ承ケ專ラ教授ノ事ニ從ヒシモ數年ナラズシテ世態一變長州征討ノ事アリ續イテ王政維新トナリ伏見ノ役奥羽ノ戰世ハ頗ル騷擾ヲ極メシモ宜園ハ依然絃誦ノ聲ヲ絶タズ塾生常ニ百餘名ニ及ベリ然レドモ星霜久シキニ涉リ塾舎朽廢殆ド用ニ堪ヘザルモノアリ乃チ明治二年地ヲ秋風庵ノ北方ニトシ大講堂ト大規模ノ塾舎二棟ヲ新築シ其結構壯觀ヲ極メ爾後塾運頗ル旺盛ニ向ヒタリシカ明治四年廢藩置縣ノ事アリ教育制度改定ノ事アリ宜園復タ舊態ヲ守ル能ハス於是乎林外ハ新制度視察並ニ英學研究ノ爲メ塾

務ト門生トヲ高弟唐川即定ニ託シ明治五年東京ニ遊ビシニ適々長三洲等友人ノ勸メニヨリ官途ニ就キ正院ニ出仕シ修史ノ事ニ任ゼシガ不幸ニシテ七年五月病ヲ得テ歿セリ當事青村日田ニ歸省シテ宜園ヲ經理スルコト能ハザルノ事情アリ一時宜園ヲ閉ルノ已ムヲ得ザルニ至レリ

明治十三年平野五岳諫山菽村等淡窓門下ノ士相謀リテ同窓ノ村上姑南(豊前下毛郡中摩村ノ人)ヲ招キ宜園ニ入りテ教授ノ事ニ從ハシメシニ宜園漸ク復タ振ヘリ同十八年一月青村長男貞文(濠田ト號ス)東京ヨリ歸リ村上姑南ニ代リテ教授ニ任ゼシニ二十一年五月故アリ教授ヲ淡窓門下ノ諫山菽村ニ託シテ東京ニ遊ベリ菽村ハ一ニ淡窓ノ規約ニ從ヒテ子弟ヲ教授スルコト五年同二十六年七月病歿セリ爾後宜園主ナク歲月ノ移ルニ從ヒ塾舎荒廢シ僅カニ淡窓ノ舊居秋風庵ト藏書五千餘卷ハ廣瀬宗家ノ維持保全ニヨリ其荒廢散逸ヲ免レタリシガ大正四年淡窓圖書館ノ建設セラレ、ニ至リ咸宜園ニタビ世ニ興ルノ感アリ文化二年間塾創始以來安政三年淡窓遠逝ニ至ルマデ五十二年爾後明治二十六年諫山菽村病歿マデ三十六年前後實ニ八十八年ノ星霜ヲ經過シヌ其ノ間四千ノ弟子各々其ノ長ヲ發揮シテ一世ヲ風靡シ各種ノ方面ニ名ヲ成セルモノ甚ダ鮮カラズ咸宜園ガ世ノ文化ヲ裨補シ風教ヲ維持シタルノ効果實ニ偉大ナリトイフベキナリ

門弟中高名ナルモノ左ノ如シ

高野 長英

大村藏六(益次郎) 松田 道之

島 維精

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 中島 子玉 | 長 梅 外 | 長 三 洲 | 恒 遠 精 齋 |
| 劉 石 舟 | 西 秋 谷 | 谷 口 藍 田 | 藐 姑 射 德 令 |
| 秋 月 橋 門 | 小 栗 栖 香 頂 | 平 野 五 岳 | 後 藤 東 菴 |
| 堤 靜 齋 | 武 谷 澧 蘭 | 吉 富 復 軒 | 村 上 姑 南 |
| 孔 珠 溪 | 諫 山 菽 村 | 米 谷 春 里 | 柴 秋 村 |
| 千 原 夕 田 | 秋 月 新 太 郎 | 小 栗 憲 一 | 赤 松 連 城 |
| 田 村 潤 卿 | 石 井 南 橋 | 佐 野 東 菴 | 龜 谷 省 軒 |
| 楠 木 碩 水 | | | |

清浦圭吾。横田國臣。横井忠直。朝吹英二ノ如キハ後年入門セシモノナリ

陰 德 倉

鹽谷代官ノ治績甚ダ鮮ナカラザルガ中ニ公ハ曾テ日田郡内ノ窮民ノ爲ニ飢歲ノ備ヲナサントシ富民ニ謀リテ出穀ヲ勸誘シ倉ヲ豆田町ニ設置シテ陰德倉ト稱セリ當時有志ノ寄附米約六百俵ニ及ベリト云フ石ニ銘シタル文ニ曰ク

陰 德 倉 記

陰德倉、在日田陣屋東南、近郊之市民、相募出穀而藏焉、以爲賑恤之具、窮民喜之、稱以是名、夫官倉蓄穀、以備不虞、其制固久、然非水旱大災、不得發之、今有此倉、則藏、平時亦將用之

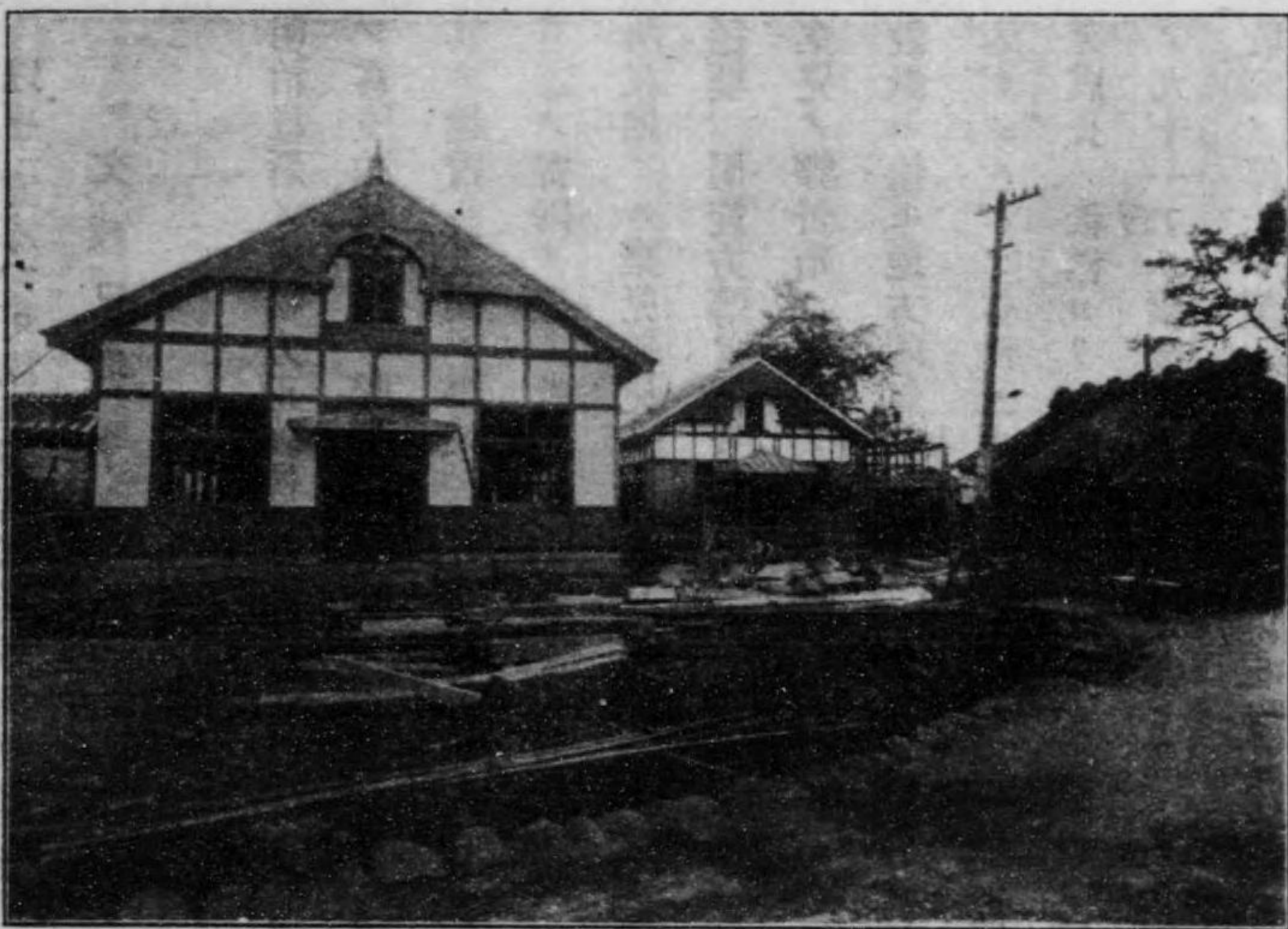
以惠鰥寡、可謂輔翼官倉矣、予甚嘉之、故記其事、且命勸納穀者姓名於石、以勸後人、欲其有繼焉爾

文 政 己 卯 季 冬

養 育 館

知 郡 使 藤 原 正 義 撰

明治維新ノ後枡方正義侯日田縣令トシテ來任スルヤ當時淫猥ノ風甚シク加之慶應ノ頃ヨリ飢饉打續キシ爲墮胎及棄兒ノ弊習瀰漫セルヲ以テ深ク之ヲ慨シ醫師及有志ヲ招キテ慈善養育事ヲ諮問セラル一同其ノ趣旨ニ賛同シ事業ノ爲ニ努力スベキ旨ヲ答申セリ依テ候ハ事業基金トシテ自ラ數百兩ヲ投シ郡内有志ノ寄附ヲ募リ數千兩ノ巨額ヲ得タリトイフ茲ニ於テ明治二年二月豆田隈兩町間（今ノ日田郵便局所在地）ニ棄兒孤兒貧兒收育所ヲ創設シ之ヲ養育館ト稱セリカクテ規定ヲ設ケ養育掛、探索方、醫師、穩婆、周旋方等ヲ置キテ各々其ノ任務ヲ定メタリ而シテ是等ノ役員ハ無報酬ニテ盡瘁セリ、爾來墮胎棄兒ノ弊習殆ンド其ノ跡ヲ絶チ風教大ニ革マルニ至リシハ實ニ養育館ノ賜トイフベキナリ而シテ其ノ設置ハ恰モ地方凶歛ノ際ナリシヲ以テ收育ヲ請フモノ甚ダ多ク明治二年ヨリ同五年末迄四ケ年間ニ收容シタルモノ保胎三百六十六、保胎出生後依然館ノ保護監督ヲ受ケタルモノ百九十二養育成功ト稱シテ成長ノ後館ヨリ養子ニ遣ハシタル等ノ際金品ヲ贈與セルモノ男七十一女八十八貧窶ノ爲收育セシモノ九十一アリ爾後時勢ノ變遷ニ伴ヒ該事業ヲ廢停スルノ止ムヲ得ザルニ至リ明治五年末ヲ限り全ク新收容ヲ停止シ翌六年末迄ニ在院兒ノ處分ヲ了シ閉館セリ。



淡窓圖書館

日田郡教育會ハ夙ニ淡窓文庫設置ノ必要ヲ認メ明治三十九年六月之ガ調査委員ヲ囑託シテ諸般ノ調査ヲナシ或ハ在京緣故者ノ意見ヲ問ヒ以テ其ノ計劃ヲ遂行セシメテ努メタリシモ容易ニ着手ノ運ニ至ラズ大正二年七月淡窓先生頌德祭ヲ執行シ同時ニ先生ノ遺墨展覽會ヲ開キ名士ヲ聘シテ講演會ヲ催シ以テ先生ノ德ヲ追頌スルト共ニ此ノ事業ノ進行ヲ企劃セリ本年ハ時恰モ大典ニ際シタルヲ以テ千載一遇ノ盛典ヲ記念センガ爲メ事業ヲ遂行セントコトヲ委員並ニ郡内町村長ニ謀リシニ一同好適ノ記念事業トシテ其ノ賛同ヲ得タリ仍テ六月新ニ文庫設置委員ヲ囑託シ建築工事ハ之ヲ郡立工藝學校ニ依頼スルコトニ決シ同年七月先生ノ宗家廣瀨貞治氏ヨリ特志ヲ以テ提供セラレタル咸宜園跡地(七百坪)ニ經費五千餘圓ヲ投ジテ圖書館講演會場及書庫二棟ヲ建設スルニ至レリ今ヤ先生ノ藏書遺墨等ハ不朽ニ傳ハリ瀟洒タル先生ノ舊居ト共ニ不言ノ教訓ヲ垂レ知能ノ啓發ニ資シ以テ世ノ風教ヲ裨補スルコト甚大ナルモノアルベシ

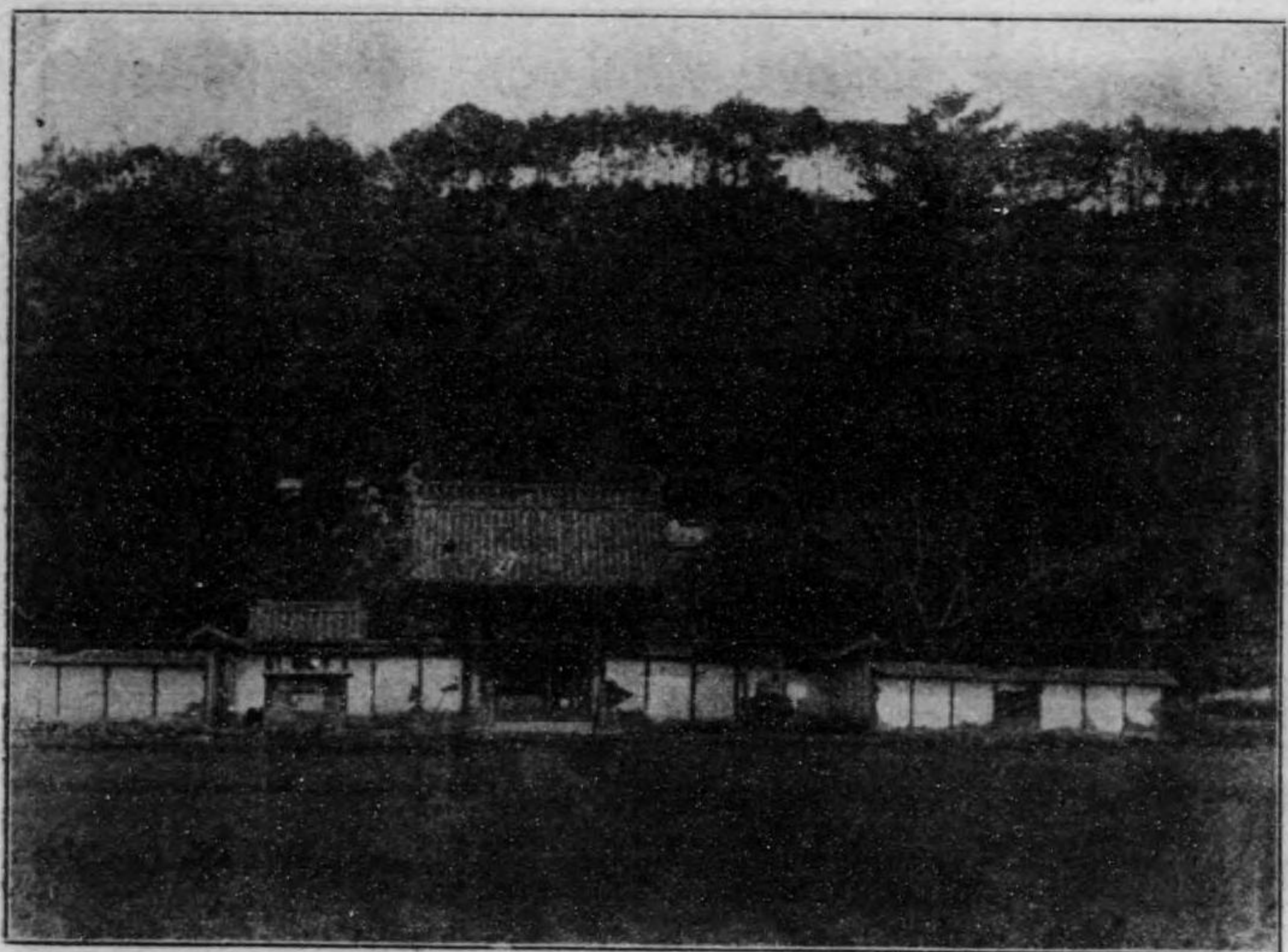
一、郡民ノ尊崇厚キ社寺

大波羅社

三芳村大字田島字大原ノ山上ニアリ、貞觀元年(紀元一五一九年)郡司大藏永弘ノ創立ニ係ル祭神ハ譽田別命息長足姬命比賣大神ノ三神ニシテ宇佐宮ノ例ニ依リ息長足姬命比賣大神ヲ相殿ニ鎮メ奉レリ陽成帝ノ元慶元年大原宮ノ社號ヲ賜リ境内四千九百餘坪古松老杉蒼鬱タリ建久年中九州探題大友能直柞原八幡社ヲ豊東ノ總社トシ本社ヲ豊西ノ總社ト定メ相州鶴ヶ岡八幡宮ノ社式ヲ移ス本社ハ元同村大字求來里ニアリシヲ元和十年(紀元二二八四年)當郡領主石川主殿頭總輔今ノ地ニ遷座シ奉リ永ク本郡ノ總社ト定メ社領ヲ寄附ス明治五年縣社ニ列セラル寶物中權中納言大江匡房卿眞蹟ノ扁額アリ郡司大藏永季之ヲ獻納ス現今一ノ鳥居ニ掲ゲル「大波羅野御屋新呂」ノ文字ハ之ヲ模寫彫刻シタルモノナリ

大祭ハ毎年九月二十六日ヨリ三十日ニ至ル五日間ニシテ宇宮ノ大夫ニ神幸アリ明治四十年ヨリ幣饌供進ノ式ヲ擧ゲラル、コト、ナレリ此祭典ヲ仲秋祭(俗ニ放生會)ト稱シ遠近ノ老幼奉賽スルモノ頗ル多シ





岳林寺(臨濟宗)

光岡村大字友田ニアリ後醍醐天皇勅願ノ靈場ニシテ
 開基ハ元ノ明極禪師ナリ元弘元年(紀元一九九一
 年)勅ヲ奉シテ郡司大藏永貞伽藍ヲ建立ス同年三月
 宸翰ヲ降シ玉容模刻ノ聖像及寺領ヲ賜ヒテ皇運ノ長
 久王道ノ太平ヲ祈ラシム其後禪師楠公ノ靈像ヲ本寺
 ニ奉祀ス代々ノ將軍何レモ寺領ヲ寄附シ明治元年勅
 願ノ舊儀ヲ繼ギ田ヲ賜フコト舊ノ如シ日田縣令松方
 正義尊崇甚ダ厚ク明治三年聖像及楠公ノ像ヲ日田町
 大字庄手日隈山ニ遷シ日隈神社ヲ創建ス寺寶ニハ宸
 翰編旨金輪寺ノ茶器御草履等アリ古社寺保存法ニ依
 リ金百圓ヲ下附セララル一般ノ尊崇極メテ厚シ

表徳を乞ふ人に示す

求むれば心の松に月もあり

月

化



一、治績及事業ノ優良

ナルモノ

西有田村治績一斑

概況

本村ハ郡ノ東北部ニ位シ日田町ヲ距ル一里廣袤ハ
 東西三里南北二里面積一方里餘戸數四百人口二千
 七百餘ヲ有ス村内多クハ小山丘陵巒々起伏シテ西
 方字札町付近一部ノ地ヲ除ク外凡テ不齊ノ地ナリ
 部落ハ多ク此間ニ散在シ花月川ハ村ノ西部ヲ流レ
 有田川玖珠郡ヨリ來リ東有田村ヲ經テ本村ヲ貫流
 ス此二川ノ流域僅カニ平坦ニシテ地味亦豊沃ナリ
 本郡ノ良米トシテ有田米ノ稱アルハ實ニ此地方ヨ
 リ産出スルモノナリ
 本村ハ元森藩ノ所領ニ屬スル有田郷ノ内中尾村、
 西池部村、小寒水村、石松村、上手村及天領ノ内

坂本ノ六ヶ村ヲ合併シタルモノニシテ有田、西有田ノ二大字ヲ有シ町村制實施ノ當初ニアリテハ大字間ノ感情上多少村治ノ圓滑ヲ缺キタリシモ時ノ村長大谷宗三郎ハ銳意其調和ヲ計リ或ハ教育ノ忽セニスベカラザルヲ説キテ學校ノ改築ヲ行ヒ或ハ殖産興業ノ急務ヲ唱道シテ卒先自ラ犁鋤ヲ採リテ農産物ノ試作ヲナシ良好ナルモノハ其種苗ヲ村内ニ配與シテ之レガ普及ヲ謀リ又蠶桑ノ業ヲ獎勵セン爲メ已レ先ヅ桑園ヲ開キテ模範ヲ示シ或ハ青年ヲ勸奨シテ蠶業傳習所ニ入レ養蠶ノ利益ヲ知ラシメ或ハ道路ヲ改築シテ交通ノ便ヲ開キ或ハ凶荒窮民アレバ私貨ヲ投ジテ之ヲ救恤シ又ハ村内ノ有力者ヲ説キ恤救金穀ヲ寄附セシムル等熱誠懇切至ラザルナク在職十二年ノ間専ラ村ノ圓滿ナル發達ト公德ノ養成トヲ計リ村民ノ信望厚ク其施設事業ノ如キ村民奮ツテ之レヲ贊セザルコトナシ有志宮崎金平中島仙次亦公共ノ志頗ル篤ク宮崎ハ保長、學校世話方、聯合町村會議員、村會議員ニ舉ゲラレ明治四十一年七月村會議員在職中死歿セリ其職ニ在ルヤ常ニ公共ノ事ニ盡瘁シ部民ノ緩和ニ努メ中島ハ學務委員郡會議員兼郡參事會員村會議員等ノ公職ニ就キ現ニ村會議員タリ常ニ能ク公共事業ニ向ツテ卒先私貨ヲ抛チ且ツ熱心盡力至ラザルナシ明治三十三年四月大谷村長歿後現村長中島竹藏其後ヲ襲ギ熱誠以テ村治ノ衝ニ當リ前村長ノ遺志ヲ繼承シテ事務ノ刷新、産業教育ノ發展道路ノ開築等腐心劃策著々之レガ遂行ニ努メ助役伊藤助市亦熱心懇切村長ヲ輔佐シテ産業ノ獎勵ニ盡瘁シ益々向上發展ノ機運ニ進ミツ、アリ

明治三十八年二月本縣模範村ニ指定セラレタリ

辭 令

大分縣日田郡西有田村

大分縣模範町村ニ指定ス

明治三十八年二月二十四日

大分縣知事 大久保利武

村吏員ノ勤績年數

村長 中島竹藏

明治二十六年三月收入役ニ舉ゲラレ勤績七年ニシテ同三十三年二月助役ニ當選同年七月村長ニ當

選就職現今ニ至ル

助役 伊藤助市

明治三十三年二月收入役ニ舉ゲラレ勤績六年ニシテ同三十九年五月助役ニ當選就職現今ニ至ル

收入役 中島不二人

明治四十二年二月收入役ニ就職現今ニ至ル

書記 中島雪之助

明治四十年三月書記ニ就職現今ニ至ル

村會議員ト村會

議員定數十二名ノ内一人死亡シ現員十一名ナルガ町村制施行以來勤績ノモノ一人二十年以上ノ者一人十四年以上ノ者一人十一年以上ノ者一人八年以上ノ者一人五年以上ノ者二人二年以上ノ者四人ナリ議員ハ各組ニ按排選出セラレ村會ニ當リテハ理事者ト議員トノ間常ニ圓滿ニシテ提出セラレタル議案ハ殆ンド其ノ儘ニ議了シ修正等ノコトナク理事者ハ議員ニ依頼シ議員ハ理事者ヲ信用シテ共ニ議事ノ進行ヲ圖リ概テ開會即日議了スルヲ常トス

事務整理

一般事務ノ整理ハ勿論文書ノ編綴簿冊ノ整頓能ク行ハレ氣象、土地、戸口、生産其ノ他ノ事項ト雖モ苟クモ村及ビ村民ニ關スルモノハ役場ニ在テ一モ知ルベカラザルモノナク統計臺帳其他ノ帳簿ニ至ル迄常ニ其ノ異動ヲ示シテ漏ラスコトナシ故ニ臨時ノ必要ニ基ケル各種ノ報告等ハ概テ即座ニ之ヲ辨知スルコトヲ得ベク特ニ之レガ調査ノ爲メニ報告ノ期限ヲ失フガ如キコトナキノミナラズ報告例ニ依リテ定期ニ提出ヲ要スベキ諸報告ノ如キモ敢テ遲滯スルガ如キコトナシ

納税

村民納税ノ義務ヲ尊重シ明治三十五年度ニ於テ村税ニ僅カニ四拾參錢ノ棄損ヲ見シ迄ニテ爾來國稅、縣稅、村稅通ジテ滯納ナキノミナラズ赤十字社年醜金、愛國婦人會々費ニ至ル迄指定ノ期限ニ後ルコト

ナク成績實ニ優良ナリ

村及小學校基本財産並ニ罹災救助資金

村基本財産蓄積ニ付テハ明治三十五年蓄積條例ヲ設定シ毎年 (一)基本財産ヨリ生ズル收入 (二)歲計剩餘金十分ノ一以上 (三)國稅徵收法及ビ府縣稅徵收法ニ依リ收入スル交付金 (四)戶籍法及手數料條例ノ規定ニ依リ收入スル手數料ヲ蓄積スルコト、定メタリシガ實施後幾許ナラズシテ日露戰役ニ際シ非常特別稅法施行セラレシ結果一時其蓄積ヲ停止シ大正二年三月ヲ以テ更ニ條例ヲ改メテ蓄積ヲ續行シツ、アリ明治四十年三月及同四十二年八月ノ兩度ニ蓄積金ヲ使用シテ左ノ山林ヲ購入シ造林經營ヲナシ居レリ基本財産ノ現在額左ノ如シ

現金

一、銀行預金四百七拾壹圓七拾六錢貳厘

有價證券

一、大分縣農工銀行株百四拾圓

山林

一、拾五町六反八畝貳拾四步

明治四十年三月國有林ノ拂下ヲ受ク

一、九畝貳拾四步

明治四十二年八月個人有ヲ買入ル

學校基本財産蓄積ニ付テハ明治三十五年十月學校基本金蓄積規約ヲ設定シ該規約ニ依リ生ズル收入ヲ毎年蓄積スルコト、シ爾來之レガ實行ヲナシ居レリ其ノ現在額左ノ如シ

現金

一、銀行預金九百貳拾圓六錢壹厘

有價證券

一、大分縣築港公債貳千五百圓

明治四十四年三月學校基本財産蓄積成績優良ノ廉ヲ以テ縣ヨリ賞ヲ受ク

大分縣日田郡西有田村

夙ニ學校基本財産ノ蓄積ニ着手シ其成績見ルベキモノアリ

明治四十四年三月三十一日

大分縣

罹災救助資金ノ蓄積ニ付テハ明治三十七年十一月規則ヲ設定シ明治四十三年度ヲ以テ全ク積立義務額ヲ終了シタリ爾來該資金ヨリ生スル收入ノミヲ蓄積シ居レリ其現在額左ノ如シ

現金

一、銀行預金八百七拾七圓參拾六錢四厘

有價證券

一、大分縣築港公債壹千五百圓

一、大分縣農工債券壹千圓

附記

學校基本金蓄積規約ニ依リ收入スル蓄積金ノ區別ヲ左ニ掲グ

- 一、本籍寄留ノ別ナク新ニ一戸ヲ爲シタルトキハ金參拾錢
 - 二、入寄留ニシテ一世帯ヲ爲サル者ハ一人ニ付金拾五錢
 - 三、營利ヲ目的トセル演劇興行ヲ爲ストキハ一日ニ付金參圓
 - 四、營利ヲ目的トセル演劇興行以外ノ諸興行ヲ爲ストキハ一日ニ付金貳圓
 - 五、放樂トシテ演劇興行ヲ爲ストキハ一日ニ付金五圓
 - 六、放樂トシテ操人形興行ヲ爲ストキハ一日ニ付金五圓
 - 七、前二號以外ノ諸興行ヲ爲ストキハ一日ニ付金參拾錢
- 但警察ノ許可ヲ受クルニ及バザルモノハ此ノ限ニアラズ

- 八、牛馬市ヲ開設スルトキハ一日ニ付金五拾錢
- 九、土地ヲ分筆シタルトキハ分筆シタル筆數ニ應ジ一筆ニ付金五錢
- 十、土地ヲ合筆シタルトキハ元筆ニ應ジ金五錢
- 十一、地目地類ノ變換ヲナシタルトキハ一筆ニ付金五錢
- 十二、家督相續及遺產相續ヲ受ケタルトキハ一筆ニ付金參錢
- 十三、一筆ノ土地ニシテ地價金參圓未満ノ土地ヲ買受又ハ贈與ヲ受ケタルトキハ一筆ニ付金參錢
- 十四、一筆ノ土地ニシテ地價金參圓以上ノ土地ヲ買受ケ又ハ贈與ヲ受ケタルトキハ地價金壹圓ニ付金壹錢

但算出上壹錢未満ノ端數ハ四捨五入ノ法ニヨリ錢位ニ止ム

十五、身分ニ關スル届出ヲ爲ストキハ左表ノ區別ニ依ル

區分	結婚一配偶ニ付	産兒一人ニ付
地租ヲ納メザル者及ビ地租拾錢以下ヲ納ムルモノ	金拾錢	金五錢
地租金拾錢以上納ムルモノ	金拾五錢	金八錢
地租金壹圓以上納ムルモノ	金貳拾錢	金拾錢
地租金五圓以上納ムルモノ	金參拾錢	金拾五錢

地租金拾圓以上納ムルモノ	金五拾錢	金貳拾五錢
地租金拾五圓以上納ムルモノ	金八拾錢	金四拾錢
地租金參拾圓以上納ムルモノ	金壹圓五拾錢	金七拾五錢
地租金五拾圓以上納ムルモノ	金貳圓	金壹圓
地租金百圓以上納ムルモノ	金參圓	金壹圓五拾錢
地租金百五拾圓以上納ムルモノ	金四圓	金貳圓

本表ノ地租納額ハ其ノ届出ヲ爲スモノ、家族及同居者ノ納稅總額ヲ以テ計算ス

十六、身分及戶籍ニ關シ前項ノ外ノ届出ヲナストキハ 一件ニ付 金五錢

但死亡ノ届出ハ此ノ限リニ非ズ

教育

校舍ハ從來不完全ナリシガ明治三十九年度ニ於テ新ニ校地ヲ撰ビテ校舍ヲ建築シ村長自ラ之レガ設計
 工事ノ監督等ニ當リタリ尙同年度ニ於テ通學最モ困難ナル尾當谷山兩部落ノ爲メニ校舍ヲ尾當部落ニ
 建築シテ尾當分教場ヲ創設シ或ハ有志ノ寄附七百有餘圓ヲ得テ本校ノ機械標本等ノ設備ヲ完成シ且本
 校ノ増築ヲ行ヒテ高等科ノ併置ヲナシ又他村ニ率先シテ實業補習學校ヲ設置セリ而シテ大正元年度ニ
 於テハ更ニ本校舎ヲ増築シ大正三年度ニ於テハ運動場ヲ擴張スル等教育施設上遺憾ナキヲ期セリ

教員住宅ノ建設ハ本村ヲ以テ嚆矢トナストコロニシテ明治四十一年度ニ於テ村内ニヶ所ニ設置シ一面
小學校教員ヲ優待スルト同時ニ教員ノ部落駐在ヲ實行シテ青年指導ノ中心タラシメ且補習學校ニ於ケ
ル夜學教室トシ社會風教ノ改善ニ努メツ、アリ

兒童ノ就學獎勵ニ付テモ亦力ヲ致シ學齡兒童中貧困ニシテ就學シ難キモノニハ明治四十一年以來學用
品給與ノ法ヲ講ジ村費ヨリ之ヲ支給シテ就學獎勵ヲナシ本年度ニアリテハ就學歩合九九、四三ヲ示セ
リ

兒童出席獎勵ニ關シテハ學校職員ト協力シ家庭ニ就キ部落集會ノ席等ニ於テ獎勵ヲ怠ラズ出席歩合尋
常科九七、五五高等科九九、八九ナリ

青年會其他社會教化

青年會ハ明治三十九年部落ニ開會セシヲ始トシ明治四十二年各部落ニ組織シ大正二年村ニ統一セリ事
業ノ主ナルモノハ風紀ノ改善善行者ノ表彰道路修繕模範桑園及ビ樹苗圃ノ設置蔬菜品評會ノ開設等ニ
シテ基本金額九拾貳圓共同貯金五百九拾四圓ヲ有シ修養上ニ於テハ夜學會誠心會等ノ設ケアリ風紀
上ニ於テハ毎年總會ニテ實行事項ヲ選定シテ改善ヲ計リ時間ヲ勵行シ規律ヲ守ル等郡内有數ノ青年會
トシテ囑目セラレ居レリ

自治事務研究并ニ旌表

自治ニ關スル事項研究考査ノ爲メ村内各種團體代表者及有志ヲ網羅シタル一心會ナルモノヲ組織シ別
ニ會則ヲ設ケテ實行ニ努メ之レト關聯シテ善行者表彰規程ヲ設定シ大ニ民風ノ改善自治ノ向上ニ力ヲ
用ヒ居レリ爾來之レニ依リ表彰ヲ行ヒタル者ヲ擧クレバ左ノ如シ

大正二年九月十七日第一回表彰

一 納稅成績優良者トシテ表彰シタルモノ

賞狀 寫

日田郡西有田村大字西有田三百九十九番地

小 野 甚 六

天保六年一月十一日生

君ハ資性温厚ニシテ家代々農ヲ以テ業トシ家政ヲ執ルコト實ニ四十餘年常ニ納稅ノ義務ヲ重ンジ徵稅
令書ノ配附ヲ受クルヤ直ニ納附スルヲ例トス而シテ人ノ之ヲ問フアレバ答ヘテ曰ク「幼時一老僧ニ年
貢ハ直ニ納ムベキモノニシテ敢テ他人ヲ待合スベキモノニアラズ」ト聞キ當時深ク心頭ニ銘セリ後又
町村制實施ノ際故大谷村長ヨリ「租稅ハ總テ切符ヲ受取ルヤ直ニ納付スベシ」トノ示達ヲ受ケ同村長ニ
對シ將來之カ實行ヲ約セシヲ以テ自己ガ家政ヲ見ルニ至リシ以來納稅ハ之ヲ即納シ聊カ先人トノ約ヲ
履メルノミト蓋シ四十有餘年ノ久シキ常ニ納稅ヲ即納スルガ如キハ人多ク容易ニ行ヒ難キトコロニシ

テ他ノ龜鑑トナスニ足レリ洵ニ善行ナリトス依テ本會々則第十二條ニ依リ置時計一個ヲ贈呈シテ之ヲ表彰ス

一成績優良ニシテ退營歸郷シタル軍人 五名

賞 狀 寫 略 ス

大正三年十月十三日第二回表彰

一成績優良ニシテ歸郷シタル陸海軍人 二十四名

一納稅成績優良部落

蕪 組

北平組

以上表彰文略

大正四年九月二十八日第三回表彰

一孝子トシテ表彰シタル者

表 彰 狀 寫

日田郡西有田村

佐藤徳治妻

佐藤ウタ

安政元年一月十二日生

資性温良孝節ニシテ克ク夫ヲ扶ケ老齡ノ姑ニ仕フルニ誠心誠意以テ看護ニ努メ四十年間孝養至ラザルナシ依テ西有田村善行者表彰規程ニヨリ茲ニ金參圓ヲ贈與シ其ノ善行ヲ表彰ス

一成績優良ニシテ退營歸郷シタル軍人 一名

一納稅成績優良部落

柴 尾 組

上 手 組

中 尾 組

坂 本 組

北 平 組

札 町 組

本 村 組

蕪 組

尾 當 組

表彰文略

道 路

明治二十年中札本町ヨリ日田町字城内ヲ經テ福岡縣道ニ通ズル道路ヲ同三十二年札本町ヨリ石松ヲ經テ日田町北豆田ニ通ズル道路ヲ開築シ明治四十一年度ニ於テ札本町ヨリ字池部々落及三芳村ノ一部ヲ經テ日田町字隈ニ通ズル道路ヲ開鑿シ同時ニ札本町ヨリ西池部ニ通ズル支線ヲ開キ同四十二年及四十二年ノ兩年度ニ涉リテ東有田村ト土木組合組織ノ下ニ玖珠下毛兩郡ニ接續スル道路ヲ開キ尙四十三年度ニ於テハ札本町ヨリ日田町字城内ヲ經テ福岡縣道ニ通ズル既設道路ヲ改修シテ車道トナシ大ニ交通運輸ノ便ヲ開キ村ノ福利ヲ増進シツ、アリ

勸業上ノ施設トシテハ明治二十八年四月村農會ヲ設置シ村民ヲシテ農事ノ改良ヲ研究セシメ稻正條植
害蟲驅除、鹽水撰種等ノ方法ヲバ遍ク全部ニ普及セシメタリ

其他苗代田品評會、小作米品評會、農產物品評會ヲ行ヒ農事ノ改良上進ヲ計リ且大正三年度ヨリ村農
會ニ農業技術員ヲ常設シテ農事ノ指導獎勵ニ任ゼシメ尙左記ノ事業ヲ遂行シテ益々其改良發達ニ努メ
ツ、アリ

一、米麥種ノ統一

村内ニ原種田、增收試作田九ヶ所ヲ設置シ且村農會ニ於テ栽培試作セシ原種田、增收田ヨリ
得タルモノ、内ヨリ品種ノ良好多收ナルモノヲ撰出シテ一般當業者ニ配付ス

二、苗代田及肥料ノ改良

苗代田ノ改良ニ付テハ村内適當ノ部落及村農會試驗田ニ於テ模範的苗代田ヲ設置シテ一般當
業者ニ示シ之レガ實行ヲ期ス

三、綠肥栽培ノ獎勵

四、堆肥製造ノ獎勵

大正四年度ヨリ同八年度迄ニ左記ノ如ク堆肥舍ヲ改造セシムル計劃ヲ立テ大正四年度ハ一

ヶ所ニ對シ參圓宛ノ補助ヲナシ製品ニ付テハ各戶品評會ヲ行フ

大正四年	一三戶	大正五年	三六戶	大正六年	四〇戶
大正七年	五〇戶	大正八年	六五戶	計	二〇四戶

五、農家經濟調査

青年會員ヲシテ分擔調査セシム

六、木灰貯藏ノ獎勵

七、肥料共同購入

蠶業ハ農家ノ副業トシテ最モ獎勵ヲ加フルトコロニシテ明治四十四年更ニ蠶業獎勵ニ關スル五年計劃
ヲ立テ毎年度村費ヨリ事業獎勵費トシテ貳百圓ヲ村農會ニ補助シテ實績ヲ舉グニ努メ一面斯業ニ熱心
ニシテ經驗アル伊藤助役ヲ屢々先進地ニ出張セシメテ實地ノ調査ヲナサシメ以テ斯業發展ニ資セル等
銳意指導獎勵ヲナシ尙左記ノ事業ヲ遂行シテ發達ヲ計リツ、アリ

一、桑園ノ施肥耕耘

桑園ノ繁茂ト收繭ノ豊富ヲ計ラン爲メ施肥耕耘ヲ充分ナラシメ現今一反歩ヨリ八百貫以上ノ
收桑々園ハ敢テ珍シカラズ

二、蠶種ノ撰擇

蠶種ノ良否ハ蠶業經濟上將爾質向上上大ノ關係アルヲ以テ村ニ於テ全部共同購入ヲナシ遺算ナカラシム

三、共同桑園

稚蠶共同飼育ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲各四反歩ヲ六ヶ所ニ設ケ尙順次其普及ヲ計ラントス別ニ青年會支部ノ經營ニ係ルモノ三ヶ所ニ反五畝歩ヲ有ス

四、稚蠶共同飼育所設置

斯業ノ健全ナル發達ヲ遂ゲン爲メ三十八年始メテ一ヶ所ヲ置キ爾來年々増加シテ現今九ヶ所ヲ算ス村農會ハ之ニ向テ若干ノ補助ヲナセリ

五、共同殺蛹所設置

殺蛹乾爾ノ完全ヲ計リ生爾ノ處理ヲ迅速ナラシメ蠶蛆驅除ノ目的ヲ達セン爲之レヲ村役場構内ニ建設シ頗ル便益ヲ得居レリ

六、蠶病消毒ノ普及獎勵

消毒器ヲ村ニ備付シ當業者ニ貸與使用セシメ消毒藥品ハ稚蠶共同飼育所ノミニ配付シ一般ニ其勵行ヲ計リ飼蠶上遺算ナキヲ期ス

七、桑園ノ改良増殖ニ關スル獎勵

蠶糸業改良發達ノ先驅ハ桑園ノ改良増殖ニアルヲ以テ獎勵費ヲ支出シ縣、郡ノ獎勵費ヲ併セテ桑園ヲ新設スルト共ニ現在桑園ノ改良ヲ計ル

八、桑苗配付

桑苗配付ノ方法ハ村ニ接木師ヲ備聘シ接木臺木ハ當業者ニ栽培セシメ之ヲ村農會ニ買收ノ上接木ノ儘之ヲ豫テノ申込者ニ臺木代トシテ一本ニ付壹厘五毛乃至貳厘ヲ以テ連年配付ス而シテ其苗圃ニ對シテハ別ニ品評會ヲ開催ス

附帶事業ノ施設

- 一層物整理講習會
- 一桑苗圃品評會
- 一上簇品評會
- 一講話會

附記

御大典記念事業トシテ蠶業小組合ヲ設置セントス

最近五ヶ年蠶業發達程度表

其 一

年次事項	桑園反別		掃立枚數		飼育戸數			計
	町	郡	町	郡	春	夏	秋	
明治四十四年	7,400	1,100	71	110	35	20	80	210
明治四十五年	7,500	1,200	71	120	35	20	80	215

大正二年	10,3000	79	150	10	100	250
大正三年	13,1000	97	148	21	115	285
大正四年	15,1000	117	155	20	120	295

九四

年次事項	其額			計	價格
	春蠶	夏蠶	秋蠶		
明治四十四年	37,000	3,450	14,500	54,950	2,058,500
明治四十五年	52,000	3,500	21,000	76,500	3,332,500
大正二年	60,000	1,380	34,000	95,380	4,430,360
大正三年	77,000	3,000	36,200	116,200	5,478,800
大正四年	82,000	3,200	52,000	137,200	5,103,000

桑園擴張成績表

年次事項	栽種反別		年次事項	栽種反別	
	町	本		町	本
明治四十四年	1,5000	36,580	大正三年	2,9000	24,000
明治四十五年	3,0000	39,290	大正四年	1,9000	35,000
大正二年	2,8000	38,530	計	11,0000	173,000

備考 一、明治四十三年桑園現在反別三町一反ナリ

中津江村字津江産業組合

一、組合名

日田郡中津江村大字朽野貳千參百拾參番地

有限責任津江信用購買組合

一、沿革

本組合ハ中津江村ノ一小部分ヲ以テ設立ス
 區域戸數百五十餘戸住民ノ多數ハ専ラ農業ニ從事ス
 本村ハ明治三十二年ノ頃ヨリ村民稍ヤ遊情ノ風習ニ流レ加フルニ鑛業ノ勃興ニ伴ヒ四方無頼ノ徒
 集合シ來リ風紀ノ紊亂甚シク順良ナル村民モイツシカ其惡習ニ感染シ着實ナル自家ノ職業ヲ重ンゼ
 ズ勤勞ヲ厭ヒ家業自然廢頓シ生活程度嵩ミ奢侈ノ風ニ染ミ其所有ニ係ル不動産漸次他町村人ノ有ニ
 歸スル悲境ニ陥リタルヲ以テ時ノ村長合谷三郎氏ハ大イニ之レヲ遺憾トシ明治四十二年有志ト謀リ
 風紀振肅興産業ノ目的ヲ以テ産業組合設立ヲ企圖シ數回村民ヲ集合セシメテ組合設立ノ急務ナルヲ
 懇説シ多數有志ノ同意ヲ得タリシモ村内全面積五方里餘即チ東西六里南北三里ニ涉リ尙且ツ山間僻
 陬交通不便ノ地ニテ村一圓ヲ區域トスルハ不可能ナルヲ以テ之ヲ六區域ニ分割シ便宜ノ方法ニ依リ
 設立スルニ至レリ故ニ本區域内ニテハ七十名設立者トナリ申請ヲナシ同年九月十四日設立ノ許可ヲ

得タルヲ以テ組合員トシテ業務勲品行善良者ヲ賞シ徒食不良ノ輩ト絶交セシムル等風俗ノ改善ニ努メ一面産業ノ獎勵ヲナシ其資金ヲ貸付スル等便宜ヲ與ヘタル結果漸次弊習ヲ改メ精勵スルモノ次第ニ多キヲ加ヘ無頼ノ徒其跡ヲ絶ツニ至レリ又明治三十六年ニ組織セル勤勉貯蓄組合規約ニ係ル貯金中止ノ状態ナリシヲ産業組合ノ目的タル貯金ノ種類ニ加ヘ餘暇副業又ハ夜業ヲ獎勵シテ貯金セシムルコト、シタルヲ以テ漸次貯蓄思想ヲモ喚起スルニ至レリ

組合設立當時ハ組合員七十名出資口數百拾口ニ過ギザリシガ理事、監事等ノ熱心ナル勸誘ニ依リ漸次組合ノ精神ヲ了解シ加入申込者多數ヲ見ルニ至リ現在組合員百四十一名出資口數二百十二口ニ達セリ役員左ノ如シ

理事長	合谷三郎	專務理事	川津波平
理事	武内清	理事	合谷亨
理事	長谷部晋		
監事	合谷圓俊	監事	岩本万吉
監事	川村兼一郎		

大正二年川津專務理事、武内理事ハ購買事業開始視察トシテ福岡縣糟屋郡大川信用購買組合ヲ視察シ各役員ト協商ノ上總會ノ同意ヲ得テ一棟ノ購買店ヲ開設スルコト、ナリ同年八月ヨリ購買事業ヲ

兼營シ組合員ノ便宜ヲ圖レリ

一、本組合事業執行ニ就テ

設立當時ハ中津江村役場内ニ事務所ヲ置キ專務理事(助役)公務ノ餘暇ヲ以テ處理シツ、アリシガ大正二年購買事業開始ト同時ニ同店へ事務所ヲ移轉シ信用部ニ於テ理事一名書記一名常務者ト定メ理事ハ專務理事川津波平之ニ當リ毎月五、十ノ日出務スルコト、シ平常ノ貯金等ハ書記ニ於テ整理スルコト、セリ又購買部ニ理事一名事務員一名ヲ常務者トシ理事ハ長谷部晋之ニ當リ同店ニ居住シ事務所及諸般ノ監督ニ任ゼリ

役員會ハ通常年四回トシ其他必要ニ應ジ臨時會ヲ開キ諸般ノ打合セヲナシツ、アリ役員會ハ理事、監事、世話係ヲ以テ組織セリ

理事會ハ毎月十六日通常會ヲ開キ諸般ノ打合セヲナシ又必要ニ應ジ臨時之ヲ開キツ、アリ

組合ヨリ組合員ヘノ通達事項ノ傳達其他貯金出資金ノ取集メ及獎勵事業傳達等ノ爲メニハ各部落ニ世話係一名宛ヲ置キ時々意志ノ疎通ヲ圖ルト同時ニ組合ノ發展上ニ就キ理事ノ補助機關トナリ活動シツ、アリ

總會ハ通常年一回(二月)之ヲ開クコト、シ必要ニ應ジ年三回以上ヲモ開會シ講話會等ヲナシツ、アリ

組合員ノ出資拂込ハ定款ノ規定ニ依リ第一回ノ拂込金ヲ壹圓トシ其後ハ毎月十五日金參拾五錢宛ヲ拂込マシメ二ケ年以内ニ完了セシムルコト、ナシアリシニ何ノ苦痛モ感ズルコトナク拂込ミヲ了シタルニ依リ新加入者ニ對シテモ其實行ヲ促シタル結果拂込圓滿ニ行ハレ些ノ困難アルヲ認メズ又貸付資金ノ用途ハ楮、菟、椎茸栽培殖林事業資本ヲ主トシ其他種苗農具ノ購入等ニシテ設立以來貸付ノ金額ハ一口拾圓内外ノモノ其大部分ヲ占メタルヲ見レバ如何ニ小資産者ノ金融機關トシテ組合員ニ便宜ト利益トヲ與ヘタルカハ言ヲ要セザルナリ明治四十三年度貸付口數ハ七十口其金額千七拾七圓餘ナリシガ大正三年度ニハ貸出全部ノ件數百五十五件ニシテ其金額六千八百六拾五圓餘ニ及ビ經過順調ニシテ今ヤ組合ハ村部經濟上最モ缺クベカラザル金融機關トナリ益々發展ノ域ニ向ヒツ、アリ

一、組合事業經營方法

イ、貯金

貯金ハ左ノ七種ニ區別シテ取扱ヒツ、アリ總テ各部落世話係ニ於テ取纏メ毎月十五日ニ組合事務所ニ通帳ト共ニ提出シ預入レツ、アリ
又毎年總會ノ際ニ於テハ自作、小作者ノ別ナク農作物數種類ヲ出品シテ品評會ヲ行ヒ（其賞ハ村費ノ補助ヲ仰ギ賞與ス）農事ノ改良ヲ謀ルト同時ニ出品物ヲ賣却シテ規約貯金ニ預入セシメツ、

アリ

貯金種類

- 當座貯金 利息年六歩ニシテ一回壹錢以上隨意預入レ引出スコトヲ得
- 定期貯金 利息年七歩八厘ニシテ一回壹圓以上期間一ケ年以上ノ預入金トス
- 据置貯金 利息年七歩八厘ニシテ一回拾錢以上期間五ケ年以上ノ預入金トス
- 規約貯金 利息年七歩二厘ニシテ一回五錢以上トシ毎月預入シ金拾圓ニ達シタルトキ預ケ主ノ請求ニ依リ拂戻又ハ出資拂込納税ニ充ツル場合等ニ引出スコトヲ得
- 約束貯金 利息年六歩ニシテ本組合ニ對スル債務金額百分ノ二以上宛預入セシメ債務ノ利子支拂及元金償還ニ使用セシムルコト、セリ
- 紀念貯金 利息年七歩八厘ニシテ紀念貯金規約ニ依リ五種類ニ別テ左ノ通り之ヲ扱フ
 - 教育 兒童ヲシテ義務教育以上ノ教育ヲ受ケシムル爲メ其學費ニ供スル目的ヲ以テ積立ツ
 - 徴兵 入營ニ要スル費金ニ充ツル目的ニテ積立ツルモノナルヲ以テ徴兵適齡ニ達スル迄貯金セシム
 - 結婚 結婚ノ費用ニ充ツル目的ヲ以テ積立ツ
 - 相續 相續費用ニ充ツル爲メニ積立ツ
 - 養老 老後靜養費ニ供スル爲メニ積立ツ

種類

- 教育
- 徴兵
- 結婚
- 相續
- 養老

勤勉貯金

貯金成績

利息年七歩二厘ニシテ勤勉貯蓄組合規約ニ依リ取扱フ

年 度	貯金人員	金 額	年 度	貯金人員	金 額
明治四十二年	三三	二〇七・一三	大正元年	一〇八	九〇九・九七四
明治四十三年	九四	三〇九・九三九	大正二年	一三五	一七〇六・三六六
明治四十四年	九三	六一〇・六六二	大正三年	一四〇	一八八三・四八四

ロ、貸 附 金

貸附金ハ信用、擔保、月賦ノ三種ニ區別シテ之ヲ貸附ス

信用貸附ハ資金借入申込ノ場合世話係ニ於テ用途ノ調査ヲナシ尙信用程度表ニ依リ其貸附金額ヲ決定シ證書ヲ徴シテ貸附シツ、アリ

擔保貸附ハ多額ノ申込ミニ限り用途及擔保ヲ調査シ理事會ノ決定ニ依リ信用程度ニ依ラズ貸附シツ、アリ

月賦貸附ハ信用貸付ノ手順ニ依リ貸附シツ、アリ
信用程度表作製ハ總會ニ於テ互選セラレタル信用程度評定委員ニ於テ左ノ方法ニ依リ作製ス

一、性 行

六十點 (投票ヲ以テス)

但シ左ノ四項ヲ具備スルモノヲ滿點トシ其一二ヲ缺ク者ハ酌量シテ點數ヲ減ズ

(イ) 品行方正ニシテ徳義ヲ重ンジ家族和合子弟ノ教育等ニ怠リナク世間ノ信用厚キ者

(ロ) 自助ノ精神ヲ以テ其業務ニ勉メ農事ノ改良成績顯著ニシテ一般ノ模範トナル者

(ハ) 時間ノ確守約束ノ履行義務ノ實行殊ニ出資金ノ拂込ミ及借入金ノ返済ヲ謬ラザル者

(ニ) 大酒荒怠ナク常ニ身體健全ニシテ衛生ヲ重ンズル者

二、貯 金

十二點

但シ金額ノ多少ニ依ラズ毎月順序正シク貯金スル者ヲ滿點トシ一ヶ月二點宛トシテ計算シ引出タル者ハ一ヶ月一點宛ヲ減ズ

三、出資口數

二十點

但シ一口(拾圓)ヲ二點トシ拾口ヲ滿點トス

四、納 税

八 點

但シ毎納期ニ納付セル者ヲ滿點トシ之ヲ缺グ時ハ一納期ニ付三點宛ヲ減ズ

以上點數ヲ通計シ一等ヨリ八等迄ニ區別シ其等級ニ依リ貸出限度ヲ決定スルコト、ナセリ

ハ、購買事業

購買事業ハ大正二年ヨリ之レヲ實施セルガ其成績良好ニシテ産業用品及生計用品殆ンド全部ヲ取扱ヒ大正三年度賣却總額ハ三千六百拾四圓五拾九錢五厘ニ達シ借家料其他購買事業ニ要スル一切ノ費用ヲ控除シ尙金貳百圓餘ノ純益アリタリ

購買代金ノ即納ヲ困難トスル組合員ニ對シテハ六ヶ月以内其組合員ノ貯金額以内ヲ限度トシ延納ヲ許シ順次毎月末ニ徴收ス事業開始當時ハ往々代金支拂ヒヲ延期スルモノ多カリシガ爾來組合精

神ノ鼓吹ニ努メタル結果漸次減少スルニ至リタルモ未ダ充分ナル成績ヲ見ル能ハザルハ遺憾ナリ又商賣上四圍ノ競争ヲ免レザルヲ以テ拔買ヲ防止セン爲メ各種購買品ニ對スル歩合金ヲ出來得ル限リ薄利ヲ以テ組合員ニ賣却シツ、アレバ組合員ハ市價ニ比シ尙一割内外ノ利益ヲ享受シツ、アリテ便宜ヲ得ルコト尠少ナラズ故ヲ以テ組合ノ効果ハ漸次組合員ノ腦裡ニ徹底シツ、アルモノ、如ク近キ將來ニ於テ盛況ヲ呈スルコト、ナルベシ

一、組合ノ効果

イ、農業ノ進歩

農業ノ改良發達ハ組合設立後各部落ニ試作田ヲ設置シ品質改良施肥及苗代、移植等ノ試作ヲ行ヒ種子ノ交換等ヲナサシメ又收穫米ハ之ヲ組合總會ノ場合出品シテ品評會ヲ行ヒ蓄積ヲ謀リ一面ニハ組合ヨリ經費ヲ支出シ農事試驗場等ニ視察員ヲ派シ其他講話會等ヲ開キテ改良發達ヲ謀リタル結果其成績稍見ルベキモノアリ其他副業ニ屬スル茶、楮、椎茸、蕈菌栽培及植林事業等ニ關シテハ少額トハ言ヘ幾分ノ資本供給ノ結果益々其産額ヲ増長シツ、アルハ甚大ノ効果ト謂フヲ得ベシ

ロ、組合員ノ徳義心涵養

組合員中品行方正家事勸勵其他一般ノ模範トナルベキ者ハ徳義心啓發ノ一助トシテ組合ノ決議ニ依リ之レヲ表彰スルコト、シ尙一昨年來本村全部ヲ通ジ組合役員及教育指導者ト連絡シ産業事務

研究會ナルモノヲ起シ種々ナル研究打合セヲナシ以テ組合員ヲ指導獎勵シ秋季ニ於テハ學校職員ト共ニ各部落ニ出張シテ組合員及其家族ヲ集メ教育産業及家庭ニ關スル講話會ヲ開キ新知識ノ注入風紀ノ改善等ニ努メタル結果家業ニ精勵シ各人相互ニ徳義ヲ重ンジ隣保救済ノ美風ヲ増進シ舊來ノ弊習漸次改善ノ域ニ進ミツ、アリ

左ニ大正三年度末貸借對照表并ニ損益計算ヲ示サン

貸借對照表

貸方		借方	
種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	六二、〇七	出資金	二、一〇、〇〇
預ケ金	六九、九九	貯入金	一、八八、三四
什器	七二、八九	借入金	三、九二、三四
貸附金	六八、六五	準備金	四四、一四
未收利息	一〇七、三二	特別積立金	八五、九七
土地	一一五、〇〇	購買品未拂代金	九四、四二
建物	一九、〇〇〇		
購買品殘高	一、一四、三三		
賣却品未收入代金	八七、一〇〇		

現金	四三三三九	本年度剩餘金	四七一〇三
合計	九、八六九五四九	合計	九、八六九五四九

損益計算

種目	金額	種目	金額
貸附金利息	八六八〇五	報酬及旅費	五三七〇〇
購買品延拂利息	一五五八七	土地借料	六四〇四〇
購買利得	五七四三八	什器修繕費	二二二〇〇
雜收入	二六二七三	建物、什器見積減耗	〇七五一
前年度繰越金	〇〇七一	通信及運搬費	一五六二七一
		消耗品費	八九三七五
		書記其他給料及雜給	一七二九二〇
		賞與	一〇〇〇〇
		會議費	一四四三
		其他	四六九〇四三
		貯金利息	一三三九九四
		合計	一、三三九、九四

合計	1,339,941	合計	1,000,000
差引剩餘金四百七拾壹圓參錢貳厘		借入金利息	二九九〇〇〇
		中央會費	一、〇〇〇
		登記料	九〇〇〇
		視察費	一六〇四八
		品評會費	1,000,000

日田郡高瀬耕地整理組合

一、位置

日田町ヲ距ル南方半里大字上野ノ十七小字並ニ大字高瀬ノ八小字ヨリ成リ面積約五十餘町步ナリ

二、發起

大字上野ハ高燥ナル臺地ニシテ之ニ栽培スベキ作物ハ粟ヲ以テ主トシ麥甘藷豆類之ニ次ギ收支殆シド價ハザル爲メ畑地ハ逐年山林ト化シテ漸次荒廢ニ歸スルノ傾向ヲ呈スルニ至リタルヲ以テ之ガ救濟ノ策トシテ耕地整理ノ施行ヲ企圖スルニ至レリ

三、調査

明治四十四年ヨリ大正元年ニ至ル間之ガ調査ヲナシ大正二年三月三日組合設立ノ認可ヲ得タリ

四、工 事

(イ) 地區外幹線工事

大正二年六月十二日幹線工事ニ着手大正三年四月竣成延長二千二百六十餘間中隧道十四ヶ所アリ

(ロ) 地區内工事

第一期工事ハ大正二年十二月ヨリ大正三年三月末迄ニシテ主要ナル灌溉幹線並ニ二十三町餘歩完成シ第二期工事ハ大正三年六月起工大正四年四月ニ至リテ約二十八町七反歩ヲ完成シ此ニ全部ノ工事ヲ竣功セリ

五、起債金額並ニ償還ノ方法

起債總額二萬七千圓ニシテ此内六千五百圓ハ低利資金年利五分八厘二萬〇五百圓ハ年利八分三厘一ヶ年据置キ二ヶ年目ヨリ年賦償還ノ方法ヲ以テ日本勸業銀行ヨリ借入レタリ

六、耕地整理組合關係役員

組合長	安心院義造
組合副長	武内瀧次郎
評議員	長 勇 藏
	長 松之助
	長 熊太郎
	桑野種作
	長 鎮 虎
	高 瀨 周 圓
	安 心 院 彌 吉
	高 瀨 正
	原 田 金 吾
	梶 原 吉 平
	安 心 院 茂

本事業ハ計畫以來年ヲ閱スル五年此ノ間或ハ調査中ニ若シクハ工事中ニ幾多ノ困難百出シテ當事者ノ苦心一方ナラザリシモ遂ニ能ク萬難ヲ排シテ完成ヲ告ゲ左表示スガ如キ好結果ヲ收ムルニ至レリ

一家計

今朝の氣て常に寄合へ家の春

月 化

日田郡高瀬耕地整理組合整理前後比較表

年賦 償還金	純益	生産	耕地 面積	地 區 總 面 積						
				田	畑	宅	山	原	溜	道
三〇九・五〇	・七四	三・九六	反當平均價額 三五〇・八七	全價額 七六四・八七	整理施行前					
					地目	面積	積	田	畑	宅
三・五三	四・七五	三・三〇	反當平均價額 三三三・〇八	全價額 四三三・三三	整理施行後					
					地目	面積	積	田	畑	宅
三・五三	四・七五	三・三〇	五・八一	附記	附記					
					米價下落ノ際ト雖ドモ尙ホ且ツ年賦償還ヲナシテ充分ノ餘裕アリ					

間接利益	節約 員數	節約 勞力	事業費	土地ノ價額	
				反當平均價額	全價額
整理事業ノ爲メ共同一致ノ美風ヲ養成シ例之村内へ水路導ノ如キ近ク里道改築ノ目論見アリ共有山林増植等はナリ 耕種栽培ニ一大改革ヲ加ヘ種子ノ節減ヲ得種苗ノ剩餘ヲ來セリ	二二・九八	二二・九八	三三・七七	反當平均價額 四九・一五	全價額 三三六・四九
				反當平均員數	全員數
以上ノ節約ハ早ヤ山林原野ヲ開墾スル コト約二町歩餘ニシテ尙ホ年々増開ス ベシ	二二・九八	二二・九八	二二・九八	反當平均價額 一九四・七四	全價額 四四三・七二
				反當平均員數	全員數
土地價額ノ増額ハ事業費全額ノ倍額以 上ニシテ組合員ニ利益スルコト斯ノ如 シ	二二・九八	二二・九八	二二・九八	反當平均價額 七六六・〇〇	全價額 七六六・〇〇
				反當平均員數	全員數

損己益君之謂忠損己益親之謂孝損己益
天下之人之謂仁故知善也者損己之謂也

東有田村基本財産造林經營

本村ハ基本財産造成ノ目的ヲ以テ明治三十九年十一月國有林ノ拂下ヲ受ケ其内字萩原、馬尻、フスベノ三ヶ所ニ於ケル地上產物賣却跡地實測面積二十二町三反三畝歩ニ對シ明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四ヶ年度ニ涉リ杉、扁柏、赤松七萬五千二百六十本ノ植樹ヲナシタルニ土壤適質發育良好ニシテ將來基本財産造成上頗ル有望ノ成績ヲ顯ハシ居レリ



中津江村八所組實行會

(一)本會ハ明治四十三年二月ノ創立ニ係リ神社ヲ中心トシ

- 一、神德皇德祖先父母ノ報ニ報ユルニ我德行ヲ以テ勤儉貯蓄ヲ行ヒ富強ノ基ヲ確立ス
- 二、教育勸語及成申詔書ヲ服膺シ道義ヲ重シ實行ヲ旨トス
- 三、常ニ親睦ヲ計リ勤勉力行ヲ以テ共同救護シ相互永安ノ法ヲ立ツ

以上三項ヲ實行スルヲ目的トシ毎年一月元旦同部

落老幼男女氏神ナル村社津江神社ニ集合シ其年實行スベキ事項ヲ神前ニ誓ヒ五穀成就無病息災ノ祈願ヲナシ秋季ニ至リ作物品評會ヲ開キ氏神ニ對シ奉謝祭ヲ舉行スルヲ例トシ青年會及婦人會ヲ附設ス

(二)本會ニ於ケル實行事業ノ大略

- 一、共同蓄積金ノ造成
- 善行者旌表恤救其他公共事業ノ費ニ充ツルタメ共同作業ニヨリテ得タル賃金戶籍異動家畜出生家



屋建築等ノ場合ニ於ケル寄附金等ヲ蓄積ス

二、永安家資金ノ造成

永安ノ方ヲ確立スル爲メ毎戸ヨリ毎年金五圓内外ヲ標準トシテ之ニ相當スル物品(楮皮、茶雞等)ヲ醸出シ之ガ賣上ゲ代金ヲ蓄積シ利倍増殖ヲ謀ル

三、農事ノ改良

農事ノ改良發達ヲ計ル爲メ試作田壹反二畝歩ヲ設ケ共同試作ヲ行ヒ種子ノ鹽水撰肥料ノ配合害蟲驅除豫防種子ノ交換等夫々個條書ニシテ之ヲ定ム品評會ハ粳麥野菜、藁細工、楮皮、苗代等時期ニ應ジ毎年數度之ヲ開ク

四、附屬青年會ノ事業

(イ)秋季道路ノ修繕

(ロ)毎月二夜以上ノ夜學會

(ハ)基本財産蓄積ノタメ毎月夜一夜業會ヲ開キ草鞋一足足中三足製作

(ニ)記帳トシテハ一日一善日記農家日誌金納日記ノ勵行

五、附屬婦人會ノ事業

(イ)納稅準備トシテ鷄卵ヲ隨時本會事務所ニ持參ス事務所ニ於テハ之ヲ賣却シテ積立ツ

(ロ)野菜ノ栽培ハ男ノ手ヲ煩ハサズ

(ハ)本會ノ楮栽培地及部落有山林ノ草手ハ共同作業ヲ以テナス

(ニ)家屋内外ノ清潔法

(三)部落戸數會員數及蓄積金等

部落戸數	二十四	永安家資金高	五百貳拾五圓八拾八錢五厘
會員數	二十四	共同蓄積金高	百七拾七圓九拾七錢三厘
附屬青年會員數	壯年 十八 計 二十四	青年會資金高	四拾壹圓八拾貳錢七厘
附屬婦人會員數	青年 十六 計 二十四	婦人會資金高	五圓拾七錢五厘
		勤勉貯蓄組合資金高	百九拾五圓七拾錢九厘

(四)大正三年七月日田郡ヨリ表彰シタル表彰狀左ノ如シ

日田郡中津江村八所組實行會

右ハ明治四十三年二月創立以來會員能ク協同一致シテ所定ノ事業遂行ニ努メ就中神社崇敬ノ誠ヲ輸シ共同蓄積金ノ造成附屬青年會ノ共同作業及夜學附屬婦人會ノ納稅準備等其成績顯著ナリトス依テ別封ノ金員ヲ授與シ之ヲ表彰ス

大正三年七月二十九日

日田郡長正七位 河越萬三郎

光岡村役場



大正二年十一月二十五日新築落成其ノ構造郡内ノ模範タリ玄關八坪(内六坪土間)、事務室二十四坪(内四坪土間)、控室三坪、宿直室五坪(内二坪押入)、其他ノ土間十坪、二階物置七坪七合五勺、議事室二十二坪五合、便所二ヶ所二坪、渡廊下一坪、倉庫二階建六坪此總建坪八十一坪五合、建築費總額參千五百貳拾貳圓ナリ

父母於子賢則愛之不則宵憐之唯有包容無有弁絕

廣瀬淡窓

一、優良青年會

三芳村求來里青年會

- 一、本會ハ明治四十三年二月ノ創立ニ係リ専ラ精神修養ニ努メ協同一致所定ノ事業ニ對シテハ如何ナル難事ト雖モ能ク之ヲ遂行シ成績見ルベキモノ尠カラズ
- 二、本會ニ於ケル實行事業
 - 一、講話會
 - 二、善行者旌表
 - 三、高齢者慰藉
 - 四、夜學會
 - 五、青年文庫
 - 六、青年談話會
 - 七、力行夜業會
 - 八、共同購買
 - 九、共同試作
 - 一〇、夜業彙細工品評會
 - 一一、共同桑園
 - 一二、養魚



- 一三、乃木將軍追悼茶話會
 - 一四、部落勢調査 最近調査ニ關ハルモノ別紙ノ通り
 - 一五、共同貯金
 - 一六、穀類品評會
 - 一七、其他
- 前記各種ノ會合ニ際シテハ能ク集合ノ時刻ヲ守リ病氣其他止ムヲ得ザル事情ノ外缺席スルモノナク御大典紀念事業トシテ氏神社境内ニ樟樹十五本ヲ植栽セシニ成長頗ル良好ニシテ缺損ナシ

三、部落戸數會員數等

戸數 百二十六戸

會員數 百八名

貯金高 五拾九圓四拾五錢

四、大正三年七月日田郡ヨリ表彰シタル表彰狀左ノ如シ

日田郡三芳村求來里青年會

右ハ明治四十三年二月創立以來會員能ク協同一致シテ所定ノ事業遂行ニ努メ就中通俗講演會ノ開催共同作業餘業品評會等其成績優良ナリトス依テ別封ノ金員ヲ授與シ之ヲ表彰ス

大正三年七月二十九日

日田郡長正七位 河越萬三郎

日 慎

爲君思民 爲民思利 勿輕民事 勿侮聖言

鹽谷代四郎

第二回部落勢調査表

大正三年十二月末日調

小種別	庭	養蠶	下足	木挽	人夫賃	掛木	石工	商業	計
元宮	一三五,〇〇〇	—	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	—	—	一〇〇,〇〇〇	六七五,〇〇〇
坂下	五〇〇,〇〇〇	四五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	—	三〇〇,〇〇〇	—	—	—	七七五,〇〇〇
小西	一六〇,〇〇〇	七五〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	—	一五〇,〇〇〇	—	—	一〇〇,〇〇〇	七七〇,〇〇〇
下林	五一一,〇〇〇	一五一一,〇〇〇	五五七,〇〇〇	四九,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	—	—	八〇,〇〇〇	八八七,〇〇〇
室來	五〇〇,〇〇〇	—	三五〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇	一〇二,〇〇〇	—	—	—	六七二,〇〇〇
下着	一八一,〇〇〇	—	三〇〇,〇〇〇	一九五,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	—	—	—	二四六,〇〇〇
上着	二二〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一九〇,〇〇〇	三〇二,〇〇〇	—	—	—	一,三二二,〇〇〇
計	八七八,〇〇〇	二九一,〇〇〇	一,四〇七,〇〇〇	一,一三一,〇〇〇	二,三九六,五〇〇	二四二,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	七五一,〇〇〇	八,六九七,七〇〇

穀類ヲ除ケル一戸ニ付 一ヶ年ノ入費額 一五〇,〇〇〇

求來里全戸數一三六ニ對スル入費總額 二一〇,四〇〇,〇〇〇

前年調査殘石高一千二百十石ニ對スル時ノ見積金額 二,一一〇,〇〇〇

本年調査殘石ヨリ入金總額 八,六九七,七〇〇

合 計 二〇,七九七,七〇〇

收入額ト見ルベキ金 二〇,七九七,七〇〇

支出額ト見ルベキ金 一〇,四〇〇,〇〇〇

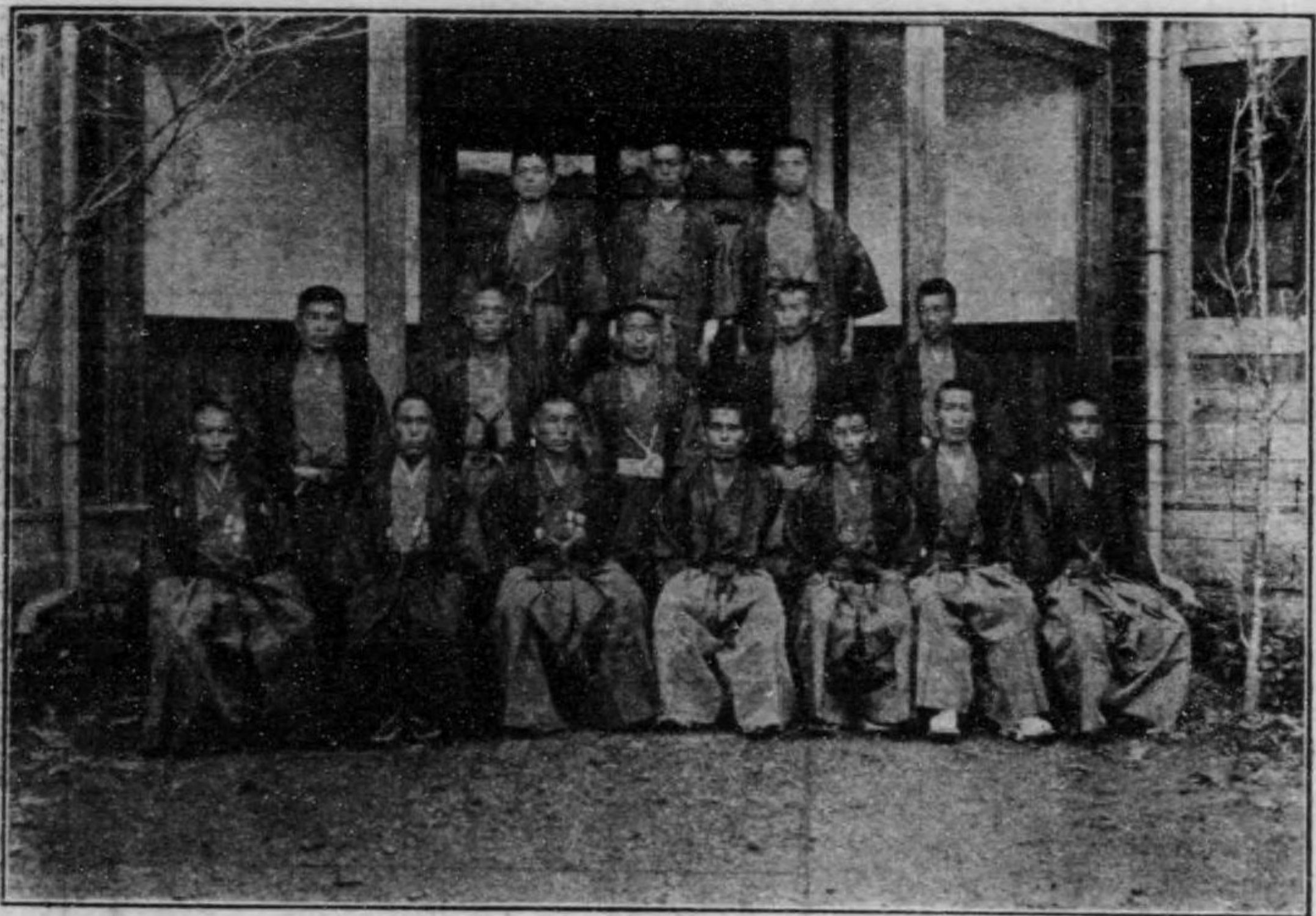
殘額 三九七,七〇〇

一戸ノ當リ 二,一九二,四

一一七

日田郡五和村堂尾青年會

- 一、本會ハ明治四十二年三月ノ創立ニ係リ勤儉力行報德主義ノ鼓吹ニ努メ幹部ニ當ルモノ能ク其ノ範ヲ示シテ會員ヲ導キ盾實融和大ニ其ノ成績ヲ擧ゲタリ
- 二、本會ニ於ケル實行事業
 - 一、夜學會 毎年春秋二回毎回三十日間二個所ニ於テ之ヲ開催ス
 - 二、農事要報ノ發行 毎月一回以上農事上注意スベキ事項ヲ印刷ニ附シ各會員ニ分ツ
 - 三、青年文庫
 - 四、各種品評會
 - 五、貧困者及罹災民者救恤
 - 六、御大典記念事業トシテ基本財産金ヲ以テ山林ヲ買入レ殖林ヲナス



三、部落戸數及會員數等

戸數 會員數 百三十九名
 貯金高 百四拾九圓拾八錢五厘
 三年七月日田郡ヨリ表彰セララル其表彰狀左ノ如シ

日田郡五和村堂尾青年會

右ハ明治四十二年三月創立以來會員能ク協同一致シテ所定ノ事業ノ遂行ニ努メ就中報德主義ノ實踐青年文庫ノ施設雜誌ノ購讀夜學ノ開設農業要報ノ發刊等其成績顯著ナリトス依テ別封ノ金員ヲ授與シ之ヲ表彰ス

大正三年七月二十九日

日田郡長正七位 河越萬三郎

非德莫如勤

あさかほや一朝とてまた、おかす

月 化

一、各種團體ノ沿革及事業

一、日田郡興農會

明治四十一年十月十三日戊申ノ大詔煥發セラレ、ヤ之ヲ拜讀スルモノ感奮興起セザルモノナシ於此郡長富屋直太郎氏郡内同志ト相謀リ實業ヲ振起シテ農村ノ發展ヲ圖リ以テ聖旨ノ萬一ニ副ハシコトヲ期シ農事團體ヲ組織シテ四十二年七月之レガ發會式ヲ舉ゲタリ名ケテ興農會ト云フ會員數八十三基金五千餘圓爾來會員ノ團結努力ニヨリ漸次發展ノ域ニ進ミ現在會員九十三人基金實ニ五千六百貳拾八圓ニ達セリ眞ニ稀有ノ農事團體ト謂フベシ今本會ノ目的會員及創立以來ノ事業梗概ヲ舉グレバ左ノ如シ

一、目的

一、會員相互ノ交情ヲ温メ意見ノ交換ヲナスコト



二、農村ノ繁榮ニ關スル調査講究ヲ遂ゲ必要ナル施設ヲナスコト

イ、小作人擁護ニ關スルコト

ロ、郡町村農會ト氣脈ヲ通シ農事改良ニ關スル施設ヲ完備シ且其成功ヲ補翼スルコト

ハ、風紀ノ改善及ビ勤儉貯蓄ニ關スルコト

ニ、春秋二回ニ斯道ノ學者先輩ヲ聘シ講習會又ハ懇話會ヲ開クコト

但時宜ニヨリ臨時講習會又ハ懇話會ヲ開催スルコトアルベシ

ホ、善行者旌表ニ關スルコト

三、以上ノ外必要ノ事項

一、會員

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 中島寬兵衛 | 中島 仙次 | 伊藤房太郎 | 中島 竹藏 |
| 伊藤 助市 | 財津 森吉 | 中島宗次郎 | 財津 福三 |
| 中島 政吉 | 宮崎 文六 | 麻生 圓八 | 穴井 角郎 |
| 帆足 悅藏 | 横尾松之助 | 日野 順一 | 熊谷 彦作 |
| 權藤 高次 | 神川 英藏 | 井上 石治 | 井上 軍一 |
| 財津 寛一 | 井上 武 | 森山 知誠 | 一ノ宮廣太 |

梶原 豊一	梶原 隆吉	森山初太郎	手島崎太郎
手島 節三	武内 秋市	石井 重藏	蒲池 米太
蒲池 浦太	森 百合	矢幡 敬太	加藤 茂吉
千原 興一	古賀甚四郎	松本 弘	大藤伊平二
森 千藏	諫山 徳次	合原 精藏	廣瀬 貞治
矢野 正助	後藤 禮三	三松 樽彦	草野 禮二
佐藤 秀則	千原 半吉	手島 元三	中野 百次
石松 浪藏	武石 順三	高倉 千尋	穴井 安治
穴井 喜市	高倉 重策	樋口 安次	佐藤彌四郎
樋口 十藏	佐藤 力藏	後藤 龍藏	長 鎮虎
樋口 宗藏	中村 信一	堀田 圓平	後藤伊勢太郎
末武伊太郎	長 勇藏	武内瀧次郎	長芳左衛門
長 松之助	森 林作	和田友之助	和田 彌市
田島 儀市	合谷 圓俊	合 谷三郎	信岡 義睦
井上 守	川津 光伊	川村 鶴吉	桑野 梅二

一、事 業

一、明治四十二年

七月二十二日發會式ヲ舉ゲ兼テ報徳講演會ヲ開催セリ聽衆二千六百餘名民心ノ啓發ニ多大ノ裨益ヲ與ヘタルガ如シ

演題及講師氏名左ノ如シ

民力ノ發展ト小農ノ保護	貴族院議員法學博士 桑 田 熊 藏氏
農村ト報徳	東京家庭學校長 留 岡 幸 助氏
一切衆生ノ恩	鹿兒島縣金剛寺住職 暉 峻 普 瑞氏
報徳其應用	東京家庭學校長 留 岡 幸 助氏
地主ト小作人トノ徳義	鹿兒島縣金剛寺住職 暉 峻 普 瑞氏
地方ノ原動力	内務省囑托 國 府 種 徳氏

一、明治四十三年

イ、巡回報德講演會

静岡縣遠江國報德社副社長山田猪太郎氏ヲ聘シ廣ク各町村ニ涉リ報德主義ヲ鼓吹セリ氏ハ多年報德ノ事業ニ從事シ其講演ノ如キ通俗的ニ且ツ趣味多ク從ツテ至ル所非常ノ盛況ヲ呈シ裨益スル所尠ナカラザリキ

ロ、故日田郡代鹽谷公祭典

會長富屋直太郎氏發起トナリ會員ハ勿論一般有志ト相謀リテ參百有餘圓ノ淨財ヲ得四月十五日ヲ以テ日田町慈眼山上及大超寺ニ於テ故郡代鹽谷公ノ祭典ヲ營ミ其德政ヲ追頌シ併セテ明府ノ事績ニ關スル講演會ヲ開催セリ參拜者無慮千數百名ニ達セリ特ニ此日公ト因縁淺カラザル八十歳以上ノ高齢者及公ガ特ニ重キヲ置キ勸奨セラレタル孝子貞婦忠僕若クハ篤行者ニシテ旌表セラレタルモノヲ招キタルニ之等ノ人々亦二百餘名ニ及ベリ蓋シ此舉ヤ一面公ノ威靈ヲ慰ムルト共ニ世道人心ニ裨益スル所多大ナリキ

一、明治四十四年

イ、産業組合ニ關スル講話會

十一月大分縣速見郡朝日村産業組合理事直江忍氏ヲ聘シ産業組合ニ關スル講話會ヲ開催セリ氏ハ多年組合ノ事業ニ從事シ熱心經營顯著ナル成績ヲ舉ゲタル人ニシテ當時最モ有益ナル講

話アリ聽衆數百名ニ達シ多大ノ感動ヲ與ヘタリ

ロ、雜誌斯民號會員配布

報德ノ精神ヲ作興シ併セテ公共心ノ啓發ニ資スル目的ニ基キ東京報德社發行ノ雜誌斯民號ヲ購入シ廣ク會員ニ配布閱讀セシメタリ

一、明治四十五年度

郡設農産物共進會副賞贈與

日田郡農産物共進會開催ノ舉アルヤ農會ハ農事獎勵ノ目的ヲ以テ金貳百拾四圓餘ヲ支出シ左ノ副賞ヲ贈與セリ

一牛 三頭 一鋤 十二挺 一鍬 二挺 一斧 五挺

一、大正二年度

日田郡教育會主催淡窓先生頌德祭事業補助

六月郡教育會主催ノ下ニ故廣瀬淡窓先生頌德祭ヲ舉行セラル、ニ當リ其ノ目的ヲ助成スル爲メ特ニ金貳百圓ヲ支出シテ其ノ事業ノ遂行ヲ補助セリ

一、大正三年度

日田郡農會施設四石會費獎勵金補助

本郡農會ハ本年度始メテ米四石會ヲ組織シテ之ガ增收ヲ圖レリ本會ハ該事業ノ頗ル時宜ニ適シタルヲ認メ此事業ヲ翼賛スル爲特ニ金貳拾圓ヲ支出セリ

一、大正四年度

イ、日田郡農會施設米增收會費獎勵金補助

如上ノ理由ニヨリ引繼日田郡農會施設米增收獎勵會ヲ翼賛シ金百五拾圓ヲ補助セリ

ロ、煙草肥料共同購入資金トシテ基金融通

本年五月基金ノ中金參千五百有餘圓ヲ割キ煙草肥料資金トシテ日田町外八ヶ村ノ耕作者ニ一時融通セリ此低利資金ノ供給ハ一般耕作者ニ多大ノ便宜ヲ與ヘタリ

ハ、大典記念農事巡回講演

熊本縣八代郡農會技手タリシ渡邊左右吉氏ヲ聘シ九月下旬以後一ヶ月間郡内各町村部落ニ涉リ農家小組合組織ニ關スル講演會ヲ開催セリ

ニ、縣立農林學校ニ普通農科設置陳狀委員出縣費補助

縣立農林學校ニ農科附設建議ノ爲メ郡會議員及町村長會總代出縣ノ舉アルニ當リ本會ハ特ニ本學科ノ設置ハ郡農業開發上多大ノ裨益アルベキヲ認メ其費用ヲ補給セリ

日田郡教育會

本郡教育界ニ於テハ明治十九年五月日田郡小學校教員月次講習會ヲ組織シテ教授上ニ關スル諸問題ヲ研究講習シツ、アリシガ二十年九月日田郡教育研究會ト改稱シ二十三年九月別ニ日田郡教員講習會ヲ開設ス二十五年十一月ニ至リテハ日田郡教育會ヲ組織シ曩ノ研究會講習會ハ之ヲ本會ノ附屬事業トナシ翌二十六年四月第一回總會ヲ開キ以テ今日ニ及ベリ此間ニ於ケル沿革及事業ノ概要左ノ如シ

明治二十九年 玖珠郡教育會ト聯合教育會ヲ組織ス

明治三十一年 本年度ヨリ郡費ノ補助ヲ受ク

明治三十三年 會員ハ小學校教員ニ限リシヲ町村ノ有志ヲ加フルコト、ス

同 年 教員研究會ヲ五部會ニ分ツ

明治三十七年 會費徵收規程ヲ設ク

明治三十九年 大分縣教育會支部トナル

大正三年 教育調査部ヲ設ク

I 研究會

明治三十三年七月以降毎月開會セル各部會研究事項左ノ如シ

研究發表 實地授業

教材研究 視察談
 相互視察 同學年研究會
 校務上ノ打合 體操唱歌等技術上ノ練習

年次	期間	講習學科	講師	講習員	經費
明治二十七年	一〇	國語算術唱歌 體操	門田嘉一郎 長尾 薫	四八	不詳
同 二十九	一〇	心理學算術	小野正路	四七	一〇
同 三十一年	一〇	單數教授理論及實地	宇都宮喜六	六〇	三三
同 三十二年	五	體操	小野新六	五〇	三
同 三十三年	四	大分縣共立教育會主催講習會 教育算術體操	大林龜太郎 小野新吾	一〇	五〇
同 三十四年	一〇	農業體操遊戲	小川運平 安江墨吉	三九	一二
同 三十五年	七	昆蟲學唱歌遊戲	小川運平 麻生美造	九八	五二
同 三十六年	七	教育學數學唱歌 手工	石井善七 麻生美造	六〇	二六
同 三十七年	一〇		長尾 薫	七四	四〇

年次	期間	講習學科	講師	講習員	經費
同 三十八年	七	各科教授法唱歌 算術國語教授法	澁谷繁藏 麻生美造	一一〇	五〇
同 三十九年	一〇	應用心理體操	富永岩太郎 尼子止	一〇九	二三〇
同 四十年	八	讀方算術教授	須子信之	一〇八	一〇
同 四十年	七	心理學教授法	富永岩太郎	一四二	一四九
同 四十年	七	理科教材ノ解說	和田信一	一四〇	六〇
同 四十一年	七	地理圖書教授法	井上俊宏	一五〇	四〇
同 四十二年	七	地歴手工	大元茂一郎 藤五代策	一五九	二五九
同 四十三年	五	倫理國語教授法	吉田靜致 伊藤米二郎	一六五	二七八
同 四十四年	七	裁縫	高見末壽	七八	四〇
同 四十四年	六	東洋倫理學	遠藤隆吉	二〇〇	二五〇
同 四十四年	三	作法教授法	福田 潤	一九八	二五
大正元	七	國定讀本教材研究 及教授法	馬上孝太郎	一二〇	二五〇
同 二年	三	改正體操	伊藤啓八	二〇五	四七
同 三年	六	圖書綴方教授法	松本 弘 友納友治郎	一六九	二〇〇
同 四年	三	自治民育	村田宇一郎	二二九	九九

3 通俗談話會

明治三十三年以來引キ續キ郡内各町村ニ開催シ通俗教育上ノ効果尠カラズ大正元年度以降ハ毎年大分縣教育會ヨリ補助金ヲ受ク最近ニ於ケル活動ノ大略左ノ如シ

開催度數

大正元年度ニ於テ二十七回大正二年度ニ於テ三十一回大正三年度ニ於テ二十六回本年度ニ於テ十二回就中大正二年度ニ於ケル久留島武彦氏ノ講演本年度ニ於ケル天野維彦氏ノ講演(十二ヶ所ニ開催)及前記久留島武彦氏ノ時局ニ關スル講演ノ如キハ聽衆ニ多大ノ感動ヲ與ヘタリ

4 學事視察

年 度	視 察 地	視 察 員 氏 名
明治三十二年	福岡縣	片島榮市 古野福市
同 三十三年	奈良縣	大林龜太郎 千原祐二郎
同 三十四年	愛知縣岐阜縣長野縣	小野京市 益永忠雄
同 三十五年	四國 中國	野田若市 琴谷柳三郎
同 三十八年	福岡縣	岩尾新藏 今永千代吉 今村正觀
同 年	熊本縣	佐藤正太郎 衣川保彦
同 年	宇佐郡下毛郡西國東郡	片島榮市 清瀧屯
同 年	玖珠郡	

同 三十九年	福岡縣 佐賀縣	安永林太郎
同 年	鹿兒島縣	伊藤 隼
同 年	玖珠郡 大分郡	三俣直記 梅原清治
同 年	福岡縣	佐藤寛十郎 相原吉次 北 時太
同 年	宇佐郡 下毛郡 西國東郡	村岡常次郎
同 年	熊本縣	安心院紋吾
同 年	福岡縣	藤 報因
同 年	速見郡	佐藤寛十郎 屋並富吉 菊地久治
同 年	同	大内甚六 小溝恒作 淵 嘉市
同 年	大分郡	立花一雄 加來 悟
同 年	福岡縣	角野善次 功能唯一
同 四十年	熊本縣	桑野隼太郎
同 年	山口縣 福岡縣	高原力太郎
同 年	福岡縣 長崎縣 佐賀縣	松林謙治
同 四十二年	愛媛縣	野村正眼
同 年	岡山縣 廣島縣	後藤貞義 今仁泰吉
同 四十二年	京都府 滋賀縣	大内甚六
同 年	奈良	有村 悟
同 年	福岡縣	高田龜市 小谷光之亟 杉木善米

年	月	會期	會場	出品物種類	出品點數	經費
明治四十三年		同	福岡縣	森山繁喜		
同		同	同	藤木龜雄 梶原伊三郎 高倉藤太		
同		同	同	帆足陸次 橋本鷹米 定行貞雄		
明治四十四年		同	京阪地方	坂本數雄 蒲地勝鎮		
同		同	福岡縣	小野京市 草野富吉		
同		同	同	野田正行 桑野勝藏		
同		同	同	丸尾鴻治 熊谷新六		
同		同	同	橋本茂 吉武與市		
同		同	同	小松惠恭 小野種次		
大正元年		同	靜岡縣	小野京市		
同		同	大分市	清瀧屯 大藏光雄 田代友市 浦塚彦治郎		
同		同	宇佐郡 下毛郡 西國東郡	片島榮市 淵嘉市 河野常五郎 大内瀧次		
同		同	福岡縣	野田若市 古野福市		
同		同	熊本縣	大内甚六 蒲地良太 西倉吉 鈴木昂一		
同		同	福岡縣	高原力太郎 深草滿 平野三郎 武内清		
同		同	大分市	今永千代吉 松林謙治 日野益太 中村立藏		
同		同	熊本縣	小山田精一 御橋不二男 小畑守 田崎茂		
同		同	熊本縣	森山村太 安永林太郎 甲斐米藏 高瀬久米藏		
同		同	熊本縣	高瀬壽吉 橋本香列 長尾龍太郎 北時太		
同		同	熊本縣	日野大治		

5 展覽會

年	月	會期	會場	出品物種類	出品點數	經費
明治三十年八月		五日間	日田町鍾秀館	習字 圖畫 作文 裁縫 及參考品	五、七六五	六五
同三十五年五月		三日間	日田郡高等小學校	書方 綴方 圖畫 手工裁縫及教師ノ意匠品	一、七二六	一〇〇
同三十九年十月		同	日田高等小學校	算術 書方 書取 圖畫 手工裁縫 農藝品	一七、八八四	二三二
自大正三年		同	郡內各小學校ニ於テ各二週間	書方 圖畫 綴方 及教師研究物	出品物各學校ニ 順次送附シ各校 各自之ヲ開ク	

6 功勞者旌表

明治三十六年日田郡小學校教員功勞者旌表規程ヲ設ケ爾來旌表シタルモノ左ノ如シ

十年以上本郡小學校ニ勤績ノ爲旌表シタルモノ 四十七名

十年以上皆勤ノ爲旌表シタルモノ 三名

五年以上 同上 二十一名

三年以上 同上 三十四名

7 巡回文庫

明治四十五年度ヨリ日田郡教育會巡回文庫規程ヲ設ケ書籍ヲ購入シ郡內各小學校ヲ順次巡回シ教員生

徒ハ勿論洽ク公衆ニ閲覽セシムル方ヲ採レリ購入シタル書籍及購入費左ノ如シ

一二四

年 度	書籍購入冊數	同 上 價 格
明治四十四年	四九	三八
大正元年	三六七	九二
同 二年	一二一	六九
同 三年	六八	六二

8 教育上ノ諸調査

大正三年二月教育調査部規程ヲ設ケ初等教育部、實業教育部、社會教育部、女子教育部ノ四部ニ分チ各部ニ委員長及委員ヲ置キ會長ノ諮問ニ對シ諸問題ヲ調査報告スルコト、セリ已ニ調査ヲ遂ゲタル問題左ノ如シ

- イ、各種學校ノ夏期休業中生徒及兒童ニ對スル指導ノ程度並ニ方法
- ロ、小學校ニ備付スベキ教授用具調査
- ハ、國民性ヲ振興シ體力ヲ増進セシムベキ施設及實行方法
- ニ、青年ヲシテ尙一層禮法ニ習熟セシムル方案
- ホ、本郡出身又ハ本部ニ縁故アル偉人ノ肖像取調

經費

年 度	郡 費		支 出						計
	補助	會談費	視察費	會談費	旌表費	巡迴文庫費	珠日田聯合教育會	其他	
明治三十一年	五〇	—	—	—	—	—	—	—	五〇
同 三十二年	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	一〇〇
同 三十三年	二五〇	—	—	—	—	—	—	—	二五〇
同 三十四年	三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	三〇〇
同 三十五年	三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	三〇〇
同 三十六年	三〇〇	—	—	—	—	—	—	—	三〇〇
同 三十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—

一二五

同 三・年	400	109	110	100	35	90		379	933
同 四年	450	146	110	110	35	100	展覽會	358	1,119

一三六

備考 四十二年度ニ於テ其ノ他ノ支出多キハ圖書館設置取調費二百圓餘ヲ費シタルニ依ル
大正三年度以降ニ於テ其他ノ支出多キハ五部研究會費ノ特別經濟ナリシヲ本會計ニ編入シタルニ依ル

日田郡農會事業概要

獎勵事項

說 明

短冊形苗代及正條植獎勵

明治三十八年縣令第二一號ニヨリ短冊形苗代及正條植實施ノ法ヲ定メラレシヲ以テ以來本會ハ極力コノ趣旨ノ徹底ニ勉メタリ

技術員設置

明治三十三年ヨリ同四十年迄ハ普通農業及蠶業ノ指導ヲナス兩技手ヲ設キシガ四十年以降ハ之ヲ廢シ縣農會ニ於テ農業蠶業兩技手ヲ郡ニ駐在セシメ居リシモ大正四年度ヨリハ蠶業ハ郡ニ移リ本會ニハ農業技手ノミ在勤ノコト、ナレリ

町村農會品評會獎勵

町村農會ニ於テ各種農產物品評會ヲ開催セシメ當業者ノ競争心ヲ喚起スルニ努メタル結果現今ニテハ各町村ヲ通ジ必ズ一種以上ノ品評會ヲ開催スルニ至レリ從來各町村ニ一ヶ所宛米麥原種田ヲ設置シツ、アリシモ大正四年度ニ於テハ郡内ヲ通ジ米麥共ニ八反歩ノ原種田ヲ設置シ左記方法ニヨリ良種ノ普及ヲ計ラントス

米麥原種田設置

米麥良種ノ普及

米ハ三ヶ年目麥ハ四ヶ年目ヲ以テ郡内全作付反別ニ良種ヲ普及セシメン爲メ米種子二十五石麥種子十五石ヲ各町村農會ニ無代配付ヲナシ町村農會ハ更ニ採種田又ハ篤農家ニ栽培セシメ居レリ

鹽水選獎勵

明治四十四年以前ハ單ニ鹽水選ノ獎勵ニ止マリシモ同年以後ハ選種組合ヲ設ケ固形苦鹽ノ無代配付ヲナシ専ラ之ガ勵行ニ努メタル結果今ヤ郡内全般ニ普及セリ

米麥增收試作田設置

大正二年度ヨリ郡内六ヶ所ニ米麥增收試作田ヲ設置シ增收方法ノ普及ヲ計リツ、アリ

米四石會設置

大正三年度ヨリ米四石會麥三石會ヲ組織シ增收ヲ計リツ、アリ

病害虫驅除豫防

各種農作物病害虫驅除豫防ニ努メツ、アリ

農事打合會

明治四十年ヨリ毎年一回若クハ二回各町村農會長勸業主任篤農家ヲ召集シ農事改良ニ關スル協議會ヲ開催セリ

堆肥及厩肥ノ改良

大正二年度ヨリ特ニ改良堆肥舍ノ建設、堆肥品評會ノ開催堆肥製造方法ノ傳習會ヲ開催シツ、アリ

綠肥栽培獎勵

綠肥ハ之ガ栽培普及ニ努ムルト共ニ紫雲英種子ノ共同購入ヲ獎勵シツ、アリ

肥料共同購入獎勵

近時金肥ノ施用漸次増加シツ、アルヲ以テ之ガ配合上ノ注意ヲ促スト共ニ肥料共同購入ノ斡旋ヲナセリ

蔬菜改良獎勵（明治四十年度ヨリ毎年優良蔬菜種子ノ配付ヲナシ之ガ改良ヲ計リツ、アリ）
 果樹ノ改良獎勵（本郡ハ梨、柿ノ産額少カラザルモ其品質劣等ナルヲ以テ之ガ改良方法トシテ苗木及穂木無代配付ヲナセリ）
 産業組合組織獎勵（明治三十三年産業組合法發布以來専ラ該組合組織ノ獎勵ヲナセリ）
 小組合組織獎勵（農事改良事項ノ實行ヲ期スル爲メ小組合組織ノ獎勵ヲナシツ、アリ）
 視察員派遣（視察員ヲ先進地ニ派遣スルト共ニ郡内四石會員相互ノ視察會ヲ開催シツ、アリ）
 倉庫庫燻蒸（大正三年度以來倉庫内害虫驅除ノ爲メ二硫化炭素燻蒸ヲ行ヒ其普及ニ努メツ、アリ）

町村農會技術員設置（大正三年度ヨリ町村農會ニ技術員ノ設置ヲ獎勵シ本年度ニ於テ五ヶ村農會ニ技術員ヲ設置セリ）

大典記念講習會（大典記念事業トシテ本年八月二十七日ヨリ三十日迄四日間阿部大分縣技師ヲ聘シ農事講習會ヲ開催シ三百九十三名ノ講習生ニ對シ證明書ヲ授與セリ）

日田郡農會沿革概要

本郡農會ハ明治十五年ノ頃日田郡農談會ナルモノヲ組織シ農事ニ關スル意見ノ交換ヲ爲シ以テ郡ノ勸業方針ヲ定メ斯道ノ獎勵ヲ爲シタルニ胚胎ス然ルニ明治二十三年二月郡内農事調査會ナルモノヲ設ケ各町村ニ調査委員ヲ置キ専ラ農事ノ改良發達ヲ企圖シ稍々其結果ノ見ルベキモノアルニ至レリ斯クテカ手續ヲ爲シ以テ今日ノ農會ヲ見ルニ至レリ

日田郡農會經費收支一覽表

年 度	收入 豫算	收入 決算	比 較		支出 豫算	支出 決算	比 較	
			増	減			増	減
明治三十三年	八二六・〇〇〇	八五三・七七九	二七・七七九		八二六・〇〇〇	六九七・三三六	一二八・六六四	
同 三十四年	一、五三八・九三三	一、五七一・六三六	三二・七〇三		一、五三八・九三三	一、五六九・二六五	三〇、三三三	
同 三十五年	一、九六九・六一二	一、七七五・三三五	一九四・二七七		一、九六九・六一二	一、七七五・三三五	一九四・二七七	
同 三十六年	一、七五〇・〇〇〇	一、〇三〇・一一〇	八九〇・五七七		一、七五〇・〇〇〇	九四一・〇五三	五七六・八二二	
同 三十七年	九四一・〇五三	一、三九五・八二五	三九四・七七二		九四一・〇五三	一、三三八・四四三	四〇七・三九〇	
同 三十八年	一、三九五・八二五	二、二六二・一六一	九二六・二八六		一、三九五・八二五	二、一三三・九六七	七二二・六〇八	
同 三十九年	二、三〇六・五七五	二、四四一・四〇九	一三四・八三四		二、三〇六・五七五	二、一三三・九六七	一七二・六〇八	
同 四十年	二、四四五・〇一九	二、五二一・四〇九	七六・三九〇		二、四四五・〇一九	二、三三八・九八〇	一〇六・〇三九	
同 四十一年	三、五六五・四一四	三、五二五・四一一	四〇〇・〇〇三		三、五六五・四一四	三、五〇二・四三三	六二・九八二	
同 四十二年	四、六六三・四二一	四、六五八・九八八	四・四三三		四、六六三・四二一	四、三八四・九二三	二七八・四九八	
同 四十三年	四、八二九・四二一	四、八一二・一三三	一七・三〇八		四、八二九・四二一	四、五一九・九〇〇	三〇九・五二二	

明治四十四年	四、四九九、一九五	四、二四三、二三七	二、一五、九五八	四、四九九、一九五	三、九三八、六四二	五、二〇、五五三
明治四十五年	五、四七一、二四五	五、二〇二、一九六	二、六九、〇四九	五、四七一、二四五	四、九二五、六一六	五、四五六、二九
同 二年	四、六九四、九三〇	四、四八三、六六四	二、一、二六六	四、六九四、九三〇	四、四四四、一八九	二、五〇、七四一
同 三年	四、九六三、四九〇	五、〇一五、七七七		四、九六三、四九〇	四、九〇九、三七七	五、四、一三
同 四年	三、〇三七、九五〇	五、二二八、七		三、〇三七、九五〇	四、九〇九、三七七	

日田郡産牛馬組合沿革

本組合ハ明治三十六年十一月光岡村千原祐二郎外二十名發起トナリ創立事務所ヲ日田町ニ置キ各員自ラ東奔西走シテ組合設立ノ必要ヲ説キタルニ胚胎ス爾來幾多ノ困難ヲ排シテ産牛馬組合法ニ依ル諸般ノ調査準備ヲ整成シ同年十二月十五日組合創立總會ヲ開キ必要ナル諸件ヲ決議シ同三十七年一月二十二日認可ヲ得テ爰ニ始メテ創立ス

本組合創立後ノ業務

- 一 牛馬品評會 明治三十七年ニ始メ今尙持續
- 二 牛馬飼育法ノ指導 同 年ニ始メ今尙持續
- 三 馬糶市開催 同 年ニ始メ今尙持續
- 四 種牡牛購入(組合有) 明治三十七年ニ始メ今尙持續
- 五 種牡馬購入(同) 同 年ニ始メ今尙持續

- 六 種牝馬購入獎勵(個人有) 明治四十一年ニ始メ今尙持續
- 七 種付所設置 明治四十年五馬村ニ設置今尙持續
- 八 牛馬品種ノ改良及蕃殖獎勵 明治四十三年中津江村ニ設置今尙持續
- 九 種牡牛管理費及同種付料補助金支出 明治四十二年技手ヲ置キ獎勵ス持續
- 一〇 畜産講話會開催 明治四十二年ヨリ同四十五年ニ至ル組合有種牡牛繁殖期管理者ニ給與シタルモノ及ヒ縣有種牛派遣中獎勵ノタメ種付料ヲ補助シタルモノナリ
- 一一 畜産講話會開催 明治四十五年ニ始メ今尙持續
- 一二 獸疫豫防 同 年ニ始メ今尙持續
- 一三 優良駒犢保留補助 明治 四十四年ニ始メ今尙持續
- 一四 種牡牛馬購入補助 大正元年ニ始メ今尙持續
- 一五 種牡牛馬改良獎勵補助 大正四年ニ始メ持續ノ見込
- 一六 牛馬ノ去勢 明治三十九年ニ始メ今尙持續
- 一七 國有種牡馬派遣申請 同 四十年ヨリ五馬村種付所
- 一八 國有種牡牛 同 四十三年ヨリ中津江村種付所
- 一九 縣有種牡馬 大正四年ニ始メ持續ノ見込
- 二〇 縣有種牡牛 明治四十三年ヨリ方今持續
- 二一 組合基本金ノ積立 同 四十三年ヨリ方今中絶
- 二二 大正元年ヨリ積立現在壹千圓餘

二一 種畜購入基金積立

組合經費及蕃殖年別表

年別	組合員數	牛馬		種牡馬	種牡牛	金郡補助額	組合經費
		牛	馬				
明治三十七年	一、二九二	馬牛	四五九				一八二・七五
同 三十八年	一、四二七	馬牛	二二五				一七九・七八
同 三十九年	一、五〇四	馬牛	三九八				一四六・三三
同 四十年	一、六三六	馬牛	七九				一三〇・五八
同 四十一年	一、四〇一	馬牛	三九九				一八〇・七九
同 四十二年	一、四五五	馬牛	七二				一八〇・八三
同 四十三年	一、五二八	馬牛	一〇六				二一〇・六五
同 四十四年	一、五一三	馬牛	一六一				二一〇・六五
大正元年	一、四一六	馬牛	一五〇				二一〇・六五
同 二年	一、四一四	馬牛	一五〇				二一〇・六五
同 三年	一、四三五	馬牛	一五〇				二一〇・六五

大正四年ヨリ積立現在拾圓

一四二

糶市牛馬年別表

年別	牛		馬		計
	牝	牡	牝	牡	
明治三十七年	五八	六四			一二二
同 三十八年	六三	九九	二一	一九	一〇二
同 三十九年	五三	一〇三	一七	二九	一〇二
同 四十年	七一	一〇三	一九	四六	二二七
同 四十一年	六五	一六二	二二	二七	二七七
同 四十二年	一二六	二二九	三二	四五	四四二
同 四十三年	一六五	二一九	二九	三五	四四九
同 四十四年	二〇八	二二二	三四	四四	五〇八
大正元年	二四一	二〇〇	六五	六〇	五六六
同 二年	二四三	二四六	六四	七六	六三九
同 三年	二九九	二四九	六五	八四	六九七

一四三

牛平均額

年次	牝	牡
明治三十六年	八,五〇〇	七,九〇〇
同三十七年	九,一〇〇	六,五七〇
同三十八年	一八,二二六	一七,九三六
同三十九年	二四,五四〇	一四,九一六
同四十年	三四,八五九	一八,九五三
同四十一年	三七,九八八	一九,八九二
同四十二年	一七,五八七	九,〇五〇
同四十三年	一七,七八二	四,七〇五
同四十四年	一〇,六一一	四,七七七
大正元年	一六,九七四	九,一一三
同二年	一〇,五〇〇	一三,八四四
同三年	二一,〇〇〇	一三,〇〇〇

馬平均額

年次	牝	牡
明治三十六年	一三,八〇〇	一五,〇〇〇
同三十七年	一五,〇九〇	一四,四〇〇
同三十八年	二二,四七六	一七,九三七
同三十九年	二二,六二五	一八,七〇〇
同四十年	二〇,六三一	二二,九六九
同四十一年	一八,四六九	一九,二九二
同四十二年	一八,一七八	二一,五四九
同四十三年	一八,二二九	一五,五六〇
同四十四年	一六,四六七	一六,九二九
大正元年	一九,八六四	二一,六〇〇
同二年	一九,五二〇	二三,一一六
同三年	二七,〇〇〇	三五,〇〇〇

町村名	牛馬數		蕃殖牝牛馬數		生産駒犢	
	牝	牡	牝	牡	牝	牡
五馬	七三五	八八	五六二	二五二	六七	七三
馬	三三四	三	二五二	二五二	三三	二六

計	田	明	日	野	和	岡	鶴	芳	田	瀬	花	江	原	田	山	江	江	川
四、四四二	八五	一〇五	一三四	一〇〇	二八六	一一二	一九四	一六九	二二〇	九九	二二五	二〇七	一八四	三六六	二八八	二八六	二八〇	三七七
一、四六九	二二	一一	四三	七三	二一	六二	一一	一一	一八	八三	一五	九六	一五二	四九	一六〇	一一六	一六三	七一
一、三八四	四九	一四	二一	二	一三	七	一五	二八	四	二九	二五	四二	九	二二	一九八	一八三	一一八	一五〇
九九〇	一〇一	六	二五	四八	八〇	七八	六一	五七	九二	一三三	四九	五八	六	九〇	四七	七	二二	二六
一、八五七	六	二	八	二	六	九	二〇	一一	一五	二四	二五	一五〇	一〇四	一三〇	一五三	一八二	一四八	二七九
六五〇	二	一	二	一	二	二	二	六	六	六	五	二	九	八	九	〇	八	八九
二二七			四	三		二	六		一	三	二	一	八	一〇	七	一八	二〇	四九
一九一							六	二		二	二	一	五	六	四	九	二	二九
三八									二	一					二	一		八
五〇								一	二						四			一四

一、忠死軍人

西南ノ役

西有田村平民

陸軍兵卒

中島

新吉

右ハ明治十年三月十五日熊本縣玉名郡二俣村横平山ニテ負傷同月二十日久留米病院ニテ死亡

東有田村平民

陸軍歩兵卒

秋吉

兼吉

右ハ明治十年三月三日熊本縣玉名郡木葉ニテ戦死

大鶴村平民

陸軍兵卒

野中

辰吉

右ハ明治十年八月日不詳大分縣北海部郡臼杵町ニテ負傷同月十五日鶴崎病院ニテ死亡

日田町平民

陸軍歩兵卒

高瀬

織平

右ハ明治十年三月二十五日熊本縣飽田郡松崎村ニテ戦死

右ハ明治十年四月二十四日熊本縣下竹宮ニテ戰死

日田町平民
陸軍歩兵卒
吉田亥之助

右ハ明治十年七月二十一日大分縣大野郡豊岡村黒土峠ニテ戰死

日田町平民
陸軍歩兵卒
梶原善藏

右ハ明治十年一月十五日熊本坪井六間町ニテ戰死

馬原村平民
陸軍歩兵二等卒
穴井善市

右ハ明治九年十月二十四日熊本縣熊本鎮臺ニテ戰死

五和村平民
陸軍歩兵卒
瀧下寛市

右ハ明治十年四月三日熊本縣熊本鎮臺ニテ戰死

五和村平民
陸軍歩兵卒
中村末藏

右ハ明治十年四月十二日熊本縣熊本鎮臺ニテ負傷同月二十六日長崎病院ニテ死亡

五和村平民
陸軍歩兵卒
宮崎七治

右ハ明治十年四月二十日熊本縣田原坂ニテ戰死

高瀬村平民
陸軍歩兵卒
江川熊吉

右ハ熊本縣植木ニテ負傷明治十年十月十二日大阪病院ニテ死亡

高瀬村平民
陸軍歩兵卒
梶原筆造

右ハ明治十年五月十四日熊本縣阿蘇郡馬見原ニテ戰死

中津江村平民
陸軍歩兵卒
杉野直次郎

右ハ明治十年六月二十四日大分縣下赤松峠附近ニテ戰死

大山村平民
陸軍歩兵卒
小野光次

中川村平民

陸軍歩兵卒

小關 嘉市

右ハ明治十年四月二十日肥後國竹宮ニテ戰死

日露戰役

西有田村

陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

佐藤 龜藏

明治三十七年十月十一日戰死

東有田村

陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章

佐藤 常次

明治三十七年六月七日戰死

東有田村

陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

中島 平助

明治三十七年十月十一日戰死

東有田村

陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

長尾 圓次

明治三十八年三月七日戰死

東有田村

陸軍輜重輸卒勳八等白色桐葉章

長尾 福藏

明治三十八年三月九日戰死

三花村

陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章

東堂 庄市

明治三十七年六月七日戰死

三花村

陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

大内 徳二

明治三十七年八月二十六日戰死

三花村

陸軍工兵伍長勳七等青色桐葉章及功七級金鷄勳章

廣瀬 稻次郎

明治三十七年十月四日戰死

三花村

陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章

貞清 康太

明治三十七年十月十一日戰死

三花村

陸軍工兵上等兵勳八等白色桐葉章

森山 忠八

明治三十七年十一月二十九日戰死

大鶴村

陸軍歩兵伍長勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

石井 安太

明治三十七年八月二十六日戰死

大鶴村

陸軍歩兵伍長勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

菅 稻吉

明治三十七年九月二日戰死

光岡村

陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

諫山 重太郎

明治三十七年十月十二日戰死

光岡村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 鹽川 丈吉
明治三十七年十月十二日戰死

日田町 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 藤野 重三
明治三十七年七月三十一日戰死

日田町 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 高木 市造
明治三十七年九月二日戰死

三芳村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 小野 伊勢吉
明治三十七年八月二十六日戰死

三芳村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 小野 大吉
明治三十七年十一月十一日戰死

三芳村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 日高 雪次
明治三十八年三月十八日戰死

馬原村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 梅山 喜市
明治三十七年十月十一日戰死

馬原村 陸軍輜重輸卒勳八等白色桐葉章 岩下 武三
明治三十八年三月九日負傷同十四日死亡

五和村 陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 堀田 藤作
明治三十七年七月三十一日負傷後死亡

高瀬村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 平井 玉吉
明治三十七年十月十一日戰死

高瀬村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 福田 八郎
明治三十七年十月十一日戰死

高瀬村 陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章 横尾 民造
明治三十八年三月十日戰死

中津江村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章 竹原 朝市
明治三十七年九月五日戰死

中津江村 陸軍砲兵一等卒勳八等白色桐葉章 大籠 梅吉
明治三十七年九月十一日戰死

上津江村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

足達 八十吉

明治三十七年十月十一日戰死

上津江村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

上田 末平

明治三十七年十月十一日戰死

上津江村 陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章

川村 万作

明治三十七年十月十一日戰死

上津江村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

矢野 爲光

明治三十七年十月十二日戰死

上津江村 陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

田中 丈吉

明治三十七年十月十二日戰死

大山村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

矢羽 田利作

明治三十七年十月十二日戰死

大山村 陸軍歩兵一等卒勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

小野 章三

明治三十八年三月四日戰死

大山村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

三 筈 範 次

明治三十八年三月十六日戰死

中川村 陸軍砲兵伍長勳七等青色桐葉章及功七級金鵝勳章

日隈 久米次

明治三十七年八月二十二日戰死

中川村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

高瀬 喜市

明治三十七年九月二日戰死

中川村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

小野 權市

明治三十七年九月五日戰死

中川村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

小野 森藏

明治三十七年九月十七日戰死

五馬村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鵝勳章

河津 春吉

明治三十七年十月十一日戰死

五馬村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章

宮崎 佐吾

明治三十七年十月十一日戰死

五馬村 陸軍歩兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

山崎源市

明治三十八年三月九日戰死

小野村 海軍大尉正七位勳五等雙光旭日章及功五級金鷄勳章

權藤薰義

明治三十七年六月二十七日戰死

夜明村 海軍一等水兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

原初太郎

明治三十七年五月二十日戰死

光岡村 海軍三等水兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

田崎銀藏

明治三十七年十月二十五日戰死

五和村 海軍三等機關兵曹勳七等青色桐葉章

大友次八

明治三十七年五月十五日戰死

五和村 海軍四等水兵勳八等白色桐葉章

森松農作

明治三十七年五月十五日戰死

高瀬村 海軍四等水兵勳八等白色桐葉章

高瀬由太郎

明治三十七年五月十五日戰死

韓國暴徒鎮壓

小野村 陸軍歩兵二等卒勳八等白色桐葉章

冷川徳市

明治四十一年七月二十二日戰死

中川村 陸軍歩兵二等卒勳八等白色桐葉章

鈴木忠治郎

明治四十一年六月十五日戰死

大正三年日獨戰役

五馬村 陸軍工兵上等兵勳八等白色桐葉章及功七級金鷄勳章

山中改藏

大正三年十一月十一日戰死

馬原村 陸軍砲兵上等兵勳八等白色桐葉章

江田福松

大正三年十一月十一日負傷同二十六日死亡

無恒産因無恒心

今日と暮あすの用意の木槿哉

月 化

一、大典記念事業調

町村名	計劃者	事業
西有田村	有田小學校 西有田村青年會	氏神社境内ノ修理及樹栽 殖林、養魚、頼母志講、里道修繕、桑園、原野開拓、秣草場整理
東有田村	東有田村 東有田小學校 月出山小學校 羽田小學校	五百餘戸毎戸柿樹三本宛植栽 月桂樹、楠樹植付 果樹園五畝歩 果樹園二畝歩、茶園三百株、楠樹 楠、松、杉、檜ノ樹栽
三花村	三和小學校 花月小學校 三花村青年會	果樹園二畝歩、實習五畝歩擴張、學校基本財産蓄積 學校基本財産蓄積、兒童文庫、兒童貯金、記念林 校庭樹植、杉植林二反歩
小野村	小野村及小學校 小野村青年會 鶴城小學校	造林 消防組ノ組織 果樹苗ヲ兒童ニ配付 植林三反三畝歩定期貯金 記念林設置
大鶴村	鶴城青年矯風會 靜修青年會	

町村名	計劃者	事業
夜明村	夜明小學校 夜明村青年會	記念樹植栽 青年文庫、造林經營、
光岡村	光岡小學校	社寺境内ニ記念樹植付
朝日村	朝日小學校	果樹栽植、校庭樹植
日田町	日田男子小學校 日田女子小學校 日田町、誠進團 上竹田青年會 日進青年會 東町青年交親會 深川青年自疆會	學校園ノ完成 學校池設置 神社境内ニ樹栽 竹田川原ニ樹栽 神社境内ニ樹栽 村道ノ改修 青年文庫、養魚
日田町	上城內青年會 下城內青年會 榮町青年會	神社境内ニ樹植 慈眼山ニ花木各自所有地ニ柿樹植付 植樹
三芳村	日高小學校 元宮小學校 田島青年會 日高青年會 求來里青年會	造林一反歩 里道修繕 柿樹栽培、頼母志講 神社境内ニ楠樹植

馬原村	五和村	高瀬村	前津江村	中津江村
馬原小學校 高尾小學校 石井小學校 石井小學校 堂尾青年會 內河野青年會	石井小學校 小山小學校 石井青年會 堂尾青年會	高瀬小學校 荒平青年會	大野小學校 赤石小學校 出野小學校 柚木小學校	川邊小學校 大正青年會 戊申青年會 鯛生青年會
校庭樹植、卒業生會 柵植林二町步六千本、校庭樹栽	文庫設置 文庫設置、校庭及神社境內樹植 圖書館設置 造林	道路並木 松苗 八百本 神社境內樹栽、每年記念講演會 植林一反步松五百本	造林五反步櫟二千五百本 造林十町步杉四萬本三年計劃 杉ノ植栽 神社境內ノ整理及樹栽、柿樹植付 柿樹植栽、一日一善日誌ノ記載	同前 同前 果樹園 賴母志講 記念林

上津江村	大山村	中川村	五馬村
川原小學校 大山村 丸山小學校 臺小學校	丸山小學校 臺小學校	五馬市小學校 塚田小學校 出口小學校	五馬市小學校 塚田小學校 出口小學校
植林、杉二千本 學校基本財産蓄積	植林 植林三反步	果樹園、戶主會組織 茶園、校庭樹栽、兒童貯金 植林一反步	果樹園、戶主會組織 茶園、校庭樹栽、兒童貯金 植林一反步

一、生産物價額調

大正三年事實

町村名	種別	西	東	三	小	大	夜	朝	光	日	三	馬	五	高	前	中	大	馬	計		
馬原村	米	五八五〇〇	四四一五八	四〇〇	五五九二	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	二七四〇	
五和村	米	四七五〇	三九四〇	一七〇	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	三三九	
高瀬村	米	三三二	一八〇	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	
前津江村	米	八三二	一〇八六	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	三三二	
中津江村	米	二四八	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇	
五馬村	米	三〇〇〇	七五〇〇	四五〇〇	七九〇	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九	四三九
計		二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	

